



神経化学

Bulletin of the Japanese Society for Neurochemistry

Vol.53 (No.2), 2014

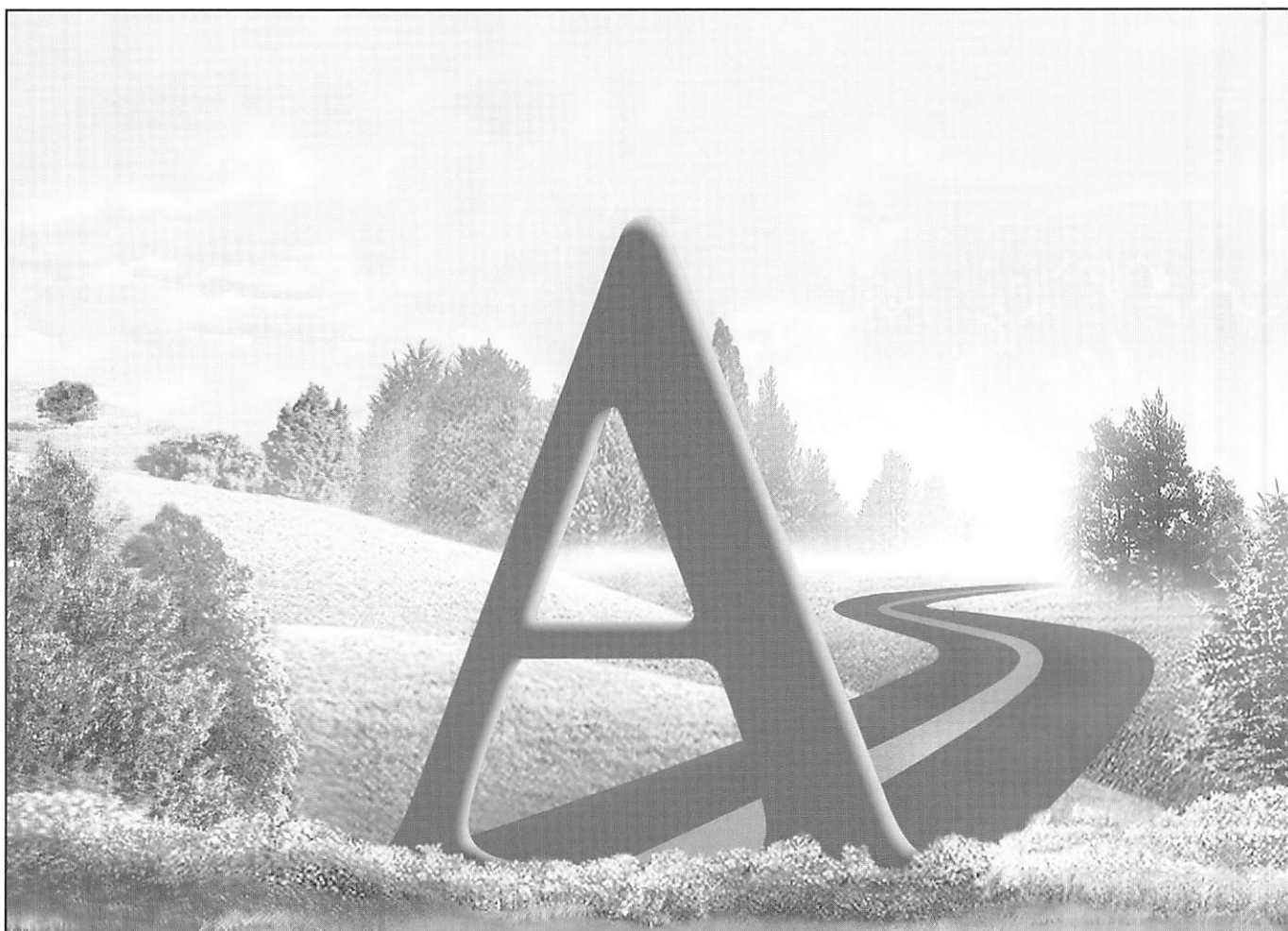
第57回日本神経化学会（奈良）大会

第36回日本生物学的精神医学会

合同年会

プログラム号

平成 26 年 9 月



ABILIFY®

抗精神病薬

劇薬、処方せん医薬品

注意—医師等の処方せんにより使用すること

エビリファイ®

錠 3mg	OD錠 3mg
錠 6mg	OD錠 6mg
錠 12mg	OD錠 12mg
散 1%	OD錠 24mg
内用液 0.1%	

ABILIFY®〈アリピプラゾール製剤〉 薬価基準収載

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意及び用法・用量に関連する使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

 製造販売元
大塚製薬株式会社
Otsuka 東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先
大塚製薬株式会社 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

目 次

第 57 回日本神経化学会・総会の開催について	巻頭
ご挨拶.....	59
大会委員一覧.....	60
交通のご案内・会場周辺案内図.....	62
会場案内図.....	63
大会日程概要.....	65
大会日程表.....	68
プレナリーレクチャー.....	71
JSN-ISN Joint Symposium	72
特別プログラム.....	73
Interactive Case Conference 1~2	73
臨床精神医学 VS 神経化学.....	73
若手国際交流プログラム.....	73
神経化学教育口演セッション 1~3	74
2014 年度日本神経化学会優秀賞受賞講演	75
シンポジウム.....	76
一般口演.....	84
ランチョンセミナー.....	88
大会参加者へのご案内.....	90
座長へのご案内、口演発表者へのご案内.....	93
ポスター発表者へのご案内.....	95
発表資料の配色についてのお願い.....	96
特別企画のご案内.....	97
受賞者一覧.....	99
謝辞.....	101
学会からのお知らせ.....	103
理事会議事録.....	109
次期大会のご案内.....	121
学会掲示板.....	122
賛助会員.....	130
投稿規定.....	131

2014 年 9 月

日本神経化学会
会員 各位

日本神経化学会
理事長 木山 博資

* 第 57 回日本神経化学会・総会の開催について *

謹 啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記の通り日本神経化学会総会を開催致したくご案内申し上げます。

なお、欠席される方は委任状に必要事項（代理人もご指定下さい）をご記入の上、事務局宛てご送付下さるか、学会当日、受付までご提出下さいますようお願い申し上げます。

敬 白

記

日 時： 2014 年 9 月 30 日（火） 12：40 ～ 13：30

場 所： 奈良県文化会館 1 階 第 1 会場（国際ホール）

議題（予定）：

1. 理事長報告	9. 同監査報告
2. 庶務報告	10. 2015 年度予算の件
3. 会計報告	11. 評議員選任の件
4. 出版・広報報告	12. 名誉会員推薦の件
5. プログラム編成報告	13. 功労会員推薦の件
6. 各種委員会報告	14. 会則改訂の件
7. 2014 年度優秀賞・奨励賞選考結果報告	15. 利益相反指針の件
8. 2013 年度決算の件	16. 次期大会の件
	17. その他

2014 年
日本神経化学会
総 会

委 任 状
(ご欠席の方はご記入ください)

2014 年日本神経化学会総会の議決権の行使に
関する一切の権限を
代理人 _____ に委任します。

2014 年 月 日

ご所属 _____

ご芳名 _____ (印)

*なお、代理人氏名のご記入がない委任状は、
大会長を代理人としたものとして取扱います。



料金受取人払郵便

新宿局承認

1984

差出有効期間
平成27年7月
31日まで

郵便はがき

1 6 0 8 7 9 2

3 7 6



日本神経化学会

行

東京都新宿区信濃町三五 信濃町煉瓦館5階
(財)国際医学情報センター内

ご挨拶

この度、平成 26 年 9 月 29 日（月）から 10 月 1 日（水）までの 3 日間、「第 36 回日本生物学的精神医学会・第 57 回日本神経化学会大会合同年会」を奈良県文化会館・奈良県新公会堂にて開催することとなりました。ご協力いただきました学会関係各位、共催セミナーおよび展示企業、団体の皆様、多額の寄付を寄せていただきました企業および団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

日本生物学的精神医学会および日本神経化学会とともに長い歴史を有する脳神経研究の学会であり、基礎系神経研究者と臨床系脳・精神医学研究者が一堂に会して活発に討論する場を提供することにより、数多くの独創的な研究および学会内外における共同研究成果を生み出して参りました。この歴史と伝統を尊重し、新たな歴史への 1 ページを刻む本大会を歴史有る奈良の地にて開催できることは大きな喜びでございます。3 日間に渡る本大会のプログラムとして、シンポジウム、一般口演、ポスター発表、ランチョンセミナーなどの各セッションが活発に行われるよう皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

昨今、学問・研究への信頼を大きく損なう事件が続いたことは記憶に新しいところでございます。こうしたことの背景には目立つ結果に逸るあまり若手研究者の育成がややもすると軽視されがちな風潮が存在したことも一つの要因として考えられます。日本神経化学会では従来から若手の育成を大きな柱としてまいりました。本大会におきましても、若手研究者育成セミナーおよび教育セッションを行い、また、出来るだけ若い研究者からのシンポジウム提案を優先することなどを心掛けました。

最後に、今回日本生物学的精神医学会のご協力のもと合同大会として開催できたことは大変ありがたく存じます。さまざまな角度から神経・精神研究を議論することは、両学会にとってさらに大きな成果を生み出すきっかけとなると期待しております。

第 57 回日本神経化学会大会 大会長

塩坂 貞夫（奈良先端科学技術大学院大学）

大会委員一覧

第 36 回日本生物学的精神医学会

大会長

西川 徹 東京医科歯科大学大学院

副大会長

吉川 武男 理化学研究所脳科学総合研究センター

組織委員会

樋口 輝彦 国立精神・神経医療研究センター
 武田 雅俊 大阪大学大学院
 山脇 成人 広島大学大学院
 岡崎 祐士 東京都立松沢病院
 神庭 重信 九州大学大学院

実行委員会

車地 暁生 東京医科歯科大学大学院
 上里 彰仁 東京医科歯科大学大学院
 治徳 大介 東京医科歯科大学大学院
 海野 麻未 東京医科歯科大学大学院
 栗山 健一 国立精神・神経医療研究センター

プログラム委員会

山本 直樹	東京医科歯科大学大学院	加藤 忠史	理化学研究所脳科学総合研究センター
朝田 隆	筑波大学		
井上 幸紀	大阪市立大学	川寄 弘詔	九州大学大学院
糸川 昌成	公益財団法人東京都医学総合研究所	岸本 年史	奈良県立医科大学
		久住 一郎	北海道大学大学院
岩田 仲生	藤田保健衛生大学	功刀 浩	国立精神・神経医療研究センター
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院	白川 治	近畿大学
篠崎 和弘	和歌山県立医科大学	曾良 一郎	神戸大学大学院
大森 哲郎	徳島大学大学院	中込 和幸	国立精神・神経医療研究センター
岡田 元宏	三重大学大学院	村井 俊哉	京都大学大学院
笠井 清登	東京大学医学部附属病院	橋本 亮太	大阪大学大学院
神尾 陽子	国立精神・神経センター	福居 顕二	京都府立医科大学
		米田 博	大阪医科大学

将来計画委員会

岩田 仲生	藤田保健衛生大学	神尾 陽子	国立精神・神経医療研究センター
久住 一郎	北海道大学	富田 博秋	東北大学
岡本 泰昌	広島大学	橋本 亮太	大阪大学
鬼塚 俊明	九州大学	三村 將	慶應義塾大学
笠井 清登	東京大学医学部附属病院	村井 俊哉	京都大学

第 57 回日本神経化学会

大会長

塩坂 貞夫 奈良先端科学技術大学院大学

副大会長

和中 明生 奈良県立医科大学

組織委員会

遠山 正彌 大阪府病院機構

井上 和秀 九州大学

森 則夫 浜松医科大学大学院

岸本 年史 奈良県立医科大学

仙波恵美子 大阪行岡医療大学

谷内 一彦 東北大学大学院

実行委員会

片山 泰一 大阪大学大学院

石川 保幸 前橋工科大学

牧之段 学 奈良県立医科大学

田村 英紀 星薬科大学

熊本奈都子 名古屋市立大学大学院医学研究科

プログラム委員会

和中 明生 奈良県立医科大学

佐藤 真 大阪大学大学院

斎藤祐見子 広島大学大学院

今泉 和則 広島大学大学院

橋本 均 大阪大学大学院

竹林 浩秀 新潟大学大学院

等 誠司 滋賀医科大学

小泉 修一 山梨大学医学部大学院

島田 昌一 大阪大学大学院

田中 謙二 慶應義塾大学医学部

石崎 泰樹 群馬大学大学院医学系研究科

久永 真市 首都大学東京 都市教養学部

山田 清文 名古屋大学大学院

馬場 広子 東京薬科大学

澤本 和延 名古屋市立大学

鶴川 眞也 名古屋市立大学大学院医学研究科

道川 誠 名古屋市立大学大学院医学研究科

味岡 逸樹 東京医科歯科大学

片山 泰一 大阪大学大学院

交通のご案内・会場周辺案内図



会場

- 奈良県文化会館…JR奈良駅より市内循環バス「県庁前」バス停下西へすぐ
又は徒歩15分、近鉄奈良駅より徒歩5分
- 奈良県新公会堂…JR・近鉄奈良駅より市内循環バス「大仏殿春日大社」下車、徒歩3分
- 会場間は徒歩で約15分

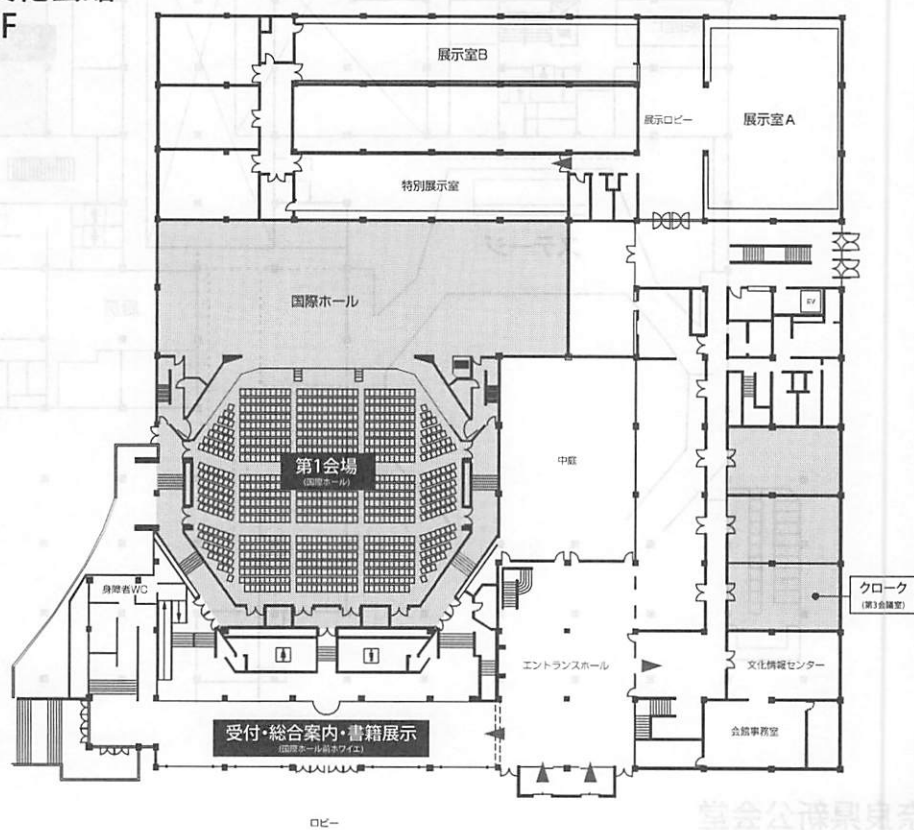
シャトルバス

学会期間中(9月29日～10月1日)は奈良県文化会館、および奈良県新公会堂間のシャトルバスの運行を予定しております。

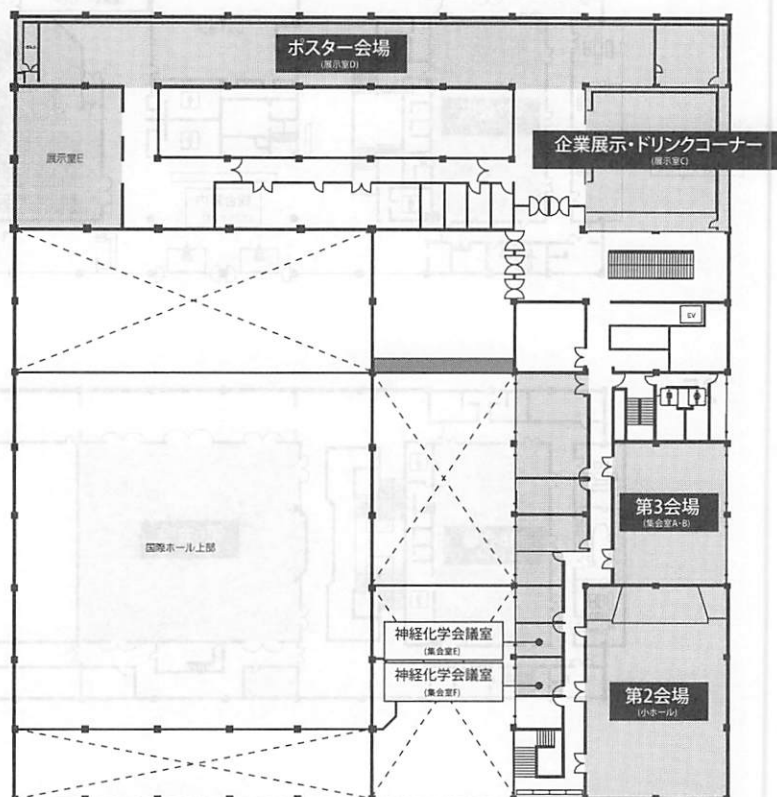
※9月30日は両会場からホテル日航奈良行のシャトルバスを運行します。

会場案内図

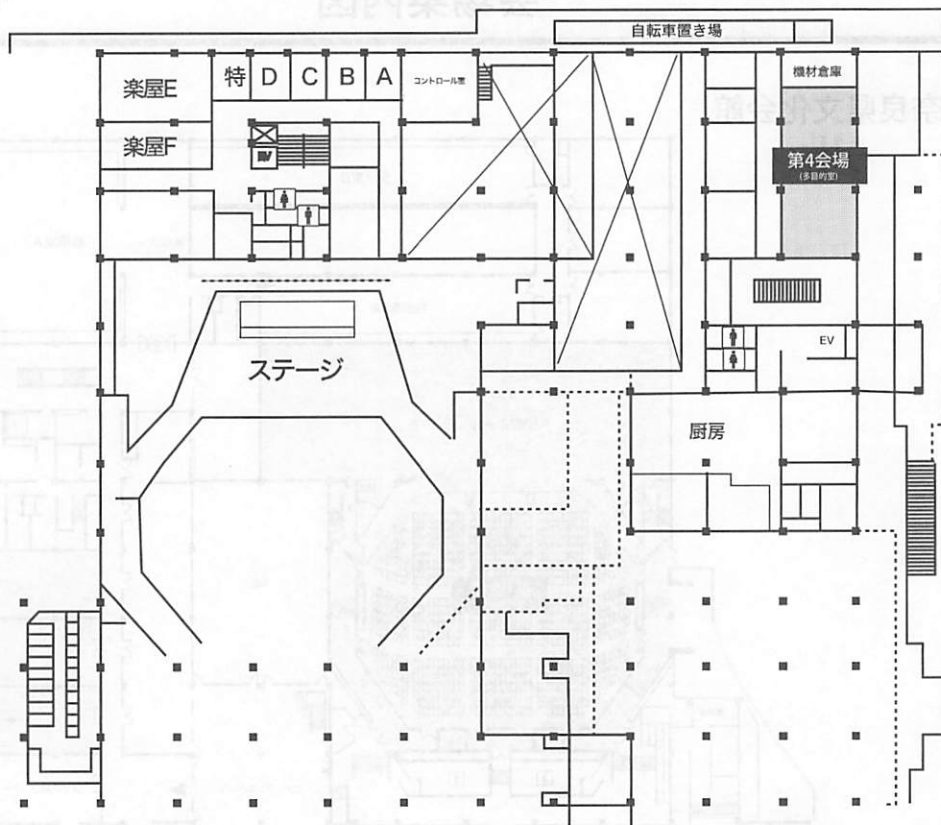
奈良県文化会館 1F



2F



B1F

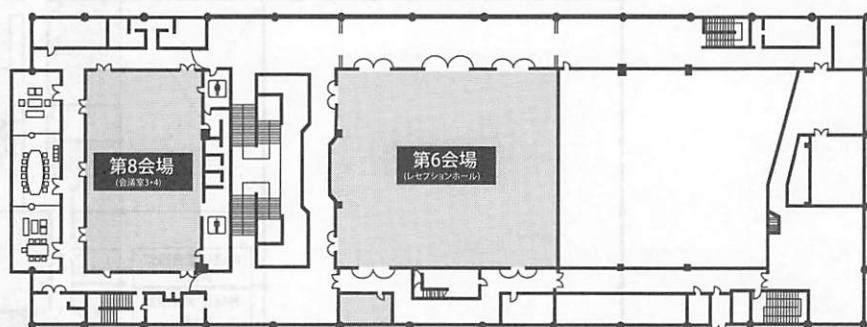


奈良県新公会堂

1F



2F



大会日程概要

◆Plenary Lectures プレナリーレクチャー

第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

1. Professor Joseph Coyle

(Harvard Medical School, USA)

9月29日（月）10：00～11：00

2. Professor Péter Somogyi

(University of Oxford, U.K.)

9月29日（月）11：00～12：00

3. Professor Laurent Mottron, MD, PhD

(University of Montréal, Canada)

9月30日（火）10：00～11：00

4. Professor Peter Sonderegger

(University of Zürich, Switzerland)

9月30日（火）11：00～12：00

◆JSN/ISN Joint Symposium

第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

9月29日（月）8：30～10：00

◆Interactive Case Conference 1

第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

9月29日（月）13：30～14：30

◆若手国際交流プログラム

第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

9月29日（月）14：30～15：30

◆神経化学教育口演セッション

第4会場（奈良県文化会館 B1F 多目的室）

9月29日（月）8：30～10：00, 13：30～15：30, 15：30～17：30

◆神経化学の若手研究者育成セミナー

第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）他 全6会場

※詳細は日程表にてご確認ください。

9月29日（月）18：30～21：00

◆臨床精神医学 VS 神経化学

第7会場（奈良県新公会堂 1F 会議室1・2）

9月30日（火）8：30～10：00

◆ 2014 年度日本神経化学会優秀賞受賞講演

第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

9月30日（火）9：00～10：00

◆Interactive Case Conference 2

第4会場（奈良県文化会館 B1F 多目的室）

9月30日（火）13：30～15：30

◆第3回生物学的精神医学会若手研究者育成プログラム

第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

9月30日（火）13：30～17：00

◆コイル教授の Scientific Publishing 教育セミナー

第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

9月30日（火）17：00～18：00

◆シンポジウム

第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

第2会場（奈良県文化会館 2F 小ホール）

第3会場（奈良県文化会館 2F 集会室A・B）

第5会場（奈良県新公会堂 1F 能楽ホール）

第6会場（奈良県新公会堂 2F レセプションホール）

第7会場（奈良県新公会堂 1F 会議室1・2）

第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）※9月29日（月）15：30～17：30のみ

9月29日（月）13：30～17：30

9月30日（火）13：30～17：30

10月1日（水）10：00～12：00, 13：30～15：30

※9月29日（月）13：30～15：30 第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）は公開シンポジウムです。

◆一般口演

第2会場（奈良県文化会館 2F 小ホール）他 全7会場

※詳細は日程表にてご確認ください。

9月29日（月）8：30～10：00

9月30日（火）8：30～10：00

10月1日（水）8：30～10：00

◆ポスター発表

ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室D）

発表日	貼付時間	閲覧時間	討論時間	撤去時間
9月29日（月）	8：30～9：00	9：00～17：30	17：30～18：30	18：30～19：00
9月30日（火）	8：30～9：00	9：00～17：30	17：30～18：30	18：30～19：00
10月1日（水）	8：30～9：00	9：00～15：30	15：30～16：30	16：30～17：00

◆ランチョンセミナー

第2会場（奈良県文化会館 2F 小ホール）
第3会場（奈良県文化会館 2F 集会室 A・B）
第7会場（奈良県新公会堂 1F 会議室 1・2）
9月29日（月）12：15～13：15
9月30日（火）12：15～13：15
10月1日（水）12：15～13：15

◆展示

機器展示（奈良県文化会館 2F 展示室 C）
書籍展示（奈良県文化会館 1F 国際ホール前ホワイエ）
9月29日（月）8：00～18：30
9月30日（火）8：00～18：30
10月1日（水）8：00～15：00

◆理事会・評議員会・総会

・日本生物学的精神医学会
奈良県文化会館 2F 特別集会室 9月28日（日）17：30～19：30（理事会）
第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）9月29日（月）12：10～13：10（評議員会 総会）
・日本神経化学会
奈良県文化会館 1F 第3会議室 9月28日（日）13：30～18：00（理事会）
第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）
9月30日（火）12：00～12：40（評議員会）
9月30日（火）12：40～13：30（総会）

◆懇親会

飛天（ホテル日航奈良 4F）
9月30日（火）19：00～21：00

大会日程表 (大会第 1 日目 9 月 29 日 (月))

	奈良県文化会館				奈良県新公会堂				奈良県文化会館	
	第 1 会場 1F 国際ホール	第 2 会場 2F 小ホール	第 3 会場 2F 集会室 A・B	第 4 会場 B1F 多目的室	第 5 会場 1F 能楽ホール	第 6 会場 2F レセプションホール	第 7 会場 1F 会議室 1・2	第 8 会場 2F 会議室 3・4	ポスター会場 2F 展示室 D	企業展示会場 2F 展示室 C
8:00										
9:00	JSN-ISN Joint Symposium 神経変性疾患解明に向けた融合戦略 和中 明生 森原 剛史	(O1) 一般口演 細胞機能制御	(O2) 一般口演 精神疾患・ゲノム	(EO1) 神経化学教育口演セッション 1 Neurochemistry Educational Oral Session1 Peter Sonderegger 熊本奈都子	(O3) 一般口演 神経疾患の神経心理・神経生理	(O4) 一般口演 グリア生物学	(O5) 一般口演 神経疾患の知覚機能		貼付	
10:00	プレナリーレクチャー 1 (西川 徹) Joseph Coyle									
11:00	プレナリーレクチャー 2 (佐藤 真) Péter Somogyi									
12:00										
13:00	日本生物精神総会・評議員会	ランチョンセミナー 1 グラクソスミスクライン(株)	ランチョンセミナー 2 大日本住友製薬(株)				ランチョンセミナー 3 (株)ツムラ		閲覧	企業展示
14:00	(S1) (公開シンポジウム) シンポジウム 精神と神経のエピジェネティクス疾患 畑田 出穂 等	(S2) シンポジウム 多施設共同研究の意義と日本における現状：欧米に勝つための戦略とは？ 尾崎 紀夫 橋本 亮太	(S3) シンポジウム 末梢神経の分化・変性・再生のバイオロジーとその応用戦略 荒木 敏之	(EO2) 神経化学教育口演セッション 2 Neurochemistry Educational Oral Session2 Robert Pawlak 田村 英紀	(S7) シンポジウム 自閉症スペクトラム障害の早期マーカー 神尾 陽子 小坂 浩隆	(S8) シンポジウム グリアアセンブリの生理と病態 小泉 修一 加藤 隆弘	(S9) シンポジウム シナプス可塑性に関わる分子基盤への多角的アプローチ 石川 保幸 謝 敏かく	Interactive Case Conference1 新たな病態理解と治療戦略に向けて「レビー小体型認知症・パーキンソン病と神経回路障害」 相澤 秀紀 西川 徹 (AS) 若手国際交流プログラム 上里 彰仁		
15:00										
16:00	(S4) シンポジウム オルガネラ機能破綻と神経難病 工藤 嵩 今泉 和則	(S5) シンポジウム エピジェネティクス機構から精神神経疾患の病態を探る 大森 哲郎 加藤 忠史	(S6) シンポジウム 精神疾患動物モデルの可能性と課題 尾崎 紀夫 川崎 弘昭	(EO3) 神経化学教育口演セッション 3 Neurochemistry Educational Oral Session3 Zu-Lin Chen 牧之段 学	(S10) シンポジウム 抑肝散の基礎と臨床最前線 堀口 淳 島田 昌一	(S11) シンポジウム グリアの最前線 宮田 信吾 服部 剛志	(S12) シンポジウム 意思決定の神経制御とその異常 山田 清文 大平 英樹	(S13) シンポジウム 細胞外基質の神経化学：発達・可塑性から高次機能・病態まで 五十嵐道弘 内村 健治		
17:00										
18:00									討論	
19:00									撤去	
20:00	神経化学の若手研究者育成セミナー グループ A	神経化学の若手研究者育成セミナー グループ E	神経化学の若手研究者育成セミナー グループ F	神経化学の若手研究者育成セミナー グループ G	神経化学の若手研究者育成セミナー グループ B：奈良県文化会館 2F 集会室 C グループ C：奈良県文化会館 2F 集会室 D グループ D：奈良県文化会館 2F 特別集会室					
21:00										

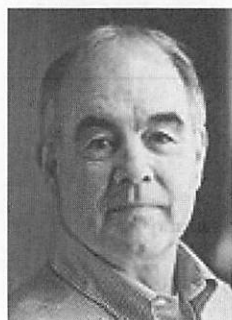
大会日程表 (大会第2日目 9月30日 (火))

	奈良県文化会館				奈良県新公会堂				奈良県文化会館	
	第1会場 1F 国際ホール	第2会場 2F 小ホール	第3会場 2F 集会室A・B	第4会場 B1F 多目的室	第5会場 1F 能楽ホール	第6会場 2F レセプションホール	第7会場 1F 会議室1・2	第8会場 2F 会議室3・4	ポスター会場 2F 展示室D	企業展示会場 2F 展示室C
8:00										
9:00	2014年度 日本神経化学会 優秀賞 受賞講演	(O6) 一般口演 アルツハイマー病	(O7) 一般口演 ストレス/ 気分障害	(O8) 一般口演 受容体の動態と 機能	(O9) 一般口演 統合失調症・ 神経機能回路	(O10) 一般口演 パーキンソン病	(E5) 臨床精神医学 VS 神経化学 朝から生討論 我が 国の発達障害研究は トランスレーショナ ルとなりうるか? 臨 床精神 vs 神経化学 橋本 亮太 内匠 透	(O11) 一般口演 幹細胞・細胞分化	貼付	
10:00										
11:00										
12:00										
13:00	日本神経化学会 評議員会・総会	ランチョンセミナー4 大塚製薬(株)	ランチョンセミナー5 Meiji Seika ファルマ(株)				ランチョンセミナー6 アステラス製薬(株)		閲覧	企業展示
14:00	(S14) シンポジウム マイクロエンド フェノタイプから 考える精神疾患 研究	(S15) シンポジウム 酸化ストレス・ 炎症と精神疾患	(S16) シンポジウム 膜輸送タンパク質 を標的とする 神経変性疾患の 新たな治療戦略	Interactive Case Conference2 新たな病態理解と 治療戦略に向けて 「抗 NMDA 受容体抗体と 精神症状」	(S20) シンポジウム 神経血管相互依 存性の分子実体 と治療への展開	(S21) シンポジウム 精神疾患における 手綱核活動異常 と新しい病態 モデル	(S22) シンポジウム 衝動・情緒制御不 全・薬物依存等に 関連する情動・意 志・行動決定関連 回路と機能及び その制御	第3回生物学的 精神医学会 若手研究者育成 プログラム		
15:00	喜田 聡 加藤 忠史	糸川 昌成	森口 茂樹 田熊 一敏	岡野ジェームス洋尚 西川 徹	村松里衣子 森戸 大介	足田 貴俊 相澤 秀紀	篠田 晃 西条 寿夫			
16:00	(S17) シンポジウム 脳機能画像研究 の精神・神経疾患 への応用	(S18) シンポジウム rTMS による ニューロモデュ レーションの基礎 と臨床	(S19) シンポジウム 負情動を制御 する新しい生体 システム		(S23) 阪本シンポジウム Sakamoto Symposium— 神経疾患メカニズ ム研究の新しい展 開—Supported by 阪本精神疾患 研究財団	(S24) シンポジウム 放射線神経生物 学の夜明け	(S25) シンポジウム 神経ペプチドと 摂食・エネルギー 代謝			
17:00	須原 哲也 松田 博史 Onsulici	篠崎 和弘 伊良皆啓治 Noret	関口 正幸 山田 光彦 Perfeciorum		田村 英紀 等 誠司	武井 延之 小金澤紀子	斎藤祐見子 児島 将康	コイル教授の Scientific publishing 教育セミナー		
18:00									討論	
19:00									撤去	
20:00	懇親会 懇親会会場 (ホテル日航奈良 4F 飛天)									
21:00										

大会日程表 (大会第3日目 10月1日 (水))

	奈良県文化会館				奈良県新公会堂				奈良県文化会館	
	第1会場 1F 国際ホール	第2会場 2F 小ホール	第3会場 2F 集会室A・B	第4会場 B1F 多目的室	第5会場 1F 能楽ホール	第6会場 2F レセプションホール	第7会場 1F 会議室1・2	第8会場 2F 会議室3・4	ポスター会場 2F 展示室D	企業展示会場 2F 展示室C
8:00										
9:00		(O12) 一般口演 精神疾患の情動・ 認知機能	(O13) 一般口演 軸索/脱髄		(O14) 一般口演 精神疾患と興奮性 アミノ酸神経伝達	(O15) 一般口演 神経可塑性	(O16) 一般口演 神経疾患の 分子機構		貼付	
10:00										
11:00	(S26) シンポジウム 神経系細胞と 血管系細胞の 相互作用 高橋 淑子 石崎 泰樹	(S27) シンポジウム 神経ペプチドや 神経栄養因子の 小胞輸送と精神 神経疾患 古市 貞一 橋本 均	(S28) シンポジウム 脱髄性疾患の 病態解明と 再髄鞘化療法の 開発 板東 良雄 山内 淳司		(S32) シンポジウム 精神神経疾患研 究への展開を見 据えた時空間的 な遺伝子発現制 御研究の最先端 味岡 逸樹 山本 直樹	(S33) シンポジウム 成体脳の細胞編 成リモデリングと 精神機能—細胞 新生から気分を 考える 等 誠司 澤本 和延	(S34) シンポジウム 精神神経疾患の 新しい治療薬の 展望 油井 邦雄 住吉 太幹			企業展示
12:00									閲覧	
13:00		ランチョンセミナー7 日本イーライ リリー(株)	ランチョンセミナー8 持田製薬(株) 田辺三菱製薬(株) 吉富薬品(株)				ランチョンセミナー9 MSD(株)			
14:00	(S29) シンポジウム うつ病における栄 養・運動の役割 功刀 浩 中村 純	(S30) シンポジウム 強迫性障害の病 態生理と神経伝 達物質・新たな病 態理解と治療法 を目指して 松永 寿人 清水 栄司	(S31) シンポジウム AAV ベクターを 応用した神経・ 精神疾患の病態 解明～基礎から 臨床まで～ 村松 慎一 新田 淳美		(S35) シンポジウム 聴覚受容体研究 の最前線～難聴 発症機構の解明 をめざして～ 鶴川 真也	(S36) シンポジウム GABA 作動性介 在ニューロンの異 常と統合失調症 岸本 年史 谷垣 健二	(S37) シンポジウム 気分障害のバイ オマーカー探索 古部 則雄 吉村 玲児			
15:00										
16:00									討論	
17:00									撤去	
18:00										
19:00										
20:00										
21:00										

プレナリーレクチャー Plenary Lectures



PL1 NMDA Receptor Dysfunction and the Pathophysiology of Schizophrenia

Monday, September 29 10:00~11:00 第1会場: 1F 国際ホール

Chairperson: 西川 徹 (Toru Nishikawa)

東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野 (Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Tokyo Medical And Dental University)

Joseph Coyle

Harvard Medical School, USA



PL2 Co-operation of Distinct Cell Types in Network State-dependent Activity of the Hippocampus

Monday, September 29 11:00~12:00 第1会場: 1F 国際ホール

Chairperson: 佐藤 真 (Makoto Sato)

大阪大学大学院 (Graduate School of Medicine, Osaka University)

Péter Somogyi

University of Oxford, U.K.



PL3 The Trigger-Threshold-Target-Neglect Model for Autism: from genetic to cognitive neuroscience

Tuesday, September 30 10:00~11:00 第1会場: 1F 国際ホール

Chairperson: 吉川 武男 (Takeo Yoshikawa)

独立行政法人理化学研究所脳科学総合センター (Molecular Psychiatry RIKEN Brain Science Institute)

Laurent Mottron

University of Montréal, Canada



PL4 The Neurotrypsin/agrin System-towards a Molecular Foundation of its fundamental Role for Intellectual Development and Function

Tuesday, September 30 11:00~12:00 第1会場: 1F 国際ホール

Chairperson: 塩坂 貞夫 (Sadao Shiosaka)

奈良先端科学技術大学院大学 (Nara Institute of Science and Technology)

Peter Sonderegger

University of Zürich, Switzerland

JSN-ISN Joint Symposium

神経変性疾患解明に向けた融合戦略

Transdisciplinary Strategy for Neurodegenerative Diseases

Monday, September 29 8:30~10:00 第1会場: 1F 国際ホール

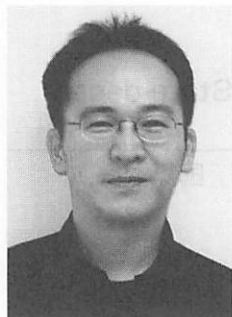
Chairpersons: 和中 明生 (Akio Wanaka)

奈良県立医科大学

(Department of Anatomy and Neuroscience, Nara Medical University Faculty of Medicine, Nara, Japan)

森原 剛史 (Takashi Morihara)

大阪大学医学部 (Department of Psychiatry in Osaka University)



JI-1

Identification of KLC1E as an Abeta accumulation modifier in Alzheimer's disease: a novel approach to complex disease by transcriptome analysis of distinct mouse strains

Takashi Morihara

大阪大学

(Department of Psychiatry in Osaka University)



JI-2

Natural and training-induced brain plasticity during the prodromal phase of Alzheimer's disease

Sylvie Belleville

Psychology Department of University of Montreal, Research Center of the Institut Universitaire de Gériatrie de Montréal



JI-3

Laminin in neurodegeneration and cerebral vascular integrity

Zu-Lin Chen

Laboratory of Neurobiology and Genetics, The Rockefeller University, New York, USA

特別プログラム Special Programs

Interactive Case Conference 1 基礎・臨床統合ケースカンファランス 1

9月29日(月) 13:30~14:30
第8会場(奈良県新公会堂 2F 会議室 3・4)

ICC1	新たな病態理解と治療戦略に向けて 「レビー小体型認知症・パーキンソン病と神経回路障害」 Neural circuit disturbances in dementia with Lewy bodies and Parkinson's disease	
Chairpersons	相澤 秀紀(Hideki Aizawa)	東京医科歯科大学大学院分子神経生物学分野 (Laboratory of Molecular Neuroscience, Tokyo Medical And Dental University)
	西川 徹(Toru Nishikawa)	東京医科歯科大学大学院精神行動医学分野 (Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Tokyo Medical And Dental University)

Interactive Case Conference 2 基礎・臨床統合ケースカンファランス 2

9月30日(火) 13:30~15:30
第4会場(奈良県文化会館 B1F 多目的室)

ICC2	新たな病態理解と治療戦略に向けて 「抗 NMDA 受容体抗体と精神症状」 Anti-NMDA receptor antibodies and psychiatric symptoms	
Chairpersons	岡野ジェームス洋尚(Hirotaka James Okano)	東京慈恵会医科大学再生医学研究部 (Division of Regenerative Medicine, Jikei University School of Medicine)
	西川 徹(Toru Nishikawa)	東京医科歯科大学大学院精神行動医学分野 (Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Tokyo Medical And Dental University)

臨床精神医学 VS 神経化学 Clinical Psychiatry vs Neurochemistry

9月30日(火) 8:30~10:00
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室 1・2)

ES	朝から生討論 我が国の発達障害研究はトランスレーショナルとなりうるか？臨床精神 vs 神経化学 Morning Live Discussion: Can our research on developmental disorders be translational? Clinical Psychiatry vs Neurochemistry	
Chairpersons	橋本 亮太(Ryota Hashimoto)	大阪大学 (Osaka University)
	内匠 透(Toru Takumi)	理化学研究所脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)

若手国際交流プログラム

9月29日(月) 14:30~15:30
第8会場(奈良県新公会堂 2F 会議室 3・4)

AS	Asian Biological Psychiatry Symposium	
Chairperson	上里 彰仁(Akihito Uezato)	東京医科歯科大学大学院精神行動医学分野 (Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Tokyo Medical And Dental University)

神経化学教育口演セッション 1

9月29日(月) 8:30~10:00
第4会場 (奈良県文化会館 B1F 多目的室)

EO1

Neurochemistry Educational Oral Session1

Chairpersons Peter Sonderegger Department of Biochemistry, University of Zürich
熊本奈都子(Natsuko Kumamoto) 名古屋市立大学大学院医学研究科機能組織学 (Department of Neurobiology and Anatomy, Graduate School of Medical Sciences, Nagoya City University, Nagoya, Japan)

神経化学教育口演セッション 2

9月29日(月) 13:30~15:30
第4会場 (奈良県文化会館 B1F 多目的室)

EO2

Neurochemistry Educational Oral Session2

Chairpersons Robert Pawlak Functional Cell Biology, University of Exeter Medical School
田村 英紀(Hideki Tamura) 星薬科大学先端生命科学研究センター (L-StaR) (Life Science Tokyo Advanced Research center (L-StaR), Hoshi University)

神経化学教育口演セッション 3

9月29日(月) 15:30~17:30
第4会場 (奈良県文化会館 B1F 多目的室)

EO3

Neurochemistry Educational Oral Session3

Chairpersons Zu-Lin Chen Laboratory of Neurobiology and Genetics, The Rockefeller University, New York, USA
牧之段 学(Manabu Makinodan) 奈良県立医科大学・医・精神医学講座 (Department of Psychiatry, Nara Medical University)

2014 年度日本神経化学会優秀賞受賞講演 Award Lecture

9月30日(火) 9:00~10:00
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

AN	グリア細胞発生・分化機構の解析と生体内細胞系譜追跡実験系の確立・応用 Analyses on molecular mechanism of gliogenesis and establishment of <i>in vivo</i> lineage tracing system		
Chairperson	加藤 忠史(Tadafumi Kato)	理化学研究所 脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)	

シンポジウム Symposium

9月29日(月) 13:30~15:30
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

S1	公開シンポジウム 精神と神経のエピジェネティクス疾患 Epigenetics in mental and neurological disorders	
Chairpersons	畑田 出穂(Izuho Hatada)	群馬大学生体調節研究所ゲノム科学リソース分野 (Laboratory of Genome Science, Biosignal Genome Resource Center, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University)
	等 誠司(Seiji Hitoshi)	滋賀医科大学 総合臓器生理学部門 (Department of Integrative Physiology, Shiga University of Medical Science)

9月29日(月) 13:30~15:30
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

S2	多施設共同研究の意義と日本における現状：欧米に勝つための戦略とは？ Current situation in Japan and the significance of the multicenter study : a strategy to win in Europe and the United States?	
Chairpersons	尾崎 紀夫(Norio Ozaki)	名古屋大学 大学院医学系研究科 (Nagoya University Graduate School of Medicine)
	橋本 亮太(Ryota Hashimoto)	大阪大学大学院連合小児発達学研究科 (United Graduate School of Child Development, Osaka University)

9月29日(月) 13:30~15:30
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室 A・B)

S3	末梢神経の分化・変性・再生のバイオロジーとその応用戦略 Differentiation, degeneration, and regeneration of the peripheral nerve : mechanistic insights and their therapeutic applications	
Chairperson	荒木 敏之(Toshiyuki Araki)	(独) 国立精神・神経医療研究センター (National Center of Neurology and Psychiatry)

9月29日(月) 15:30~17:30
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

S4	オルガネラ機能破綻と神経難病 Organelle failure in intractable neurological diseases	
Chairpersons	工藤 喬(Takashi Kudo)	大阪大学保健センター (Osaka University)
	今泉 和則(Kazunori Imaizumi)	広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子細胞情報学 (Hiroshima University)

9月29日(月) 15:30~17:30
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

S5	エピジェネティクス機構から精神神経疾患の病態を探る Epigenetics and psychiatric diseases	
Chairpersons	大森 哲郎(Tetsuro Ohmori)	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野 (Tokushima University)
	加藤 忠史(Tadafumi Kato)	理化学研究所 脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)

9月29日(月) 15:30~17:30
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

S6	精神疾患動物モデルの可能性と課題 Possibilities and Problems of Animal Models in Psychiatric diseases in future
Chairpersons	尾崎 紀夫(Norio Ozaki) 名古屋大学・脳とこころの研究センター・精神医学 (Nagoya University Brain & Mind Research Center) 川崎 弘詔(Hiroaki Kawasaki) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学 (Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University)

9月29日(月) 13:30~15:30
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

S7	自閉症スペクトラム障害の早期マーカー Early marker of autism spectrum disorders
Chairpersons	神尾 陽子(Yoko Kamio) (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 (National Center of Neurology and Psychiatry) 小坂 浩隆(Hirotaka Kosaka) 福井大学子どものこころの発達研究センター (Research Center for Child Mental Development, University of Fukui)

9月29日(月) 13:30~15:30
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

S8	グリアアセンブリの生理と病態 Glia assembly, physiology and pathophysiology
Chairpersons	小泉 修一(Schuichi Koizumi) 山梨大学大学院・医工(医学)・薬理学 (University of Yamanashi) 加藤 隆弘(Takahiro Kato) 九州大学大学院・医学研究院・精神病態医学 (Kyushu University)

9月29日(月) 13:30~15:30
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

S9	シナプス可塑性に関わる分子基盤への多角的アプローチ A polyhedral approach to molecular bases involved in synaptic plasticity
Chairpersons	石川 保幸(Yasuyuki Ishikawa) 前橋工科大学 システム生体工学 (Maebashi Institute of Technology) 謝 敏かく(Min-Jue Xie) 福井大学医学部 形態機能医科学講座 組織細胞形態学・神経科学 領域 (Faculty of Medical Sciences and University of Fukui)

9月29日(月) 15:30~17:30
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

S10	抑肝散の基礎と臨床最前線 Basic and Clinical Up-Date Approach of Yokukansan
Chairpersons	堀口 淳(Jun Horiguchi) 島根大学医学部精神医学講座 (Shimane University) 島田 昌一(Shoichi Shimada) 大阪大学大学院医学系研究科神経細胞生物学 (Osaka University)

9月29日(月) 15:30~17:30
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

S11	グリアの最前線 Frontiers in Glia cells studies
Chairpersons	宮田 信吾(Shingo Miyata) 近畿大学東洋医学研究所分子脳科学研究部門 (Kinki University) 服部 剛志(Tsuyoshi Hattori) 金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座 (Kanazawa University)

9月29日(月) 15:30~17:30
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

S12	意思決定の神経制御とその異常 Neural control of decision making in health and disease
Chairpersons	山田 清文(Kiyofumi Yamada) 名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学・医学部附属病院薬剤部 (Nagoya University Graduate School of Medicine) 大平 英樹(Hideki Ohira) 名古屋大学大学院環境学研究科 (Nagoya University)

9月29日(月) 15:30~17:30
第8会場(奈良県新公会堂 2F 会議室3・4)

S13	細胞外基質の神経化学：発達・可塑性から高次機能・病態まで Neurochemistry of the extracellular matrix: its involvement in development, plasticity, and diseases
Chairpersons	五十嵐道弘(Michihiro Igarashi) 新潟大学医歯学系神経生化学(医・生化学第二) (Niigata University) 内村 健治(Kenji Uchimura) 名古屋大学大学院医学研究科分子生物学 (Nagoya University)

9月30日(火) 13:30~15:30
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

S14	マイクロエンドフェノタイプから考える精神疾患研究 Understanding the psychiatric disorders from the view of microendophenotype
Chairpersons	喜田 聡(Satoshi Kida) 東京農業大学応用生物科学部 (Tokyo University of Agriculture) 加藤 忠史(Tadafumi Kato) 理化学研究所・脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute)

9月30日(火) 13:30~15:30
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

S15	酸化ストレス・炎症と精神疾患 Oxidative stress/inflammation and psychiatric disorders
Chairperson	糸川 昌成(Masanari Itokawa) 公益財団法人 東京都医学総合研究所 (Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science)

9月30日(火) 13:30~15:30
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

S16	膜輸送タンパク質を標的とする神経変性疾患の新たな治療戦略 Membrane transporters as novel therapeutic targets for neurodegenerative disorders
Chairpersons	森口 茂樹(Shigeki Moriguchi) 東北大学大学院薬学研究科薬理学分野 (Tohoku University) 田熊 一徹(Kazuhiro Takuma) 大阪大学大学院歯学研究科薬理学教室 (Osaka University)

9月30日(火) 15:30~17:30
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

S17	脳機能画像研究の精神・神経疾患への応用 The application of functional brain imaging studies on neuropsychiatric diseases
Chairpersons	須原 哲也(Tetsuya Suhara) 放射線総合医学研究所 (National Institute of Radiological Sciences) 松田 博史(Hiroshi Matsuda) 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター (National Center of Neurology and Psychiatry)

9月30日(火) 15:30~17:30
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

S18	rTMSによるニューロモデュレーションの基礎と臨床 Basic and clinical aspects of neuromodulation by rTMS	
Chairpersons	篠崎 和弘(Kazuhiro Shinosaki) 和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室 (Wakayama Medical University) 伊良皆啓治(Keiji Iramina) 九州大学大学院システム生命科学府 (Kyushu University)	

9月30日(火) 15:30~17:30
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

S19	負情動を制御する新しい生体システム Novel biological systems that control negative emotions	
Chairpersons	関口 正幸(Masayuki Sekiguchi) 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第四部 (Department of Degenerative Neurological Diseases, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry) 山田 光彦(Mitsuhiko Yamada) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神薬理研究部 (Department of Neuropsychopharmacology, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry)	

9月30日(火) 13:30~15:30
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

S20	神経血管相互依存性の分子実体と治療への展開 Neurovascular wiring: From molecular biology to therapeutic strategy 協賛: 新学術領域研究「血管—神経ワイアリングにおける相互依存性の成立機構」	
Chairpersons	村松里衣子(Rieko Muramatsu) 大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学/JSTさきがけ (Osaka University) 森戸 大介(Daisuke Morito) 京都産業大学総合生命科学部 生命システム学科 (Kyoto Sangyo University)	

9月30日(火) 13:30~15:30
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

S21	精神疾患における手綱核活動異常と新しい病態モデル Dysfunction of the habenular circuit in the psychiatric disorders	
Chairpersons	疋田 貴俊(Takatoshi Hikida) 京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター (Medical Innovation Center, Kyoto University Graduate School of Medicine) 相澤 秀紀(Hidenori Aizawa) 東京医科歯科大学難治疾患研究所 (Tokyo Medical and Dental University)	

9月30日(火) 13:30~15:30
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

S22	衝動・情緒制御不全・薬物依存等に関連する情動・意志・行動決定関連回路と機能及びその制御 Neural circuits, functions and regulation of emotional, conational and behavioral decision-making underlying impulsiveness, mood disorder and drug abuse.	
Chairpersons	篠田 晃(Koh Shinoda) 山口大学医学部高次神経科学領域機能神経解剖学 (Division of Neuroanatomy, Department of Neuroscience, Yamaguchi University Graduate School of Medicine) 西条 寿夫(Hisao Nishijo) 富山大学大学院医学薬学研究部システム情動科学 (System Emotional Science, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama)	

阪本シンポジウム Sakamoto Symposium

Sakamoto Symposium –神経疾患メカニズム研究の新しい展開–Supported by 阪本精神疾患研究財団

Novel approaches to the study of psychiatric disease

Tuesday, September 30 15:30~17:30 第5会場: 1F 能楽ホール

Chairpersons: 田村 英紀 (Hideki Tamura)

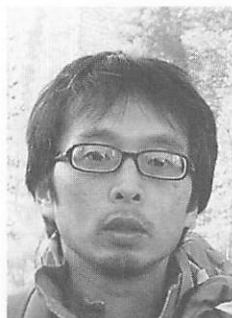
星薬科大学先端生命科学研究センター (L-StaR)

(Life Science Tokyo Advanced Research Center (L-StaR), Hoshi University)

等 誠司 (Seiji Hitoshi)

滋賀医科大学生理学講座統合臓器生理学

(Department of Integrative Physiology, Shiga University of Medical Science)



S23-1

Brain glycosaminoglycans and their implications in neurological disorders

Fumitoshi Irie

Genetic Disease Program, Sanford-Burnham Medical Research Institute, CA, USA



S23-2

Regulation of anxiety and fear by extracellular proteolysis in the amygdala

Robert Pawlak

Functional Cell Biology, University of Exeter Medical School, Exeter, UK

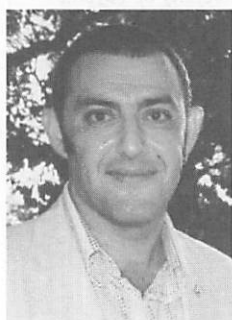


S23-3

Activity-dependent gene expression in health and diseases

Haruhiko Bito

Department of Neurochemistry, The University of Tokyo Graduate School of Medicine, Japan



S23-4

Memory as a new therapeutic target for psychopathologies

Karim Nader

Department of Psychology, McGill University, Canada

シンポジウム Symposium

9月30日(火) 15:30~17:30
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

S24	放射線神経生物学の夜明け The dawn of Radiation Neurobiology
Chairpersons	武井 延之(Nobuyuki Takei) 新潟大学 脳研究所 (Niigata University) 小金澤紀子(Noriko Koganezawa) 群馬大学大学院 医学系研究科 神経薬理学 (Gunma University)

9月30日(火) 15:30~17:30
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

S25	神経ペプチドと摂食・エネルギー代謝 Neuropeptidergic system in feeding behavior and energy metabolism
Chairpersons	斎藤祐見子(Yumiko Saito) 広島大学・総合科学研究科 (Hiroshima University) 児島 将康(Masayasu Kojima) 久留米大学・分子生命科学研究科 (Kurume University)

10月1日(水) 10:00~12:00
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

S26	神経系細胞と血管系細胞の相互作用 Interactions between neural cells and vascular cells
Chairpersons	高橋 淑子(Yoshiko Takahashi) 京都大学大学院理学研究科 (Graduate School of Science, Kyoto University) 石崎 泰樹(Yasuki Ishizaki) 群馬大学大学院医学系研究科 (Gunma University Graduate School of Medicine)

10月1日(水) 10:00~12:00
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

S27	神経ペプチドや神経栄養因子の小胞輸送と精神神経疾患 Vesicular trafficking of neuropeptides and neurotrophins and related neuropsychiatric disorders
Chairpersons	古市 貞一(Teiichi Furuichi) 東京理科大学理工学部 (Tokyo University of Science) 橋本 均(Hitoshi Hashimoto) 大阪大学大学院薬学研究科 (Osaka University)

10月1日(水) 10:00~12:00
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

S28	脱髄性疾患の病態解明と再髄鞘化療法の開発 The road to remyelination in demyelinating diseases
Chairpersons	板東 良雄(Yoshio Bando) 旭川医科大学解剖学講座機能形態学分野 (Asahikawa Medical University) 山内 淳司(Junji Yamauchi) 成育医療研究センター研究所 薬剤治療研究部 (National Research Institute for Child Health and Development)

10月1日(水) 13:30~15:30
第1会場(奈良県文化会館 1F 国際ホール)

S29	うつ病における栄養・運動の役割 Nutrition and exercise in depression
Chairpersons	功刀 浩(Hiroshi Kunugi) 国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第三部 (National Center of Neurology and Psychiatry) 中村 純(Jun Nakamura) 産業医科大学医学部精神医学教室 (University of Occupational & Environmental Health)

10月1日(水) 13:30~15:30
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

S30	強迫性障害の病態生理と神経伝達物質：新たな病態理解と治療法を目指して Pathophysiology and neurotransmitters in obsessive-compulsive disorder : Toward a new understanding and development of treatment strategies
Chairpersons	松永 寿人(Hisato Matsunaga) 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座 (Department of Neuropsychiatry, Hyogo College of Medicine) 清水 栄司(Eiji Shimizu) 千葉大学大学院医学研究センター子どものこころの発達研究センター認知行動生理学 (Department of Cognitive Behavioral Physiology, Chiba University Graduate School of Medicine/Research Centre for Child Mental Development, Graduate School of Medicine, Chiba University)

10月1日(水) 13:30~15:30
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

S31	AAVベクターを応用した神経・精神疾患の病態解明～基礎から臨床まで～ Stratages of AAV vectors for studies of neuronal and psychiatric diseases-from bench to bed
Chairpersons	村松 慎一(Shin-ichi Muramatsu) 自治医科大学神経内科学 (Jichi Medical University) 新田 淳美(Atsumi Nitta) 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)・薬物治療学研究室 (University of Toyama)

10月1日(水) 10:00~12:00
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

S32	精神神経疾患研究への展開を見据えた時空間的な遺伝子発現制御研究の最先端 Spatio-temporal regulation of gene expression in neurons with the goal of understanding mental and neural disorders
Chairpersons	味岡 逸樹(Itsuki Ajioka) 東京医科歯科大学・脳統合機能研究センター (Tokyo Medical and Dental University) 山本 直樹(Naoki Yamamoto) 東京医科歯科大学・精神行動医学分野 (Tokyo Medical and Dental University)

10月1日(水) 10:00~12:00
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

S33	成体脳の細胞編成リモデリングと精神機能—細胞新生から気分を考える Remodeling of cell composition in the adult brain : effects on mental function and disorders
Chairpersons	等 誠司(Seiji Hitoshi) 滋賀医科大学 (Shiga University of Medical Science) 澤本 和延(Kazunobu Sawamoto) 名古屋市立大学 (Nagoya City University)

10月1日(水) 10:00~12:00
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

S34	精神神経疾患の新しい治療薬の展望 New Perspectives of Useful Medical Drugs for Treatment-Resistant Psychiatric Disorders
Chairpersons	油井 邦雄(Kunio Yui) 芦屋大大学院発達障害教育研究所 (Research Institute of Pervasive Developmental Disorders, Ashiya University) 住吉 太幹(Tomiki Sumiyoshi) 国立精神医療研究センター (National Center of Neurology and Psychiatry)

10月1日(水) 13:30~15:30
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

S35	聴覚受容体研究の最前線～難聴発症機構の解明をめざして～ Frontline of molecular and functional researches for auditory hair cell
Chairperson	鶴川 真也(Shinya Ugawa) 名古屋市立大学大学院 医学研究科 機能組織学 (Department of Anatomy and Neuroscience, Graduate School of Medical Sciences, Nagoya City University)

10月1日(水) 13:30~15:30
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

S36	GABA 作動性介在ニューロンの異常と統合失調症 The abnormality of GABAergic interneuron and schizophrenia	
Chairpersons	岸本 年史(Toshifumi Kishimoto) 奈良県立医科大学精神医学講座 (Nara Medical University) 谷垣 健二(Kenji Tanigaki) 滋賀成人病センター研究所 (Shiga Medical Center Research Institute)	

10月1日(水) 13:30~15:30
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

S37	気分障害のバイオマーカー探索 Biological Markers for Mood Disorders	
Chairpersons	古郡 則雄(Norio Furukori) 弘前大学精神科 (University of Hirosaki) 吉村 玲児(Reiji Yoshimura) 産業医科大学精神医学教室 (University of Occupational and Environmental Health)	

一般口演 Oral Sessions

第1日目

9月29日(月) 8:30~10:00
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

01	細胞機能制御 Molecular regulation of cellular function
Chairpersons	松崎 伸介(Shinsuke Matsuzaki) 大阪大学大学院大阪大学金沢大学浜松医科大学千葉大学福井大学連合小児発達学研究科こころの発達神経科学講座 (Molecular Brain Science, United Graduate School of Child Development, Osaka University) 山岸 覚(Satoru Yamagishi) 浜松医科大学解剖学講座神経機能学分野 (Hamamatsu University School of Medicine)

9月29日(月) 8:30~10:00
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

02	精神疾患・ゲノム Psychiatric disorders and genomics
Chairpersons	吉川 武男(Takeo Yoshikawa) 独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター (RIKEN Brain Science Institute) 功刀 浩(Hiroshi Kunugi) 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部 (Department of Mental Disorder Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry)

9月29日(月) 8:30~10:00
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

03	神経疾患の神経心理・神経生理 Neuropsychology and Neurophysiology of psychiatric disorders
Chairpersons	寺尾 岳(Takeshi Terao) 大分大学医学部精神神経医学講座 (Department of Neuropsychiatry, Oita University Faculty of Medicine) 大森 哲郎(Tetsuro Ohmori) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野 (Department of Psychiatry, Tokushima University)

9月29日(月) 8:30~10:00
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

04	グリア生物学 Glial biology
Chairpersons	小泉 修一(Schuichi Koizumi) 山梨大学医学部薬理学講座 (Dept. Neuropharmacol., Facul. Med. Univ. Yamanashi) 辰巳 晃子(Kouko Tatsumi) 奈良県立医科大学医学部第2解剖学講座 (Department of Anatomy & Neuroscience, Nara Medical University)

9月29日(月) 8:30~10:00
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

05	神経疾患の知覚機能 Sensory function of psychiatric disorders
Chairpersons	神尾 陽子(Yoko Kamio) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター (National Center of Neurology and Psychiatry) 車地 暁生(Akeo Kurumaji) 東京医科歯科大学 (Tokyo Medical and Dental University)

第2日目

9月30日(火) 8:30~10:00
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

06	アルツハイマー病 Alzheimer's disease	
Chairpersons	山田 清文(Kiyofumi Yamada)	名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学 (Dept. of Neuropsychopharmacology and Hospital Pharmacy, Nagoya University Graduate School of Medicine)
	久永 眞市(Shin-ichi Hisanaga)	首都大学東京理工学研究科 (Tokyo Metropolitan University)

9月30日(火) 8:30~10:00
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

07	ストレス/気分障害 Stress/Mood disorders	
Chairpersons	渡辺 義文(Yoshifumi Watanabe)	山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野 (Division of Neuropsychiatry, Department of Neuroscience, Yamaguchi University Graduate School of Medicine)
	岡本 泰昌(Yasumasa Okamoto)	広島大学大学院精神神経医学 (Department of Psychiatry and Neurosciences, Hiroshima University)

9月30日(火) 8:30~10:00
第4会場(奈良県文化会館 B1F 多目的室)

08	受容体の動態と機能 Receptor dynamics and function	
Chairpersons	田熊 一敏(Kazuhiro Takuma)	大阪大学大学院歯学研究科薬理学教室 (Department of Pharmacology, Graduate School of Dentistry, Osaka University)
	村上 智彦(Tomohiko Murakami)	大阪大学大学院歯学研究科生化学教室 (Department of Molecular and Cellular Biochemistry, Osaka University Graduate School of Dentistry)

9月30日(火) 8:30~10:00
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

09	総合失調症・神経機能回路 Schizophrenia and Neural circuitry underlying dysfunction in schizophrenia	
Chairpersons	鈴木 道雄(Michio Suzuki)	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座 (Department of Neuropsychiatry, University of Toyama Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences)
	村井 俊哉(Toshiya Murai)	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学) (Department of Psychiatry Graduate School of Medicine Kyoto University)

9月30日(火) 8:30~10:00
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

010	パーキンソン病 Parkinson's disease	
Chairpersons	竹林 浩秀(Hirohide Takebayashi)	新潟大学大学院医歯学総合研究科神経生物・解剖学分野 (Niigata Univ. Division of Neurobiology and Anatomy)
	今泉 和則(Kazunori Imaizumi)	広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子細胞情報学 (Graduate School of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University)

011	幹細胞・細胞分化 Stem cells and Cell differentiation
Chairpersons	味岡 逸樹(Itsuki Ajioka) 東京医科歯科大学脳統合機能研究センター (Center for Brain Integration Research, Tokyo Medical and Dental University) 澤本 和延(Kazunobu Sawamoto) 名古屋市立大学医学研究科再生医学分野 (Department of Developmental & Regenerative Biology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences)

第3日目

10月1日(水) 8:30~10:00
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

012	精神疾患の情動・認知機能 Emotion and cognitive function of psychiatric disorders	
Chairpersons	三村 将(Masaru Mimura)	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室 (Department of Neuropsychiatry, Keio University School of Medicine)
	中村 純(Jun Nakamura)	産業医科大学医学部精神医学教室 (Dept. of Psychiatry, sch., of Med. University of Occupational and Environmental Health)

10月1日(水) 8:30~10:00
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

013	軸索/脱髄 Axon/Demyelination	
Chairpersons	山内 淳司(Junji Yamauchi)	国立成育医療研究センター薬剤治療研究部 (National Research Institute for Child Health and Development)
	吉田 成孝(Shigetaka Yoshida)	旭川医科大学医学部解剖学講座機能形態学分野 (Department of Functional Anatomy and Neuroscience)

10月1日(水) 8:30~10:00
第5会場(奈良県新公会堂 1F 能楽ホール)

014	精神疾患と興奮性アミノ酸神経伝達 Psychiatric disorders and neural transmission of excitatory amino acid	
Chairpersons	佐野 輝(Akira Sano)	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野 (Department of Psychiatry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences)
	米田 幸雄(Yukio Yoneda)	金沢大学医薬保健研究域薬学系 (Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University Graduate School)

10月1日(水) 8:30~10:00
第6会場(奈良県新公会堂 2F レセプションホール)

015	神経可塑性 Neural plasticity	
Chairpersons	宮川 剛(Tsuyoshi Miyakawa)	藤田保健衛生大学 (Fujita Health University)
	石川 保幸(Yasuyuki Ishikawa)	前橋工科大学システム生体工学科 (Maebashi Institute of Technology, Department of Systems Life Engineering)

10月1日(水) 8:30~10:00
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

016	神経疾患の分子機構 Molecular mechanisms of neurological disorders	
Chairpersons	片山 泰一(Taiichi Katayama)	大阪大学大学院連合小児発達学研究科分子生物遺伝学研究領域 (Osaka University, United Graduate School of Child Development)
	森 泰文(Yasutake Mori)	大阪大学大学院医学系研究科解剖学講座(神経機能形態学) (Department of Anatomy and Neuroscience, Graduate School of Medicine, Osaka University)

ランチョンセミナー Luncheon Seminars

9月29日(月) 12:15~13:15
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

LS1 双極性気質に関する最近の話題

Speaker 寺尾 岳 大分大学医学部 精神神経医学講座

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

9月29日(月) 12:15~13:15
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

LS2 統合失調症の認知機能障害と就労 第二世代抗精神病薬の認知機能改善作用：統合失調症モデル動物を用いた検討

Speakers 堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室
野田 幸裕 名城大学薬学部病態解析学I

共催：大日本住友製薬株式会社

9月29日(月) 12:15~13:15
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

LS3 故きを温ね、新しきを創る～島根の抑肝散研究の歴史と近未来～

Speaker 堀口 淳 島根大学医学部精神医学講座

共催：株式会社ツムラ

9月30日(火) 12:15~13:15
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

LS4 統合失調症患者さんの再発・再入院をいかに防ぐか

Speaker 伊豫 雅臣 千葉大学大学院医学研究院 精神医学

共催：大塚製薬株式会社

9月30日(火) 12:15~13:15
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

LS5 Schizophrenia and NMDA Receptor Hypofunction : Pharmacotherapeutic Implications.

Speaker Joseph Coyle Harvard Medical School, USA

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

9月30日(火) 12:15~13:15
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

LS6 分子精神医学 Up to Date

Speaker 佐野 輝 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 精神機能病学分野

共催：アステラス製薬株式会社

10月1日(水) 12:15~13:15
第2会場(奈良県文化会館 2F 小ホール)

LS7	双極性障害の神経生物学～新規治療薬開発を目指して
Speaker	加藤 忠史 理化学研究所 脳科学総合研究センター 精神疾患動態研究チーム

共催：日本イーライリリー株式会社

10月1日(水) 12:15~13:15
第3会場(奈良県文化会館 2F 集会室A・B)

LS8	強迫スペクトラムの現在とこれから—うつ病との関連性を含めて—
Speaker	松永 寿人 兵庫医科大学 精神科神経科

共催：持田製薬株式会社/田辺三菱製薬株式会社/吉富薬品株式会社

10月1日(水) 12:15~13:15
第7会場(奈良県新公会堂 1F 会議室1・2)

LS9	抗うつ薬を安全・効果的に使用するには～薬理遺伝学の観点から～
Speaker	三浦 淳 室蘭工業大学 保健管理センター

共催：MSD 株式会社

大会参加者へのご案内

総合案内

各会場に設置しております。

【奈良県文化会館/1F 国際ホール前ホワイエ】

9月29日（月）8時～18時30分

9月30日（火）8時～18時30分

10月1日（水）8時～16時30分

【奈良県新公会堂/1F エントランス】

9月29日（月）8時～18時30分

9月30日（火）8時～18時30分

10月1日（水）8時～16時30分

1. 参加者の皆さまへ

●事前登録がお済みの方

学会当日は、大会事務局からお送りいたしました参加証（ネームカード）に所属と氏名をご記入の上、必ずご持参ください。会期中はネームカードを必ず着用してください。万が一、お忘れになった場合は総合受付までお申し出ください。ネームカードのない方の入場はお断りいたします。

●当日参加登録される方

受付は奈良県文化会館 1F 国際ホール前ホワイエにおいて、午前8時00分より開始いたします。参加費は以下の通りです。

会員（一般） 14,000 円（不課税）

学生・研修医 3,000 円（不課税）

非会員 17,000 円（税込）

修士課程大学院生・研修医非会員 5,000 円（税込）

※学部学生（6年制の医学部、薬学部、高校生含む）は会員・非会員に関わらず無料です。

※修士課程大学院生・研修医・学部学生は学生証/身分証をお持ち下さい。

●非会員の方

日本生物学的精神医学会に入会希望の方は、下記事務局までお問い合わせください。

（入会申込連絡先）

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

一般社団法人学会支援機構内 日本生物学的精神医学会事務局

TEL：03-5981-6011 FAX：03-5981-6012

E-mail：jsbp@asas.or.jp

日本神経化学学会に入会希望の方は、下記事務局までお問い合わせください。

（入会申込連絡先）

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館

（財）国際医学情報センター内 日本神経化学学会事務局

TEL：03-5361-7107 FAX：03-5361-7091

E-mail：jsn@imic.or.jp

●懇親会

大会2日目の9月30日（火）19時よりホテル日航奈良4階飛天にて行います。

費用：3,000 円（税込）

※定員に達し次第受付を終了とさせていただきます。

●研修単位・認定ポイントについて

日本生物学的精神医学会

本学会への参加は、日本精神神経学会の精神科専門医資格認定更新における研修ポイント対象学会です。専門医認定ポイントの受付にて会員証をご呈示の上、ご登録ください。

日本神経化学会

本学会への参加は、日本精神神経学会、日本神経学会の認定医療研修単位の対象となります。

日本精神神経学会の精神科専門医資格認定更新は、専門医認定ポイントの受付にて会員証をご呈示の上、ご登録ください。

それ以外の学会については、合同年会参加証および領収書を各自で各学会に提出し、単位申請してください。

詳細はそれぞれの学会に直接ご照会ください。

2. お知らせ

●会場の入退について

奈良県文化会館、奈良県新公会堂の会館は午前8時となっております。午前8時以前には入場できませんのでご注意ください。

●会場内について

会場内では携帯電話をマナーモードに設定いただき、通話をご遠慮願います。

また、携帯電話・ビデオカメラによる撮影もご遠慮願います。

災害発生時は係員の指示に従い速やかに避難してください。

●呼び出し・伝言

アナウンスでの参加者の呼び出し、お電話のお取次ぎ等は一切いたしません。

総合案内（奈良県文化会館1階国際ホール前ホワイエ・奈良県新公会堂1階エントランス）に伝言掲示板を設けておりますので、ご利用ください。

●クローク

会期中はクロークを設置いたしますが、スペースに限りがございます。できるだけホテル等のクロークをご利用いただきますようお願い申し上げます。

クローク開設場所・時間

【奈良県文化会館】

9月29日（月）8時～21時30分

9月30日（火）8時～19時

10月1日（水）8時～17時

【奈良県新公会堂】

9月29日（月）8時～18時30分

9月30日（火）8時～18時

10月1日（水）8時～16時30分

●シャトルバス

奈良県文化会館⇄奈良県新公会堂でシャトルバスを運行します（無料）

時刻については会場にてご確認ください。

●ランチセミナー

お弁当に限りがありますので、整理券を開催日の参加受付開始時刻と同時刻より先着順に整理券デスク（奈良県文化会館1F 国際ホール前ホワイエ）にて配布致します。

配布は1人1日1枚となります。なお、参加証のご提示が必要となります。

※奈良県新公会堂での整理券の配布はございませんのでご注意ください。

●インターネットコーナー

下記会場にて無線LANがご利用いただけます。

奈良県文化会館：2階 展示室C

奈良県新公会堂：全館

●ドリンクコーナー

奈良県文化会館：2階 展示室C

奈良県新公会堂：能楽ホール前

※数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。

●抄録集

WEB抄録集のみとなります。

URLにつきましては別途ご案内申し上げます。

●宿泊

お問い合わせは下記までお願いいたします。

連絡先：(株)日本旅行 西日本MICE営業部

大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル5F

TEL：06-6342-0230

FAX：06-6342-0232

Email：wj_gakkai@nta.co.jp

営業時間 平日 10：00-17：45

土日・祝祭日 休業

●大会本部

奈良県文化会館：1階 第1会議室

奈良県新公会堂：2階 小会議室4

4. 関連行事

●理事会

日本生物学的精神医学会

日時：9月28日（日）17時30分～19時30分

会場：奈良県文化会館 2F 特別集会室

日本神経化学会：

日時：9月28日（日）13時30分～18時

会場：奈良県文化会館 1F 第3会議室

●評議員会・総会

日本生物学的精神医学会

日時：9月29日（月）12時10分～13時10分

会場：第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

日本神経化学会：

日時：9月30日（火）12時～12時40分（評議員会）

9月30日（火）12時40分～13時30分（総会）

会場：第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

座長へのご案内

- 座長の方は、セッション開始 15 分前までに各会場へお越しのうえ、ステージ右手前方の次座長席にお掛けください。
- 発表時間、質疑応答時間を厳守し、円滑な運営にご協力をお願いいたします。
計時回線をご用意いたします。終了 1 分前は橙色ランプ、終了時には赤色ランプが点滅いたします。

COI に関する提示

第 36 回日本生物学的精神医学会・第 57 回日本神経化学会大会・合同年会では、COI の開示に関してはご発表時に規定の COI に関するスライド（またはポスター）提示をご参考ください。発表時に口頭での説明は不要です。規定スライドのダウンロード並びに使用方法是下記をご覧ください。

指定演題または一般演題（口演）での発表者の方

※該当基準は下記「COI 該当基準」をご覧ください。

該当なし：タイトルスライドに、COI 該当なしを枠付きで明記してください。

該当あり：スライドの 1 枚目に、学会指定の COI スライドを提示してください。

一般演題（ポスター）での発表者の方

※該当基準は下記「COI 該当基準」をご覧ください。

該当なし：ポスター最下段に「演者 COI 該当なし」を枠付きで記載してください。

該当あり：ポスター最下段に該当項目を枠付きで記載してください。

（表形式でも文章でも結構です）

COI 該当基準

開示が必要なものは、一年間（演題登録時・講演時・論文投稿時から遡って過去一年間、もしくは演題登録の前年 1 月から 12 月の 1 年間）とする。

各々の開示すべき事項について、自己申告が必要な金額を次のように定める。

下記のうち、8 であってかつ 1 から 7 に該当する場合、「該当する」として、その内容を提示する。

1. 役員等報酬・株式・特許権実施料：100 万円以上
2. 会議謝金・講演料・原稿料等：50 万円以上
3. 研究費・奨学寄附金：200 万円以上
4. 寄付講座：金額基準なく所属の有無
5. 労力・知識の提供と関係のない旅費・贈答：5 万円以上
6. 配偶者、一親等の親族、収入・財産を共にする者につき、これと同じ利益相反状態を知っている場合には申告。
7. 利益を提供する団体は営利企業に限らず、財団等も対象となる。
8. 講演・論文の発表者（講演は筆頭のみ）は、発表内容と関わる事項。

動物実験について

動物実験に当たっては、その原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用すること）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮すること）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないこと）の3R（Replacement、Reduction、Refinement）に基づいて、「動物愛護管理法」、「飼養保管基準」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」、「動物の処分方法に関する指針」その他の法令等を遵守し、研究施設の定める動物実験規則に従って実施しなければなりません。

動物実験に該当する発表者は「動物実験に関する関連法令・通達のほか、当該施設における動物実験指針を遵守した」旨を明記してください。

口演発表者へのご案内

■発表言語

- プレナリーレクチャー：英語
- シンポジウム：日本語・英語
- 一般口演：日本語・英語

■発表時間

- シンポジウムは座長の指示に従ってください。
- 一般口演は発表10分、討論5分です。

■発表の流れ

- 発表の60分前（※朝のセッションの口演発表者はセッション開始の30分前）までにご自身の発表する会場内PC受付（スタッフが待機しております）へお越しください。
各会場施設（奈良県文化会館・奈良県新公会堂）に事前確認用のモニター・PCを総合案内付近に設置しておりますので、そちらもご利用ください。
- 壇上には計時回線をご用意いたしますので、終了1分前は橙色ランプ、終了時には赤色ランプが点滅いたします。

■機材について

- 本大会の発表は、PCプレゼンテーションに限らせていただきます。各自ノートパソコンをご用意ください。
- Windows8、7、Windows VistaまたはMac OS X以上が動作し、外部モニター出力端子を備えたPCを使用してください。Power Point2003以降のバージョンをご利用ください。
- SONYのVAIO、Mac等、モニター出力端子の形状が特殊な機種をお使いの場合は、D-sub15ピン用変換アダプターを持参してください。
SONY VAIO NoteC1/SR/GT/U等の一部機種や、ApplePB G4、Mac Book Pro等の機種はモニター出力の変換コネクタが必要になります。
- バッテリー切れに備え、必ず発表会場にACアダプターをご持参ください。

- 発表中にスクリーンセーバーが起動したり省電力モードにならないように設定してください。
- プレゼンテーションデータに静止画・動画・グラフ等のデータをリンクさせている場合はそのデータも必ず保存していただき、事前に動作確認を行ってください。
- 発表に際し、音声の利用はできません。必要な場合は事前に事務局へご連絡ください。

ポスター発表者へのご案内

- パネルは事務局にて用意します。ポスターは、貼付パネルのスペース内におさまるように作成してください。貼付パネルのサイズは、右図を参照してください。

縦：210cm

横：90cm

- 演題名、所属、発表者名は、英語・日本語併記でご準備いただき、ポスター貼付スペースの上端部に貼付してください。

- 掲示・発表は1日です。指定された日時以外の掲示はご遠慮ください。

9月29日（月）

貼付時間：8時30分～9時

閲覧時間：9時～17時30分

討論時間：17時30分～18時30分

撤去時間：18時30分～19時

9月30日（火）

貼付時間：8時30分～9時

閲覧時間：9時～17時30分

討論時間：17時30分～18時30分

撤去時間：18時30分～19時

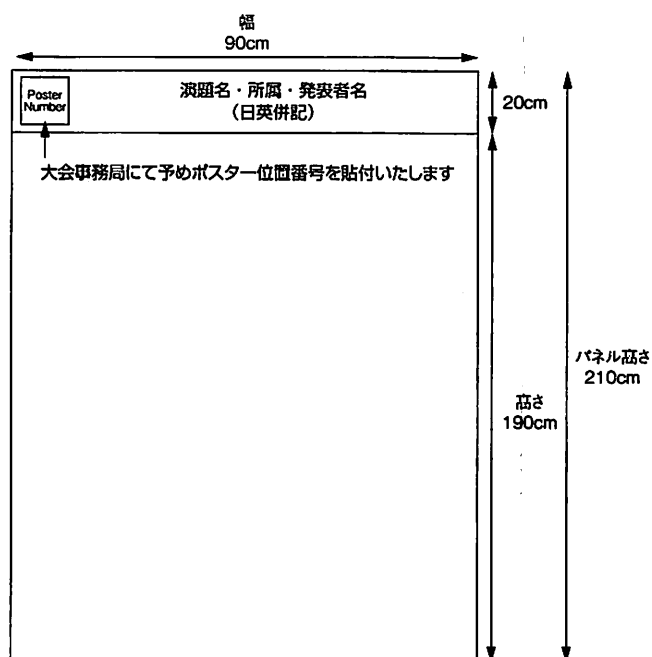
10月1日（水）

貼付時間：8時30分～9時

閲覧時間：9時～15時30分

討論時間：15時30分～16時30分

撤去時間：16時30分～17時



- ポスター演題番号は、「セッション番号」と「ポスター番号」から成り立っています。
- ポスターは、ご自身のポスター番号の位置に、貼付時間内にご自身で貼り付けてください。「ポスター番号」は演題番号の末尾の番号で、予めパネルに表示してあります。「ポスター貼付番号」をよくご確認のうえ、お間違いないようご注意ください。
- 貼付に必要な画鋏は予めパネルに設置いたします。糊、セロテープは使用できません。
- 座長による進行はございません
- 撤去時間を過ぎてもポスターが残されていた場合、大会事務局にて撤去、処分させていただきます。ポスターの紛失、盗難に関しては主催者、事務局側では責任を負えませんのでご了承願います。

Request Concerning Use of Color in Presentation Materials

Around 5% of Japanese men (3 million people) and 8% of Caucasian men have a specific type of vision that makes it difficult to distinguish between colors in a particular range, including red and green. In light of this, you are requested to take the following points into account when preparing presentation materials.

1. Images of two-color staining or DNA chips should be displayed in green and magenta, not red and green.
2. Three or more stains should not be displayed only as composites with all three colors, but also with the two most important colors alone shown in green and magenta. (Alternatively, images of each channel can be displayed separately.)
3. In graphs and explanatory figures, it is extremely difficult to match colors shown in two separate places. For this reason, do not use only color-coded descriptions or legends for different items, but write them directly into figures. Do not differentiate between items by using different colors, but rather with different types of line, shapes/symbol, or types of hatching.
4. On a dark background, use white, yellow, or orange lettering as far as possible.
For further information, see <http://www.nig.ac.jp/color/>.

発表資料の配色についてのお願い

日本人男性の5%（約300万人）、白人男性の約8%は、赤や緑の混じった特定の範囲の色について、差を感じにくいという視覚特性を持っています。発表資料作成の際は以下の点にご配慮いただきますよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1. 2重染色やDNAチップの画像は、緑と赤だけではなく緑と赤紫(マゼンタ)で表示する。
2. 3重以上の染色は、全色の重ね合わせだけでなく重要な2色だけの組み合わせも緑と赤紫で表示する（あるいは各チャンネルの図を別々に表示する。）
3. グラフや解説図では、離れた2ヵ所の色を照合するのが非常に難しいので、色分けされた各項目の内容や凡例で示すのみではなく、それぞれのグラフ・図に内容・凡例を書き込むこと。また各項目は、色だけでなく線種やシンボルの形、網掛け(ハッチング)などでも区別する。
4. 暗い背景の場合、赤文字や細い青文字は使わずなるべく白や黄色、オレンジ等を使う。
詳しくは<http://www.nig.ac.jp/color/> をご覧ください。

特別企画のご案内

本大会では、通常のプログラムの他に、特別プログラム（シンポジウム）を企画しております。是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. JSN-ISN Joint Symposium

日時：9月29日（月）8：30～10：00

会場：第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

テーマ：神経変性疾患解明に向けた融合戦略

Transdisciplinary strategy for neurodegenerative diseases

国際神経化学会（ISN）のサポートによる日本神経化学会（JSN）との共催シンポジウムです。

2. Interactive Case Conference 1（基礎・臨床統合ケースカンファランス1 —新たな病態理解と治療戦略に向けて—）

日時：9月29日（月）13：30～14：30

会場：第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

テーマ：「レビー小体型認知症・パーキンソン病と神経回路障害」

今大会の新企画で、臨床医が精神疾患の症例を呈示したうえ、基礎研究者を交えた議論を通じて、病態の脳科学的な理解を進め、合理的な診断・治療法を構築するとともに、関連する研究テーマを創出することを目的としています。

3. 若手国際交流プログラム

日時：9月29日（月）14：30～15：30

会場：第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

テーマ：Asian Biological Psychiatry Symposium

アジア地域における精神医学領域の研究の発展と交流を促進するために、日本生物学的精神医学会と韓国、台湾、香港の各生物学的精神医学会とのあいだに締結された「若手国際交流プログラム」の取り決めに基づいて日本生物学的精神医学会に招聘された若手の研究発表です。

4. 神経化学教育口演セッション

Neurochemistry Educational Oral Session

日時：9月29日（月）8：30～10：00、13：30～15：30、15：30～17：30

会場：第4会場（奈良県文化会館 B1F 多目的室）

この口演セッションは、大学院生や若い研究者に口演発表の機会を与え外国人研究者を含めたシニア研究者との深い討論により、プレゼンテーションスキルを高めることを目的に日本神経化学会が毎年企画しているものです。

5. 神経化学の若手研究者育成セミナー

日時：9月29日（月）18：30～21：00

本セミナーでは、第一線で研究に携わる講師陣が、最新の研究内容や実験手法、さらには研究者としての心構えなどについて熱心に講師陣が講義し、参加者とフリーディスカッションを行います。これらを通じて、明日の神経化学を支える人材の養成を目指します。

6. 臨床精神医学 VS 神経化学

日時：9月30日（火）8：30～10：00

会場：第7会場（奈良県新公会堂 1F 会議室1・2）

テーマ：朝から生討論

我が国の発達障害研究はトランスレーショナルとなりうるか？臨床精神 vs 神経化学

Morning Live Discussion：

Can our research on developmental disorders be translational? Clinical Psychiatry vs Neurochemistry

本セッションは、日本生物学的精神医学会・日本神経化学会ならではの企画であり、近年の発達障害研究につき、第一線で活躍する臨床家と基礎研究者が忌憚なく議論する。

7. 2014 年度日本神経化学会優秀賞受賞講演

日時：9月30日（火）9：00～10：00

会場：第1会場（奈良県文化会館 1F 国際ホール）

テーマ：グリア細胞発生・分化機構の解析と生体内細胞系譜追跡実験系の確立・応用

本講演は、本年度より新設されました日本神経化学会優秀賞受賞者による講演となります。今年度は、同賞第一受賞者となる竹林浩秀（たけばやし ひろひで）氏による講演です。

8. Interactive Case Conference 2（基礎・臨床統合ケースカンファレンス2 —新たな病態理解と治療戦略に向けて—）

日時：9月30日（火）13：30～15：30

会場：第4会場（奈良県文化会館 B1F 多目的室）

テーマ：「抗 NMDA 受容体抗体と精神症状」

今大会の新企画で、臨床医が精神疾患の症例を呈示したうえ、基礎研究者を交えた議論を通じて、病態の脳科学的な理解を進め、合理的な診断・治療法を構築するとともに、関連する研究テーマを創出することを目的としています。

9. 第3回生物学的精神医学会若手研究者育成プログラム

日時：9月30日（火）13：30～17：00

会場：第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

本プログラムでは、若手の生物学的精神医学会研究者を大学などの垣根を越えて、生物学的精神医学会にて育成することを目的にしています。毎年5名程度選ばれる奨励賞受賞者は毎年学会で進捗状況を発表していただき、将来計画委員から建設的なコメントを受けとることができ、その中から最優秀奨励賞受賞者が選ばれます。

10. コイル教授の Scientific Publishing 教育セミナー

日時：9月30日（火）17：00～18：00

会場：第8会場（奈良県新公会堂 2F 会議室3・4）

Archives of General Psychiatry（現在 JAMA Psychiatry）Chief editor のお立場での長年のご経験に基づき、Joseph Coyle 先生から現在の生物学的精神医学、神経化学の研究の方向性、手法、アクセプトされやすい論文の書き方、倫理的側面などの指南を受ける、論文投稿戦略に関する講演およびワークショップ形式の教育セミナー。

受賞者一覧

2014 年度日本神経化学会優秀賞・奨励賞受賞者

優秀賞（1 名）

■竹林 浩秀

新潟大学 医歯学総合研究科神経生物・解剖学（解剖学第二）

テーマ : グリア細胞発生・分化機構の解析と生体内細胞系譜追跡実験系の確立・応用

奨励賞（2 名）

■塩田 倫史

東北大学大学院薬学研究科 薬理学

テーマ : ATR-X 症候群モデル動物における脳機能解析に関する研究

■増田 隆博

九州大学大学院薬学研究院 薬理学

テーマ : IRF 転写因子ファミリーによる活性化ミクログリアの表現型制御

日本生物学的精神医学会 2013 年度（第 21 回）学術賞

■鳥塚 通弘

奈良県立医科大学精神医学講座

テーマ : 22q11 欠失症候群モデルマウスの神経発達障害には Cxcr4/Cxcl12 シグナリングの欠損が寄与する

発表会場 : ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室 D）※会期中掲載

■疋田 貴俊

京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター

テーマ : 報酬・忌避行動における側坐核神経回路調節機構

発表会場 : ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室 D）※会期中掲載

日本生物学的精神医学会 2013 年度前期国際学会発表奨励賞

■岡田 佳代

九州大学大学院医学研究院精神病態医学

テーマ : 強迫性障害の脳 MRI 画像における白質内神経繊維解析研究

発表会場 : ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室 D）※会期中掲載

■渡部 真也

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

テーマ : 末梢白血球の遺伝子発現パターンを利用した大うつ病の診断バイオマーカーに関する検討

発表会場 : ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室 D）※会期中掲載

日本生物学的精神医学会 2013 年度後期国際学会発表奨励賞

■齋藤 竹生

藤田保健衛生大学医学部精神神経科学

テーマ : ラモトリギン誘発皮疹に関する薬理遺伝学的研究

発表会場 : ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室 D）※会期中掲載

■松田 真悟

千葉大学医学研究院認知行動生理学

テーマ : 連日の恐怖消去トレーニングが恐怖の再発に与える影響の性差

発表会場 : ポスター会場（奈良県文化会館 2F 展示室 D）※会期中掲載

謝 辞

本大会を開催するにあたり、下記の企業から多大なご援助をいただきました。

(五十音順)

◆寄付

旭化成ファーマ株式会社	あすか製薬株式会社	アステラス製薬株式会社
アストラゼネカ株式会社	アルフレッサファーマ株式会社	栄研化学株式会社
エーザイ株式会社	エスエス製薬株式会社	MSD 株式会社
エルメッドエーザイ株式会社	大塚製薬株式会社	株式会社大塚製薬工場
小野薬品工業株式会社	科研製薬株式会社	学校法人青丹学園関西学研医療福祉病院
キッセイ薬品工業株式会社	杏林製薬株式会社	協和発酵キリン株式会社
グラクソ・スミスクライン株式会社	クラシエ製薬株式会社	興和株式会社
佐藤製薬株式会社	サノフィ株式会社	沢井製薬株式会社
参天製薬株式会社	株式会社三和化学研究所	塩野義製薬株式会社
ゼリア新薬工業株式会社	第一三共株式会社	大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社	大鵬薬品工業株式会社	武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社	田村薬品工業株式会社	中外製薬株式会社
株式会社ツムラ	帝人ファーマ株式会社	テルモ株式会社
トーアエイヨー株式会社	東和薬品株式会社	富山化学工業株式会社
鳥居薬品株式会社	日本イーライリリー株式会社	日本化薬株式会社
日本ケミファ株式会社	日本新薬株式会社	日本製薬株式会社
日本臓器製薬株式会社	日本たばこ産業株式会社	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
ニプロファーマ株式会社	株式会社ノエビア	ノバルティスファーマ株式会社
バイエル薬品株式会社	ファイザー株式会社	富士フイルムファーマ株式会社
扶桑薬品工業株式会社	ブリストル・マイヤーズ株式会社	丸石製薬株式会社
マルホ株式会社	株式会社ミノファージェン製薬	Meiji Seika ファルマ株式会社
持田製薬株式会社	株式会社ヤクルト本社	八洲薬品株式会社
ロート製薬株式会社	わかもと製薬株式会社	

◆ランチョンセミナー

アステラス製薬株式会社	MSD 株式会社	大塚製薬株式会社
グラクソ・スミスクライン株式会社	大日本住友製薬株式会社	田辺三菱製薬株式会社
株式会社ツムラ	日本イーライリリー株式会社	Meiji Seika ファルマ株式会社
持田製薬株式会社	吉富薬品株式会社	

◆機器展示

小原医科産業株式会社	国立精神・神経医療研究センター	株式会社 JVC ケンウッド
株式会社資生堂	バイオリサーチセンター株式会社	株式会社日立メディコ
株式会社ブレインサイエンス・イデア	室町機械株式会社	株式会社メイブ

◆書籍展示

株式会社神陵文庫

◆広告

株式会社イナ・オブティカ

塩野義製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

東京化成工業株式会社

ファイザー株式会社

株式会社エイコム

シスメックス株式会社

田辺三菱製薬株式会社

日本メジフィジックス株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

小野薬品工業株式会社

大正富山医薬品株式会社

中外製薬株式会社

株式会社ニューロサイエンス

学会からのお知らせ

1. 2014 年度理事会役員

理事長	木山 博資	(名古屋大学)
副理事長	白尾 智明	(群馬大学)
庶務担当理事	仲嶋 一範	(慶應義塾大学)
会計担当理事	今泉 和則	(広島大学)
出版・広報担当理事	佐藤 真	(大阪大学)
理 事	池中 一裕	(自然科学機構)
	石崎 泰樹	(群馬大学)
	岡野 栄之	(慶應義塾大学)
	塩坂 貞夫	(奈良先端科学技術大学院大学)
	道川 誠	(名古屋市立大学)
	橋本 均	(大阪大学)
	米田 幸雄	(金沢大学)
	神庭 重信	(九州大学)
	小泉 修一	(山梨大学)
	等 誠司	(滋賀医科大学)

監 事 ※2017 年総会まで

御子柴克彦	(理化学研究所)
熊倉鴻之助	(内閣府食品安全委員会)

将来計画委員会委員長

小泉 修一	(山梨大学)
-------	--------

出版・広報委員会委員長

佐藤 真	(大阪大学)
------	--------

シンポジウム企画委員会委員長

斎藤祐見子	(広島大学)
-------	--------

国際対応委員会委員長

白尾 智明	(群馬大学)
-------	--------

研究助成金等候補者選考委員会委員長

石崎 泰樹	(群馬大学)
-------	--------

脳研究推進委員会委員長

岡野 栄之	(慶應義塾大学)
-------	----------

優秀賞・奨励賞選考委員会委員長 ※2015 年総会まで

加藤 忠史	(理化学研究所)
-------	----------

連合大会委員会委員長

和田 圭司	(国立精神・神経医療研究センター神経研究所)
-------	------------------------

ダイバーシティー推進委員会

馬場 広子	(東京薬科大学)
-------	----------

利益相反委員会

神庭 重信	(九州大学)
-------	--------

2. 評議員会

日 時：9 月 30 日 (火) 12:00~12:40

会 場：奈良県文化会館 1 階 第 1 会場 (国際ホール)

議 題：「ポストク問題を解決するために今しなければならないことは何か？」

3. 総会

日 時：9月30日（火）12：40～13：30

会 場：奈良県文化会館 1階 第1会場（国際ホール）

議 題： 1. 理事長報告

2. 庶務報告
3. 会計報告
4. 出版・広報報告
5. プログラム編成報告
6. 各種委員会報告
 - ①将来計画委員会
 - ②国際対応委員会
 - ③出版・広報委員会
 - ④研究助成金等候補者選考委員会
 - ⑤シンポジウム企画委員会
 - ⑥脳研究推進委員会
 - ⑦連合大会委員会
 - ⑧ダイバーシティー推進委員会
 - ⑨利益相反委員会
7. 2014年度優秀賞・奨励賞選考結果報告
8. 2013年度決算の件
9. 同監査報告
10. 2015年度予算の件
11. 評議員選任の件
12. 名誉会員推薦の件
13. 功労会員推薦の件
14. 会則改訂の件
15. 利益相反指針の件
16. 次期大会の件
17. その他

4. 各種委員会

●国際対応委員会

日 時：9月29日（月）12：00～13：30 奈良県文化会館 2階 神経化学会会議室1（集会室E）

●出版・広報委員会

日 時：9月29日（月）13：30～15：00 奈良県文化会館 2階 神経化学会会議室2（集会室F）

●シンポジウム企画委員会

日 時：9月30日（火）10：00～11：30 奈良県文化会館 2階 神経化学会会議室1（集会室E）

●ダイバーシティー推進委員会

日 時：9月30日（火）10：00～11：30 奈良県文化会館 2階 神経化学会会議室2（集会室F）

●研究助成金等候補者選考委員会

日 時：9月30日（火）14：00～16：00 奈良県文化会館 2階 神経化学会会議室1（集会室E）

●将来計画委員会

日 時：10月1日（水）10：30～12：00 奈良県文化会館 2階 神経化学会会議室1（集会室E）

5. 理事会企画公開シンポジウム

日 時：9月29日（月）13時30分～15時30分

会 場：奈良県文化会館 1階 第1会場（国際ホール）

座 長：畑田出穂（群馬大学生体調節研究所）

等 誠司（滋賀医科大学生理学講座）

オーガナイザー：大西浩史（群馬大学大学院保健学研究科生体情報検査科学）

畑田出穂（群馬大学生体調節研究所）

タイトル：神経化学（精神疾患）におけるエピジェネティクス研究

シンポジスト：中島欽一（九州大学大学院医学研究院基盤幹細胞学分野）

堀家慎一（金沢大学学際科学実験センター）

岩本和也（東京大学大学院医学系研究科分子精神医学講座）

畑田出穂（群馬大学生体調節研究所）

岩田 淳（東京大学大学院医学系研究科神経内科学）

6. ISN/JSN 共催シンポジウム

日 時：9月29日（月）8時30分～10時00分

会 場：奈良県文化会館 1階 第1会場（国際ホール）

座 長：和中明生（奈良県立医科大学第二解剖学）

森原剛史（大阪大学大学院医学系研究科精神医学）

タイトル：Transdisciplinary strategy for neurodegenerative diseases

シンポジスト：森原剛史（大阪大学大学院医学系研究科精神医学）

Sylvie Belleville (University of Montreal/Research Center of the institut Universitaire de Gériatrie de Montréal)

Zu-Lin Chen (Rockefeller University)

7. 2014 年度優秀賞受賞者講演

日 時：9月30日（火）9時00分～10時00分

会 場：奈良県文化会館 1階 第1会場（国際ホール）

座 長：加藤忠史（優秀賞・奨励賞選考委員会委員長/理化学研究所）

8. 2014 年度優秀賞・奨励賞表彰式

日 時：9月30日（火）19時00分～（予定）

会 場：懇親会（ホテル日航奈良）

9. 2013 年度最優秀奨励賞受賞者シンポジウム

日 時：9月30日（火）13時30分～15時30分

会 場：奈良県新公会堂 1階 第5会場（能楽ホール）

座 長：村松里衣子（大阪大学大学院医学研究科分子神経科学）

タイトル：神経血管相互依存症の分子実体と治療への展開

10. 教育口演セッション

セッション1

日 時：9月29日（月）8時30分～10時00分

会 場：奈良県文化会館地下1階 第4会場（多目的室）

座 長：Peter Sonderegger (Department of Biochemistry, University of Zürich)

熊本奈都子（名古屋市立大学大学院医学研究科機能組織学）

セッション2

日 時：9月29日（月）13時30分～15時30分

会 場：奈良県文化会館地下1階 第4会場（多目的室）

座 長：Robert Pawlak（Functional Cell Biology, University of Exeter Medical School）
田村英紀（星薬科大学先端生命科学研究センター（L-StaR））

セッション3

日 時：9月29日（月）15時30分～17時30分

会 場：奈良県文化会館地下1階 第4会場（多目的室）

座 長：Zu-Lin Chen（Laboratory of Neurobiology and Genetics, The Rockefeller University）
牧之段学（奈良県立医科大学精神医学講座）

11. 神経化学教育セッション優秀発表賞

日 時：9月30日（火）19時00分～（予定）

会 場：懇親会（ホテル日航奈良）

12. 第7回（2014年）神経化学若手研究者育成セミナー

日本神経化学会では、明日の神経化学を支える人材の養成を目指し、神経化学の若手研究者育成セミナーを大会に併せて開催しております。これまでのセミナーでは、第一線で研究に携わる講師陣が、最新の研究内容や実験手法、さらには研究者としての心構えなどについて熱心に講義し参加者と討論されてきました。神経化学会は深く討論することを重視する伝統がありますが、本セミナーでもこの伝統が受け継がれています。

日 時：2014年9月29日（月）～10月1日（水）

会 場：奈良県文化会館および天平旅館

奈良県文化会館 奈良市登大路町6-2 TEL：0742-23-8921
天平旅館 奈良市東向中町9 TEL：0742-22-0551

講師・講義タイトル（予定）：

グループ	講 師	総合講義タイトル	講義タイトル	チューター
A	野田 百美 （九州大学）	【ダイバーシティ推進委員会企画】	ミクログリアの機能 up to date	高野 哲也 （名古屋大学）
	熊本 奈都子 （名古屋市立大学）	神経系の基礎から先端技術まで	in vivo アプローチによる神経新生メカニズムの解析	
B	白尾 智明 （群馬大学）	in vitro におけるシナプスイメージングの最前線		岸 宗一郎 （発達障害研究所）
	小金澤 紀子 （群馬大学）			
C	今泉 和則 （広島大学）	神経系における細胞ストレス	小胞体ストレス	平山 友里 （山梨大学）
	上原 孝 （岡山大学）		酸化ストレス	
D	池中 一裕 （生理学研究所）	グリア細胞と精神疾患	オリゴデンドロサイトと精神疾患	小澤 貴明 （理化学研究所）
	富田 博秋 （東北大学）		ミクログリアと精神疾患	

E	等 誠司 (滋賀医科大学)	精神疾患の病態に迫る	精神科医ではない立場から	飯田 諭宜 (北里大学)
	鬼塚 俊明 (九州大学)		精神科医の立場から	
F	仲嶋 一範 (慶應義塾大学)	大脳皮質の発生・発達とその 機能破綻による精神障害	動く細胞たちによる大脳皮 質形成機構とその破綻	中澤 瞳 (奈良先端科学技術 大学院大学)
	牧之段 学 (奈良県立医科大学)		脳機能破綻による行動異常 の検出の仕方～マウスモデ ルを中心に～	
G	尾藤 晴彦 (東京大学)	分子から認知へ：from mol- ecules to cognition	神経回路の謎を解く鍵とな る分子経路	渡辺 和泉 (新潟大学)
	橋本 亮太 (大阪大学)		神経化学が読み解く精神疾 患の病態メカニズム	

タイムテーブル：

9月29日(月)	18:35	集合	奈良県文化会館内 エントランスホール
	18:35～19:00	全体説明・写真撮影	奈良県文化会館
	19:00～21:00	夕食・グループディスカッション	奈良県文化会館
	21:00～21:30	天平旅館へ移動、チェックイン	
	21:30～消灯	グループディスカッション	天平旅館、天平の間
9月30日(火)	7:00～7:30	朝食	天平旅館、天平の間
	7:40～8:10	奈良県文化会館に移動	
	8:30～	大会参加(自由行動)	奈良県文化会館、奈良県新公会堂
	18:35	集合	奈良県文化会館内 エントランスホール
	18:40～19:00	ホテル日航奈良へ移動して懇親会 に参加	
	19:00～21:00	夕食・グループディスカッション	ホテル日航奈良
	21:00～21:30	天平旅館へ移動	
	21:30～消灯	フリーディスカッション	天平旅館、天平の間
10月1日(水)	7:00～7:30	朝食	天平旅館、天平の間
	7:40～8:10	チェックアウト後、奈良県文化会 館に移動	
	8:30～	大会参加(自由行動)	奈良県文化会館、奈良県新公会堂

世話人会：

大会長	塩坂 貞夫	奈良先端大・バイオサイエンス
世話人代表	橋本 均	大阪大・院薬/5 大学連合大学院小児発達
世話人副代表	田村 英紀	星薬大・先端生命科学研究センター
世話人	石塚 祐太	群馬大・院医
〃	石川 保幸	前橋工科大・システム生体工学
〃	笠井 淳司	大阪大・未来戦略
〃	小泉 修一	山梨大・医
〃	橋本 亮太	大阪大・院医/5 大学連合大学院小児発達
〃	和田 圭司	精神・神経センター・疾病四部

〃	村松 里衣子	大阪大・院医
〃	田中 謙二	慶応大・医

問い合わせ先：

星薬科大学 先端生命科学研究センター（L-StaR）田村 英紀

TEL：03-5498-5845

E-mail：h-tamura@hoshi.ac.jp

URL：http://web.apollon.nta.co.jp/jsbpjsn2014/sinkeikagaku.html

理事会議事録

2014 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2014 年 3 月 31 日（月）13：00～17：40

会 場：（一財）国際医学情報センター第 2 会議室

出 席：木山博資（理事長）、白尾智明（副理事長・国際対応委員会委員長・第 58 回大会長）、仲嶋一範（庶務担当）、今泉和則（会計担当）、佐藤真（出版・広報担当）、石崎泰樹（研究助成金等候補者選考委員会委員長）、岡野栄之（脳研究推進委員会委員長）、神庭重信（利益相反委員会委員長）、小泉修一（将来計画委員会委員長）、塩坂貞夫（第 57 回大会長）、池中一裕、等誠司、道川誠、米田幸雄（以上 理事）、御子柴克彦（監事）、和田圭司（連合大会委員会委員長・第 59 回大会長）、馬場広子（ダイバーシティ推進委員会）、加藤忠史（優秀賞・奨励賞選考委員会委員長）

委任状：橋本均（理事）、熊倉鴻之助（監事）、斎藤祐見子（シンポジウム企画委員会委員長）

議 題

【報告事項】

1. 2013 年度第 2 回理事会議事録承認について

木山博資理事長より、先般持ち回り審査を行い、承認が得られている旨報告があった。

2. 理事長報告

木山博資理事長より、本日は議題が多いため、この場での報告事項は特になしとするも、後ほど報告議題第 10 項にて第 56 回大会の報告と、いくつかの審議事項について討議をしたい旨述べた。

3. 庶務報告

仲嶋一範庶務担当理事より、以下の通り報告があった。

◆会員状況について

会員数動向について報告があり、その後、物故会員 2 名に対し黙祷が捧げられた。

◆除名について

年会費長期未納者（未納期間：2010 年度～）36 名に対し、2013 年 12 月 31 日付けで、除名処理を行った。

◆評議員の退会希望について

退会を希望している 4 名の評議員について、うち 3 名については度重なる慰留にも関わらず退会の意思が固いため、退会処理を行なった。また、1 名については、功労会員としてご継続いただくことを確認した。

4. 会計報告

今泉和則会計担当理事より、以下の通り報告があった。

◆年会費未納者数について

年会費未納者数について報告があった。

特に本年度中に未納が解消されない 2011 年からの長期未納者については、本年度末日付けで除名処理となる為、理事会メンバーから連絡可能な該当者へ納入・会員継続喚起を行う。

また、評議員で長期未納者となっている会員へは、未納金を納めたのちに功労会員へ推薦する等の提案があった。

◆2013 年度税務申告について

税務申告について、法人税等は 70,000 円、消費税 106,100 円を申告済みである旨報告があった。
また、2015 年度は消費税の納税義務者となった。

◆2013 年度監査について

2014 年度 3 月 7 日午後 1 時より事務局内にて、2013 年度決算について御子柴克彦、熊倉鴻之助両監事によって会計監査が行われた。その結果、収支内容及び財政状況について正しく示されている旨認められた。

なお、御子柴克彦監事より、監査報告について以下の通り補足があった。

監査当日は、本学会顧問四谷パートナーズ会計事務所から税理士が同席し、2013 年度決算・税務報告の説明があり、当学会会計が正しく行われていることを確認した。

5. 出版・広報報告

佐藤真出版・広報担当理事より、以下の通り報告があった。

◆機関誌『神経化学』について

2013 年度は 52 巻 1 号～3 号の年間 3 号の発行であった。また、2014 年度の 53 巻 1 号は 3 月末日の発送を予定している。

◆HP について

HP では、今後、DOI (Digital Object Identifier) を付与した神経化学トピックス 4 件を掲載予定としている。

6. 委員会報告

(1) 将来計画委員会

小泉修一委員長より、以下の通り報告があった。

◆他の学会等の若手コミュニティーとの交流について

当学会が参加している日本学術会議若手アカデミー委員会「若手研究者ネットワーク」では、分野を超えた日本初の大規模若手研究者のネットワークを確立すべく、まず各コミュニティーの状況報告を行った。

◆若手研究者育成セミナーについて

1) 将来計画委員会内若手研究者育成セミナー担当委員について

前回の理事会より、将来計画委員会内にセミナー担当委員を設置することとなった為、同担当委員は、セミナーのノウハウを継承・発展させる役割を担うこととする。

なお、現将来計画委員会セミナー担当委員は以下の通りである。

小泉修一（山梨大学）、田中謙二（慶應義塾大学）、新田淳美（富山大学）、橋本亮太（大阪大学）、村松里衣子（大阪大学）、和田圭司（国立精神・神経医療研究センター）、以上敬称略（50 音順）

また、各大会におけるセミナーの世話人会は、上記将来計画委員世話人（若干名）と、大会長指名世話人（若干名）から構成されることとし、後者については、拡大将来計画委員として本委員会へ出席することとする。

2) 今年度若手研究者育成セミナーについて

今年度のセミナーの世話人は、以下の通りである。

世話人代表：橋本均（大阪大学）、世話人副代表：田村英紀（奈良先端大）、世話人：石川保幸（前橋工科大学）、石塚佑太（群馬大）、笠井淳司（大阪大学）、以上敬称略（50 音順）

また、今回のセミナーの特筆すべき点は、日本生物学的精神医学会と合同であるため、同学会からも参加者を募り、講師も派遣してもらう次第としている。

◆当学会の活性化について

他学会への出前発表や出前講義を行う等継続審議事項について、引き続き委員会内で検討する。APSN庶務担当理事である米田幸雄理事より、出前講義等海外で実施することも積極的に検討、具体的には、奨励賞受賞者クラスの若手研究者を APSN のスクールや大会へ推薦してほしい旨要望があった。

(2) 出版・広報委員会

佐藤真委員長より、以下の通り報告があった。

◆DOI (Digital Object Identifier) 番号取得について

2013年9月13日付メール審議にて承認となった DOI 番号取得について、先日3月3日付にて、ジャパンリンクセンター (JaLC) より当学会が正式に登録された旨の通知があった。

◆HP「神経化学トピックス」の掲載について

上記により、今後の本学会ホームページ「神経化学トピックス」掲載分より、随時 DOI 付与していきたい。

◆当会 HP 投稿規定 (執筆者資格) について

2013年11月13日付メール審議にて承認となった HP 執筆要領記載「執筆者の資格」については、「HP での執筆者の資格は原則として筆頭著者と責任著者は会員とする。ただし筆頭著者が非会員である場合には、会員である責任著者が筆頭著者に会員になって頂くよう最大限の努力を行なう。

どうしても会員になって頂けない場合には、会員である責任著者よりの投稿である旨 HP に記載する。」となった。

なお、同執筆要項へは、先ほどの DOI の付与の件を反映させるべく再度改定を行い、正式に施行することとしたい。

◆一斉メール配信について

現在実施している「ホームページ更新のお知らせ」の一斉メール配信について、同配信を止めるよう要望があったため、委員会内で討議した。

その結果、同様の要望はごく少ないため、今しばらく様子を見ることとなった。

◆会員検索システムの状況について

ここ数年利用ができなくなっている会員管理システムについては、現在まで無償対応だった為、今後は改めて費用の見積りを取るか、または、別業者の対応も検討する。

◆電子書籍パスワード (個人パスワード) について

新年度 (2014 年度) となったため電子書籍 KaLib のパスワードを変更し、2014 年度年会費請求書とともに会員へ通知を実施した。

(3) シンポジウム企画委員会

斎藤祐見子委員長欠席の為、代理として仲嶋一範庶務担当理事より、以下の通り報告があった

◆2014 神経化学公開シンポジウムテーマについて

2014 年日本神経化学会公開シンポジウムのテーマは「神経化学 (精神疾患) におけるエピジェネティクス研究 (仮題)」とし、オーガナイザーは大西浩史氏 (群馬大学)、畑田一穂氏 (群馬大学) に務めていただくことが、2014 年1月23日付メール審議された。

しかしながら、本理事会にて、テーマである「神経化学 (精神疾患) におけるエピジェネティクス研究 (仮題)」について、「神経化学 (精神疾患)」という表記が不鮮明であるという指摘があった。

また、オーガナイザーは複数いても問題がないため、上記同一所属ではないオーガナイザーをもう1名増やしてもよいのではないかとという指摘もあった。

さらに、御子柴克彦監事より、シンポジウム企画委員会のシンポジウム企画は、日本神経化学会理事会企画となるため、その本意を通すよう常に理事会メンバーが委員会には在籍すべきとの意見があった。

上記指摘や意見等を踏まえ、木山博資理事長より白尾智明副理事長が指名され、今後は委員会へオブザーバーとして参加する次第となった。

(4) 国際対応委員会

白尾智明委員長より、以下の通り報告があった。

◆12th Meeting of APSN (Taiwan) について

委員会にてトラベルグラント申請支援を行い、4名を推薦した。

なお、上記大会会期日程の直前に開催を予定している ISN-APSN Advanced School 参加希望者への申請支援も4月初旬に告知し、対応する。

◆ISN special conference 2014 について

Date : September 22-24, 2014

Venue : Yayoi Auditorium, Ichijo Hall/Annex, The University of Tokyo 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo Japan, 113-8654 Japan

Title : “Dynamic Change of Nanostructure in the Brain in Health and Disease—Cutting Edge of the Technical Innovation—”

1) トラベルグラント申請について

委員会では、日本の学生会員が応募し易いよう、トラベルグラント申請の日本語版ページの作成を予定している。

2) 日本神経化学会からの補助金について

本学会からの補助金は、既に20万円としているが、本学会の若手参加者への補助金として、予算の若手海外派遣補助金50万円のうちの30万円を追加することが審議され、承認された。

3) ISN special conference 2014 での懇親会について

今回、ISN および APSN のオフィサーが東京へ集まるため、この機会を利用し本学会をアピールすべく、本学会理事等との懇親会を企画する予定としている。

4) Young Investigator Lecturer 募集について

4月に Young Investigator Lecturer を募集するため、理事会出席者より相応しい候補者の推薦を呼びかけた。

5) ISN special conference 2014 ポスターについて

事務局を通し、ISN special conference 2014 ポスターを、本学会評議員へ配布する。

なお、その際の発送費用については本学会で負担するのではなく、ISN へ請求する。

◆Brain Bee について

岡野栄之理事より、Brain Bee の活動の紹介があり、当学会も国際対応委員会を通す等により、その活動へ早い段階から協力すべきかどうかについて議論することが提案された。

討議の結果、岡野栄之理事が Brain Bee の情報を収集し、継続的に報告していく次第となった。

(5) 研究助成金等候補者選考委員会

石崎泰樹委員長より、以下の通り報告があった。

◆2013 年 6 月～2014 年 3 月における学会推薦公募案件について

公募案件は11件あった。そのうち公益財団法人井上科学振興財団第30回井上學術賞については1件の応募があり、審議の上、推薦することとなった。また、公益財団法人内藤記念科学振興財団第45回内藤記念海外招聘助成金については1件の応募があり、審議の上、推薦することとなった。さらに、公益財団法人山田科学振興財団2014年度研究援助へは7件の応募があり、審議の上、2件を推薦することとなった。

なお、学会より推薦した候補者については、事前に理事へメールにて報告している。

◆2013 年 6 月～2014 年 3 月における推薦後の選考結果について

2013 年度 9 月に、公益財団法人内藤記念科学振興財団第45回内藤記念海外招聘助成金へ委員

会にて審議の上、1件推薦したところ、西川徹氏（東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科）、招聘学者：Prof. Joseph T. Coyle (Psychiatry and Neuroscience, Harvard Medical School)、演題：“Molecular Neurobiology of Schizophrenia Towards Development of Novel Therapy—Focus on Glutamate Systems—(tentative)”の援助が決定された。

◆2014年4月以降の学会推薦公募案件について

公募案件は1件ある。

白尾智明副理事より、猿橋賞については、ダイバーシティ推進委員会から学会推薦枠へ、毎年候補者を推挙する旨提案があった。

討議の結果、馬場広子ダイバーシティ推進委員長より、委員会へ持ち帰り対応する方向にて検討することとした。

(6) 脳研究推進委員会

岡野栄之委員長より、以下の通り報告があった。

◆日本版 NIH について

日本版 NIH については現在も継続的に情報を収集しているが、当学会としては、引き続きしっかり意見を表明していく。

◆「革新的技術による機能ネットワークの全容解明プロジェクト」の公募について

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課より、国家課題対応型研究開発事業「革新的技術による機能ネットワークの全容解明プロジェクト」の公募があった。現在、中核機関として（独）理化学研究所の採択が決まったが、今後は、臨床研究グループ等参画機関の公募が開始となる。

(7) 優秀賞・奨励賞選考委員会

加藤忠史委員長より、以下の通り報告があった。

2014年度の募集は、最優秀奨励賞が廃止となりその代りに優秀賞が新設され、その募集要項も改定となっている。その募集要項の中で注意すべき点は、優秀賞への応募資格年齢は45歳未満、奨励賞への応募資格年齢は原則として35歳未満としている点や会員歴が応募締切日までに3年満了以上、また、申請時には、過去5年程度の本学会大会における発表歴を必ず記載する点等である。なお、優秀賞へは過去に奨励賞・優秀奨励賞を受賞した会員でも、再度の応募が可能である。

(8) 連合大会委員会

和田圭司連合大会委員会委員長より、委員会としては特段の報告事項はないとした。

続いて、2016年度第59回大会について、同大会の大会長としては、同大会の大会形式は単独大会となる旨報告があった。

なお、連合大会という次第の為、この場で審議議題第12項「第60回大会（2017年度）について」について討議となったが、その内容は同第12項に記載する。

(9) 利益相反特別委員会

神庭重信委員長より、審議議題第6項「日本神経化学会利益相反指針および申告書等について」と連携している為、後ほど報告するとした。

(10) ダイバーシティ推進委員会

馬場広子委員長より、以下の通り報告があった。

◆若手研究者育成セミナーについて

昨年の第6回セミナーに続き、今年度開催の第7回セミナーへも、以下の本委員会委員が講師として参加し、セミナーを通してダイバーシティを啓蒙する。

野田百美（九州大学）、熊本奈都子（名古屋市立大学）、以上敬称略

◆男女共同参画学協会連絡会の活動について

連絡会企画シンポジウムへの参加、連絡会からの、政府への要望書作成等の活動を行っている。米田幸雄理事より、今後の当学会の方向性として、男女のみならず、いろいろな差別をなくすことを視野に入れ、将来的には、企業所属の会員が理事メンバーになる、あるいは女性理事を

増やす、ということも考えるべきであるとの提案があった。

この提案に対し、木山博資理事長が、今後十分に検討していくべき事項と考えていると述べた。

7. 脳科学関連学会連合について

木山博資理事長より、以下の通り報告があった。

◆「精神・神経疾患克服に向けた研究推進の提言について」の発表について

精神科関連5学会から出された「精神疾患克服に向けた研究推進の提言」及び、日本神経学会が作成した「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」に対し、「精神・神経疾患克服に向けた研究推進の提言について」と題する学会連合声明を発表することについて、理事メンバーよりメールで収集した意見をまとめ、連合へ提出した。

◆脳科学関連学会連合の動向について

連合脳科学将来構想委員会委員である小泉修一理事より、以下の通り報告があった。

2013年度は8回の委員会活動があり、主に、新しい脳プロのプロジェクトへ、日本学術会議のマスタープランへの起案・提出、日本版NIHに対し対抗案作成や、昨年の包括脳ネットワークのミーティングではシンポジウムを実施、また、日本学術会議脳科学関連学会ではシンポジウムを加藤忠史優秀賞・奨励賞選考委員長が対応した。

8. 生物科学学会連合について

仲嶋一範庶務担当理事より、以下の通り報告があった。

◆動物実験の適正な実施に向けた指針ないし基準の必要性について

世界的には脊椎動物全てが規制対象とされているが、日本国内では、哺乳類、鳥類および爬虫類だけが対象となっており両生類および魚類は対象外であるため、小中高生が脊椎動物実験で優れた成績を収めても世界で認められない。その為、日本動物学会および日本動物実験学会等を中心に、連合としても対応策を考えていくことになった。

◆国際生物学オリンピック開催について

国際生物学オリンピック 2020 年が日本で開催される予定である。

◆ポストク問題検討ワーキンググループ委員推薦について

当学会からは竹居光太郎氏をその委員として推薦することとした。

なお、約1週間前に第1回の委員会があったが、その報告は後日とする。

◆日本学術会議「声明 科学者の行動規範」について

連合より、研究倫理や不正に対する学会のスタンスを明確にしてほしい旨各加盟学会へ要望があった。

◆教科書問題検討委員会（生科連）第1回会議について

本学会より上記委員会へ委員として参加している、石崎泰樹理事より、以下の通り報告があった。

第1回会議（2013年12月26日開催）では、学習指導要領改訂により、各教科書間で内容の開きが大きく、また用語も不統一である為、大学入試等で問題が生じている。そこで、この委員会では、用語を統一し、学術用語集の改訂も行うこととした。

後日（3月初旬）、高等学校生物教科書の検討依頼があり、当該教科書14冊が送られてきたが、検討の締切が4月18日と迫っている為、木山博資理事長および白尾智明副理事長と相談の上、石崎泰樹理事及び同じ群馬大学内の当学会会員が分担し、各教科書の用語の確認を行うこととなった。

なお、上記につき、後ほど審議議題第7項「教科書問題検討委員会（生科連）からの依頼事項について」にて、その検討結果につき審議することとした。

9. 男女共同参画学協会連絡会について

馬場広子ダイバーシティ推進委員長より、以下の通り報告があった。

2014年3月14日付メール審議にて承認となった、政府省庁等へ提出予定の連絡会要望書について、その後、再度上記連絡会から文言の表現に訂正があり、改訂版が送られてきた。
なお、本日まで同改訂版についての承認・不承認を上記連絡会へ報告する為、本理事会で同改訂版が確認され、改めて承認された。

10. 第56回大会（2013年度）について

木山博資大会長より、第56回大会（2013年度）について、挨拶と謝辞が述べられた。

第56回大会は日本神経科学学会、日本神経回路学会との合同大会 Neuro2013 であったが、日本神経科学学会加藤忠史大会長、日本回路学会五味裕章会長との連携もスムーズに行われ、成功裏に終わった。

11. 第57回大会（2014年度）について

塩坂貞夫大会長より、以下の通り報告があった。

◆会場が、奈良県文化会館と奈良県新公会堂の2箇所になるため、会期中は、参加者が両会場を行き来できるようシャトルバスを走らせる。

◆シンポジウム公募は、合同大会となる日本生物学的精神医学会からの申込みと併せ、全34題の応募があった。

◆若手研究者育成セミナーは、既に将来計画委員会より報告の通り、本学会会員に限らず、日本生物学的精神医学会会員であっても参加できる。

なお、同セミナーの、9月29日、30日の集合場所は、奈良県文化会館とする。

◆第57回大会は日本生物学的精神医学会との合同大会の為、「合同年会会計に関する覚書」を作成した。

上記報告内容について、以下の通り、質疑応答があった。

◆若手研究者育成セミナーの費用については、日本生物学精神医学会員も参加可能ということなので、同学会からサポートはあるのか。

⇒特にその予定はない。

◆ISN シンポジウムの企画はないのか。

⇒まだ ISN へ申請していなかった為、これから行いたい。

なお、上記について、木山博資理事長より、第55回大会から続いている企画であり、可能であれば ISN より演者を招請するよう進言された。また、ISN 財務担当理事を務めている池中一裕理事からも、ISN へ申請の際は、その表記を「国際シンポジウム」とせずに「ISN シンポジウム」として申請するよう進言された。

◆現在予定している国際シンポジウムでは、海外からの演者の為に、発表時間を長くするよう1枠を2枠に分けてはどうか。

⇒検討したい。

◆各シンポジウムのシンポジストの発表時間と、その後のオーラルセッションの時間は決まっているか。

できるだけ、オーラルセッションの時間を長くとった方がよい。

⇒まだ正式に決まっていないが、合同学会である為、オーラルセッションの時間は10分講演・5分質疑応答とみている。

◆シンポジウムのテーマの中で、似たタイトルが見受けられるが、区別できるようにした方がよい。

⇒プログラム委員会にて対応する。

◆各シンポジウムの言語が統一されていない様だが、海外からの参加者向けに、英語/日本語の表記の対応を考えているか。

⇒シンポジウムを申し込んだ時点で、オーガナイザーと座長で言語を決めているが、その際に英語としていても、シンポジウム当日に、日本語になっていたというケースもある為、徹底は難しい。

- ◆一般口演とシンポジウムの時間が重ならないよう、配慮をした方がよいのではないか。
⇒プログラム構成上、いくつかの一般口演とシンポジウムが重なるのは止むを得ないとし考える。
- ◆恒例となっている、若手育成オーラルセッションの企画はあるのか。
⇒現在未定だが、検討したい。
なお、上記について、木山博資理事長より、時間は半日、場所は一会場として対応するよう指示があった。
また、池中一裕理事からも、オーラルセッションへは、議論の盛り立て役として discusser を選出するよう忠告があった。
塩坂貞夫大会長より、ポスターセッションの時間帯について、現時点では朝一番の時間帯を検討しているが、他代案について意見を求められた。
米田幸雄理事より、夕方5時頃から軽食を用意して行う旨提案があり、その案について検討することとなった。
最後に、木山博資理事長より、その他第57回大会について何か気づいた点がある際は、随時、塩坂貞夫大会長へ直接連絡をすることとした。

12. 第58回大会（2016年度）について

- 白尾智明大会長より、以下の通り報告があった。
会期については2015年9月11日（金）～13日（日）の通り変更はない。しかし、大会会期と同時期に開催予定とする若手研究者育成セミナーについて、まだ日程等具体的な事項が決まっていない為、早急に決めたい。

13. その他

- 特になし。

【審議事項】

1. 名誉会員の推薦候補者について

- 仲嶋一範庶務担当理事より、ご年齢、ご経歴や当会への貢献度等を踏まえ、候補者として中村重信氏が推薦され、審議の結果、総会への推薦が承認された。

2. 功労会員の推薦候補者について

- 仲嶋一範庶務担当理事より、報告議題第3項にて報告のあった福井裕行氏について再度報告があり、審議の結果、総会への推薦が承認された。

3. 新評議員の推薦について

- 仲嶋一範庶務担当理事より報告され、審議の結果、計4名の候補者について総会への推薦が承認された。
また、2013年度奨励賞受賞者の新評議員への推薦については、次回理事会時にて、審議することとなった。

4. 2013年度決算について

- 今泉和則会計担当理事より、2013年度決算等について以下の通り報告があり、承認された。

◆2013年度一般会計決算について

- 一般会計については、第56回大会が大きく黒字となり、また2012年度より繰り越していた第55回大会会計も締めた為、黒字にて終了することができた。

◆第56回大会会計決算について

第56回大会会計については、Nuero2013という合同大会だったこともあり、収支決算が大幅黒字となった為、木山博資大会長に謝意が述べられた。

◆第55回大会会計決算について

第55回大会会計については、2012年度決算時に精算案件が残っていた為に2013年度へ繰り越しとなったが、すべて同年度内に精算を終え、会計を締めた。

また、木山博資理事長より、今年度一般会計について、今年度は4月より消費税が8%へ増税となる為、事務局業務委託費がその分増額となる次第を説明し、了承を得た。

5. 機関誌掲載論文の機関リポジトリの公開について

佐藤真出版・広報担当理事より、機関誌掲載論文について、旭川医科大学より機関リポジトリでの公開要請があった旨報告があった。なお、要望公開内容は『神経化学 vol. 51 (No. 3)、2012』掲載「奨励賞受賞者研究紹介」71頁から81頁である。

審議の結果、2010年度第1回理事会時の同様審議に倣い、以下の条件で公開を許可することとした。

- 1) 当会理事会にて承認を受ける。なお、著者へ要請があった旨通知する。
- 2) リポジトリ管理機関が著者の承諾を得る。
- 3) 出典を明記する。
- 4) 学会事務局へ報告する。

6. 日本神経化学会利益相反指針および申告書等について

神庭重信利益相反委員長より、本学会において利益相反(COI)を導入するにあたり、まずは煩雑にせず、必要最小限度のところからスタートし、少しずつ臨機応変に見直していくということを念頭において指針(案)を作成し、委員会内にて討論を行った経緯について、説明があった。

引き続き、仲嶋一範庶務担当理事より、本学会COI指針(案)について、以下の通り、説明があった。

- 1) 対象者が勤務先でCOIを管理している場合と管理されていない場合で、申告書の形式が異なる。
- 2) 対象者が勤務先でCOIを管理している場合は、その旨記載のある申告書を、就任後一か月以内に事務局へ提出する。申告書は事務局にて厳封保管し、必要が生じた場合にのみ勤務先へ提出している申告書を要請する。その後、理事会の承認の下、秘密保護の誓約書へ署名の上、原則として理事長及び利益相反委員会委員に対してのみ開示されることとなる。
- 3) 対象者が勤務先でCOIを管理していない場合は、COI状況を記載する申告書を、就任後一か月以内に事務局へ提出する。申告書は事務局にて厳封保管し、必要が生じた場合にのみ、理事会の承認の下、秘密保護の誓約書へ署名の上、原則として理事長及び利益相反委員会委員に対してのみ開示されることとなる。
- 4) 就任時提出し、以降の提出は就任日から一年後とする。但し、引き続き勤務先で管理されている場合、または申告書の内容に変更がない場合には、一年後の提出は要しない。
- 5) 大会時は、演題登録時から遡った一年間、その発表内容にかかわるCOI状態として開示すべき事項がある場合には、その内容を原則として演題登録時に開示する。
- 6) 申告すべき事項の金額等の判断基準については、基本的に、日本医学会のCOIガイドラインに準拠するものとした。

上記その他同(案)について、以下の通り、討議した。

◆委員会提出後事務局にて厳封保管、必要が生じてから申告書を開示する、というプロセスではなく、先に委員会で申告書の内容を確認しておいた方がよいのではないか。

⇒役員等就任時の申告については、その後の一年間にどのような活動にその役職者が関わるか不明な部分が多く、今後の活動内容を正確に予想してCOIについて精密に事前審査することは困難である。また、重要な個人情報を含む申告書を事前審査して管理する場合の労力や体制という面でも現実的とは言えないため、本学会では、必要が生じてから、「理事会の承認後に秘密保護の誓約書に署

名の上、原則として理事長および利益相反委員会にのみ開示される」という案とした。

- ◆上記同様プロセスにおいて、申告書を開示する「必要が生じた場合」というのは、一体どんな場合か。また、「必要が生じた場合」に開示するとして、それからでは、それまでに開示をしなかったとして本学会側の責任は問われないのか。

⇒「必要が生じた場合」というのは、特定の COI 状態に係る問題につき社会一般からの信頼を保持すべく学会が説明責任を果たすべき状況が生じた場合が該当する。一般的には、社会通念上深刻な COI 状態にあたりそれによって活動内容にバイアスがかかる可能性がある懸念される状態であるにもかかわらず本人が申告していなかった場合に、そのような状況が発生する可能性がある。それを防ぐためには、各個人の判断で、例えばあるポストへの就任を求められた際にそれに就任すると COI 状態が発生すると考えられた場合には就任を辞退するなどの対応が求められる。現在の学会の体制を考えるとトップダウン方式ですべての COI の管理を行うことは現実的ではないため、COI 状態の有無の最終的な判断については個人の判断となり、それを社会がどの様に受け止めるかということになる。本学会の当面の COI に対するスタンスとしては、会員に注意喚起して COI に対して自覚を持っていただき、COI 違反とならないように促す点がまずは重要であると考えます。

- ◆申告書の提出については、会員の中には頻繁に COI の内容が変更する会員も想定される。

⇒当初は変更が生じた際には随時修正申告を行うという案を叩き台としたが、委員会での審議の結果、現実的なことを考え、まずは一年に一度の申告というルールを決め、そこからスタートすることとなった。なお、「役員等に就任した後、任期中に学会活動に関わる利益相反状態が新たに発生した場合には、修正申告を随時提出することができる。」と定めてあり、任期途中の修正申告については必要に応じて自己判断で行っていただく形としてある。

- ◆勤務先に申告するタイミングと、本学会へ申告書を提出するタイミングがずれた為に、そのタイムラグの間に COI の内容も多少変わる可能性もあると思うが、その点はどう考えるのか。

⇒当初はその点についても懸念し、それにも対応できる案を叩き台としたが、審議の結果、まずは現実的で労力の少ない、簡便な申告形式でスタートすることになった。

- ◆大会時の COI の取り扱いはどうなるのか。

⇒「原則として演題登録時に開示するものとする。演題登録以降発表当日までに変更があった場合は、その内容を発表時に使用するスライドまたはポスターに記載する等の方法で開示する」としてある。また、共同発表者の COI 状態については、代表者がとりまとめる。

なお、第 57 回大会では、塩坂貞夫大会長より、スライド挿入やポスター記載にて対応する旨報告があった。但し、この時の形式は自由とする。また、第 58 回大会については、上記の通り演題登録時に開示できるよう対応してほしいとした。

- ◆利益相反の状況を申告すべき対象者についてはどうするか。

⇒複数の案が提案され、審議の結果、理事、監事、大会長、各種委員会（ワーキンググループを含む）委員長、利益相反委員とすることになった。

米田幸雄理事より、COI は、本来研究者を保護する目的のものである為、本学会でも導入することは多いに賛成である旨述べられた。

最後に、木山博資理事長より、以下の通りの提案があり、同意を得た。

本指針（案）については、当理事会で承認された後、第 57 回大会会期中の総会にて審議、承認を経て、平成 27 年 4 月 1 日からの運用とする。但し、現理事会は、それを待たずに自主的に申告を実施することとし、本指針（案）を 4 月の半ばまでに各理事にてもう一度見直し、メール審議にて承認を得た後、現対象者は申告書を提出する。

7. 教科書問題検討委員会（生科連）からの依頼事項について

同委員会へ本学会から参加している石崎泰樹理事より、以下の通り報告があり、検討結果の提示があった。

報告議題第6項に関連し、生物科学学会連合教科書問題検討委員会から送られてきた14冊の教科書について、群馬大学所属本学会会員と手分けし、それぞれの教科書を検討した。

白尾智明副理事長より、特に気づいた点について補足するよう要望があり、以下の事例が挙げられた。

◆東京書籍『基礎生物』P108 記載

「脾臓のランゲルハンス細胞のA細胞、B細胞」→「 $\sim$ α 細胞、 β 細胞」の方が一般的である。

◆東京書籍『生物』P218

「筒状のシュワン細胞でできた神経鞘」→シュワン細胞が神経鞘を作るのは末梢神経系で中枢神経系ではオリゴデントロサイトが神経鞘を作る、という記述があるべきである。

加藤忠史優秀賞・奨励賞選考委員会委員長より、生物教育という観点から、従来からある「ヒト」は「保健体育」、「動物」は「生物」という括りについても問題にすべきである、との旨意見があった。これに対し、石崎泰樹理事より、その点について、生科連の教科書問題検討委員会でも指摘があったが長期的な議論が必要である旨の説明があった。

なお、今回の検討結果について、気づいた点や意見等があった場合は、4月17日までに、石崎泰樹理事へ各自申し出ることとした。その上で、4月18日までに、本学会の検討結果を教科書問題検討委員会（生科連）へ送ることとなった。

また、仲嶋一範庶務担当理事より、生科連ではこれらの各加盟学会の検討結果をとりまとめ、用語集を作成して、今後の教科書製作にあたっての参考としていただく予定である旨の補足があった。

8. 年会費滞納会員退会に関する会則改定について

仲嶋一範庶務担当理事より、以下の通り草案が示され、審議の結果、承認された。

第12条 会員で退会しようとするものは退会届を提出し、その届出が本学会学術集会以降である場合は、その年度の会費まで完納するものとする。

なお、現在敢行している毎年度末の除名処理について、会則に記載がないため、その処理の経緯を確認し、次回理事会で会則を改定することが決まった。

9. 会員増員に向けた具体策について

仲嶋一範庶務担当理事より、年間の退会者数と除名者数を合わせると、その人数は入会者数より大きく上回っており、これが会員数減少に繋がっていると考えられる為、会員増員に向け入会者を増やす対策、或いは退会を防ぐ対策について、提案を求めた。

まず、仲嶋一範庶務担当理事より、以下の提案があった。

◆ベストポスター賞、ベスト口演賞等、大会での活動を対象とする賞を増設する。

◆若手研究者育成セミナーの対象にならない世代の、特に基礎系研究者へ積極的に働きかける。

◆臨床系のうち精神科以外、特に神経内科領域の会員数の増加を積極的に図る。

和田圭司連合大会委員長より、神経内科領域等の臨床系の会員を増やすには、残念ながら本学会ではそれらの方が活動するにはメリットが少ない等の意見があった。

等誠司理事より、大会が平日開催となると病院勤務ではまず参加できない、しかしながら、ベーシックなことを勉強したいと希望する声もあるので、そういう意見を取り込む工夫を考える等の提案があった。

加藤忠史優秀・奨励賞選考委員会委員長より、本学会と同様学会員の減少という問題を抱えて学会と、大会開催等連携してゆく等の提案があった。

米田幸雄理事より、若手研究者育成セミナーの様に、セミナーへ参加した会員の退会率が低いという例に鑑み、ターゲットを変えた同様の試みを企画してはどうか等の提案があった。

上記提案に対し、小泉修一理事より、若手研究者育成セミナーの対象にならない世代についての働きかけとして、現在セミナーへチューター制度として、参加世代と講師世代の中間層の会員を派遣する試みを行っている、との報告があった。そして、このチューター制度が定着するようであれば、今後

はその人数も増やしていきたい旨補足した。

最後に、木山博資理事長より、当議題は長期的に討議する必要があるので、引き続き議論していく旨提案があり、了承された。

10. 女性会員・評議員の増加について

木山博資理事長より、現在の本学会では女性理事がいない為、将来的な女性理事候補者となる女性評議員を増やす、また、この機会に女性会員の増加を図る等検討したい旨提案があった。

討議の結果、上記に対し異論は出なかった。その為、木山博資理事長の更なる提案により、理事各位にて現時点で評議員候補者と成り得る女性正会員がいる場合は、次回理事会までに推薦することが了承された。

また、ダイバーシティ推進委員長会においても女性評議員推薦候補者を選出し、推薦するよう提案され、審議のうえ承認された為、馬場広子ダイバーシティ推進委員長がその旨了承した。

なお、米田幸雄理事より、女性正会員で長期会員歴の方々の中には、評議員、さらに功労会員の推薦に値する方もいる、との指摘があった。その為、木山博資理事長より、その様に該当する会員については、次回理事会で推薦するよう提案があり、その旨了承された。

11. 賛助会員増員に向けた具体策について

仲嶋一範庶務担当理事より、ここ数年毎年賛助会員より退会の申し出が続いている旨報告があり、賛助会員についても、退会を防ぐ、或いは増員する方法等検討したいとし、意見が求められた。

まず、仲嶋一範庶務担当理事より、本学会役員は、他学会においても重要な役職を務めている方が多い為、本学会大会へ参加するとその様なキーパーソンに会う機会となる点をアピールする等の提案があった。

今泉和則会計担当理事より、企業向けのシンポジウムを企画する等の提案があった。

米田幸雄理事より、企業名を冠にしたシンポジウムを企画する等の提案があった。

木山博資理事長より、同案件については、昨今の経済状況と企業側の状況もある為、すぐに良案を出すことは難しいとし、審議議題第9項同様に、引き続き検討していく旨提案し、了承された。

12. 第60回大会（2017年度）について

木山博資理事長より、第60回大会（2017年）について、同大会をNeuro大会（日本神経科学学会、日本神経回路学会、日本神経化学会、以上3学会合同）の形式とするか、意見が求められた。

討議の結果、合同学会開催について、当学会の立場での合同学会開催のメリットのみでなく、相手学会のメリットを具体的に示し、相手学会へ合同大会の提案を申し入れる準備を行なうこととした。

13. その他

仲嶋一範庶務担当理事より、報告議題第8項で触れた日本学術会議「声明 科学者の行動規範」をHPへ掲載する旨提案があり、同意された。

以上を以て、予定した全ての議事を終了し、本年度第1回理事会を閉じた。

次回の日本神経化学会（第 58 回大会、大宮）について

まもなく、第 57 回神経化学会大会が生物学的精神医学会との合同大会として奈良で開催されます。大会の成功へ向けて、会員の皆様には、格別のご配慮をいただいているものと存じます。さて、次回 2015 年第 58 回日本神経化学会大会は単独大会として、「マテリアルブレイン～分子が奏でる脳のハーモニー～」のテーマのもと、以下の日程・場所で開催することになりました。

日時：2015 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）

場所：大宮ソニックシティー

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5

TEL：0742-23-8921 FAX：0742-22-8003

久しぶりの単独大会となりますので、なるべく口演に重きを置いたプログラムを組みたいと考えております。また、シンポジウムは通常の公募シンポジウムに加えて若手研究者によるミニシンポジウムの公募も予定しております。公募の詳細は、10 月中に、本学会ホームページ (<http://www.neurochemistry.jp/>) に掲載予定ですので、会員の皆様の積極的な応募をお待ちいたしています。

第 58 回大会を成功させるため、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第 58 回日本神経化学会大会

会長：白尾 智明（群馬大学大学院医学系研究科 神経薬理学分野 教授）

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

TEL：027-220-8052 FAX：027-220-8053

e-mail: tshirao@gunma-u.ac.jp

【助成・褒章案内】

公益財団法人 東レ科学振興会

第 55 回（平成 26 年度）東レ科学技術賞候補者推薦要領

候補者の対象：日本神経化学会が関与する分野で、下記のいずれかに該当する方

- (1) 学術上の業績が顕著な方
- (2) 学術上重要な発見をした方
- (3) 効果が大きい重要な発明をした方
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献した方

科学技術賞：1 件につき、賞状、金メダルおよび賞金 500 万円（2 件以内）

推薦者：東レ科学振興会指定学協会代表者及び東レ科学振興会指定推薦委員（非公開）

候補者推薦件数：1 学協会から 2 件以内および 1 推薦委員から 1 件以内

推薦手続：所定の推薦書用紙に選考に必要な事項を正確に記載し、東レ科学振興会宛て 1 部ご送付願います。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、日本神経化学会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会にて選考の上、推薦候補者を決定致します。

推薦用紙等詳細はこちら >>http://www.toray.co.jp/tsf/info/inf_003.html

推薦締切期日：平成 26 年 10 月 10 日（金）必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は平成 26 年 9 月 19 日（金）必着

選考方法：下記委員からなる選考委員会において選考し、東レ科学振興会理事会で受賞者を決定します。

選考委員 榊 裕之（委員長）、清水孝雄、村上正紀、山本正幸、柴崎正勝、北村隆行、
影山龍一郎、岡 眞

選考結果は平成 27 年 2 月下旬に推薦者に通知します。

科学技術賞の贈呈：平成 27 年 3 月の予定

（注）a. 推薦を受けた候補者は、その年度および次の年度にわたって選考の対象としております。したがって平成 25 年度に推薦された候補者については、平成 26 年度候補者として再度推薦の必要はありません。ただし平成 25 年度の推薦以降において、追加すべき顕著な業績または発表や受賞があり加筆が必要な場合は、再提出いただいても結構です。

b. 受賞者は、原則として 1 件 1 人とします。特に複数人であることを必要とするときは理由を明確にして下さい。

c. この科学技術賞は、所得税法（第 9 条第 1 項第 13 号ニ）の規定により非課税となっております。

d. 推薦書の用紙は、下記東レ科学振興会ホームページからダウンロードできます。

東レ科学振興会 >><http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

賞に関するお問合せ先：公益財団法人東レ科学振興会

〒279-8555 千葉県浦安市美浜一丁目 8 番 1 号（東レビル）

TEL (047) 350-6103 FAX (047) 350-6082

公益財団法人 東レ科学振興会 第 55 回（平成 26 年度）東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

候補者の対象：日本神経化学会が関与する分野で国内の研究機関において、自らのアイディアで萌芽研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時 45 才以下）。本助成が重要な研究費と位置づけられ、これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件。

従来の研究の多くが海外で行われていても差し支えありません。

研究助成金：総額 1 億 3 千万円。1 件 3 千万円程度まで 10 件程度とします。

推薦者：東レ科学振興会指定学協会代表者及び東レ科学振興会推薦委員（非公開）

候補者推薦件数：1 学協会から 2 件以内および 1 推薦委員から 1 件以内

推薦手続：所定の推薦書用紙に選考に必要な事項を正確に記載し、東レ科学振興会あて 1 部ご送付願います。
日本神経化学会の推薦をご希望の方は、日本神経化学会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会で選考の上、推薦候補者を決定致します。

推薦用紙等詳細はこちら >>http://www.toray.co.jp/tsf/info/inf_004.html

推薦締切期日：平成 26 年 10 月 10 日（金）必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は平成 26 年 9 月 19 日（金）必着

選考方法：下記委員からなる選考委員会において、提出された書類により一次選考を行ったのち面接による二次選考を経て、東レ科学振興会理事会で決定します。

なお、二次選考は平成 24 年 12 月下旬に行います。

選考委員 榊 裕之（委員長）、清水孝雄、村上正紀、山本正幸、柴崎正勝、北村隆行、
影山龍一郎、岡 眞

選考結果は平成 27 年 2 月下旬に推薦者（学協会の代表者および東レ科学振興会の推薦委員）に通知します。

研究助成金の贈呈式：平成 27 年 3 月の予定

（注）a. 東レ科学振興会の選考では、専門分野の異なる選考委員全員が関与します。推薦書の内容は、他分野の研究者にもわかりやすい表現をご使用下さい。

b. この研究助成金は、研究目的を達成するために有効に使用されるものであれば、どのような用途で申請されても結構です。ただし、原則として間接経費、管理経費、共通経費は助成の対象になりません。また、助成金受領決定後、その用途を変更される場合は、事前に東レ科学振興会の承諾を得て下さい。

助成研究の期間は、特別の事情がない限り助成金受領決定の次年度から 3 年以内とします。

c. 助成金の受領者は、研究終了時まで毎年「助成研究年次報告書」を、また研究終了時に、「助成研究終了報告書」を提出していただきます。

d. この助成金は、所得税法（第 9 条第 1 項第 13 号ニ）の規定により非課税となっています。

e. 推薦書の用紙は、下記東レ科学振興会ホームページからダウンロードできます。

東レ科学振興会 >><http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

賞に関するお問合せ先：公益財団法人東レ科学振興会

〒279-8555 千葉県浦安市美浜一丁目 8 番 1 号（東レビル）

TEL (047) 350-6103 FAX (047) 350-6082

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団 第 29 回塚原仲晃記念賞受賞候補者推薦要領

趣 旨：生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている、当該年度（平成 27 年 3 月 31 日まで）において 50 歳以下の研究者（国内外を問わない）に対して塚原仲晃記念賞を贈呈します。

褒 賞 金：贈呈件数は原則として 1 件とし、賞牌ならびに副賞（150 万円）を贈呈します。

推薦締切日：平成 26 年 10 月 10 日（金）とします。

推 薦 者：候補者の業績についてよく知る人。（1 推薦者から 1 件に限ります。）

推薦方法：所定の推薦書に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。

推薦書は下記の URL から表示、印刷できます。

※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。

塚原仲晃記念賞受賞候補者推薦書 >><http://www.bs-fjp/tsukahara.html#yoryo>

審査方法：ブレインサイエンス振興財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。

審査結果の通知：平成 27 年 3 月末日までに推薦者および受賞者あてに通知します。

賞牌ならびに副賞の贈呈：贈呈決定者に対して別途通知します。

推薦書提出先および連絡先：公益財団法人ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20

電話（03）3273-2565（直通）

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団 第 29 回研究助成候補者応募要領

趣 旨：脳科学の広い分野における研究に対して助成を行いますが、特に、脳のメカニズムを解明する独創的な研究計画の助成に重点をおきます。研究分野は実験研究のみならず、理論、モデリング研究をも含みます。

研究助成額：助成額は 1 件 100 万円、助成件数は 15 件以下とします。

応募締切日：平成 26 年 10 月 10 日（金）とします。

応募方法：所定の応募用紙に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。

（研究についての問い合わせ可能な所属長名を明記して下さい。）

応募用紙：応募用紙は下記の URL から表示、印刷できます。

※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。

研究助成候補者応募用紙 >><http://www.bs-f.jp/kenjo.html#yoryo>

審査方法：ブレインサイエンス振興財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。

採否の通知：平成 27 年 3 月末日までに応募者宛て採否を通知します。

助成金の交付：平成 27 年 6 月末日までに助成決定者の指定口座に振り込みます。

助成金の使途：助成金は応募用紙記載の通り使用することを原則とします。なお、経理報告書を平成 28 年 5 月末日までに提出して下さい。

成果の報告：平成 28 年 5 月末日までに、研究成果報告書を提出して下さい。また、助成金による研究を専門誌に載せる場合には、「公益財団法人ブレインサイエンス振興財団（英文 =Brain Science Foundation）の助成による」旨を書き添えて下さい。

推薦書提出先および連絡先：公益財団法人ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20

電話（03）3273-2565（直通）

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団 第 28 回海外派遣研究助成候補者応募要領

趣 旨：我が国におけるブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間（6ヶ月以内）の共同研究のための研究者の海外派遣を助成します。但し、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 1 日の間に出発できるものに限りします。

助成予定額：1 件あたりの助成額は往復の航空運賃を主とし、30 万円までを限度として必要額を若干件数助成します。

応募締切日：平成 27 年 1 月 9 日（金）とします。

応募方法：所定の応募用紙に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。

○学会、シンポジウム等の問い合わせ可能な所属長の名前を明記して下さい。

○受入先の承諾書を添付して下さい。

（学会、シンポジウム等参加の場合は参加証明書または招待状の写し。短期の共同研究の場合は受入機関または共同研究者の手紙の写し。）

応募用紙：応募用紙は下記の URL から表示、印刷できます。

※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。

海外派遣研究助成候補者応募用紙 >>>http://www.bs-f.jp/kokusai_haken.html#yoryo

審査方法：ブレインサイエンス振興財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。

採否の通知：平成 27 年 3 月末日までに応募者宛て採否を通知します。

助成金の交付：平成 27 年 4 月 1 日以降出発時期に応じて助成決定者の指定口座に振り込みます。

助成金の使途：助成金は応募用紙記載のとおり使用することを原則とします。

成果の報告：帰国後 2 ヶ月以内に、派遣の成果についての報告書及び派遣助成金の使途内訳を提出して下さい。

応募用紙提出先および連絡先：公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20

電話（03）3273-2565（直通）

公益財団法人 ブレインサイエンス振興財団 第 28 回海外研究者招聘助成候補者申込要領

趣 旨：ブレインサイエンス研究分野において、独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間（3ヶ月以内）の招聘を助成します。但し、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の間に招聘するものとします。

また、助成金は招聘する受入責任者に交付します。

招聘助成予定額：1 件あたりの助成額は往復の航空運賃を主とし、30 万円までを限度として必要額を若干件数助成します。

申込締切日：平成 27 年 1 月 9 日（金）とします。

申込方法：所定の申込書に必要事項を記入し、ブレインサイエンス振興財団に提出して下さい。

申込書は下記の URL から表示、印刷できます。

※必ず片面印刷でご提出下さい（両面印刷はご遠慮下さい）。

海外研究者招聘助成候補者申込書 >>>http://www.bs-f.jp/kokusai_syouhei.html#yoryo

審査方法：当財団の選考委員会において審査選考し、理事会において決定します。

採否の通知：平成 27 年 3 月末日までに申込者あて採否を通知します。

助成金の交付：平成 27 年 4 月 1 日から必要に応じて受入責任者あて指定口座に振り込みます。

助成金の使途：助成金は申込書記載のとおり使用することを原則とします。

成果の報告：招聘後 2 ヶ月以内に、招聘の成果報告書及び招聘助成金の使途内訳を提出して下さい。

申込書提出先および連絡先：公益財団法人ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20

電話 (03) 3273-2565 (直通)

女性科学者に明るい未来をの会 第 35 回 (2015 年) 猿橋賞

対 象：推薦締切日に 50 才未満で、自然科学の分野で、「創立の主旨に沿った」優れた研究業績を収めている女性科学者

表彰内容：賞状、副賞として賞金 30 万円、1 件 (1 名)

応募方法：女性科学者に明るい未来をの会ホームページ <http://www.saruhashinet/> から推薦書類をダウンロードし、A4 用紙に印刷して①推薦者 (個人・団体、自薦も可)・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目②推薦理由 (800 字程度)、及び③研究題目に関連する主な業績リスト (指定は 1 頁です。やむを得ない場合でも追加は 1 頁までです) を記入して、主な論文別刷 5 編程度 (各 2 部、コピーも可) を添え、下記推薦書類送付先までお送り下さい。

日本神経化学会の推薦をご希望の方は、日本神経化学会研究助成金等候補者選考委員会宛てにご送付下さい。同委員会では選考の上、推薦候補者を決定致します。

締 切 日：2014 年 11 月 30 日 (日) 必着

日本神経化学会の推薦をご希望の方は 2014 年 11 月 14 日 (金) 必着

推薦書類送付先：〒270-1147 千葉県我孫子市若松 165-5 女性科学者に明るい未来をの会

※上記宛先は推薦書受付専用です。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却致しませんのでご了承下さい。

お問合せ先：女性科学者に明るい未来をの会事務局

E-mail saruhashi2015@saruhashinet

今後、募集要項に変更がある場合は、女性科学者に明るい未来をの会ホームページに掲載致しますので、応募の際は同ホームページをご確認下さい。

公益財団法人山田科学振興財団 2017 年度 国際学術集会開催助成のご案内

援助の主旨及び内容：山田科学振興財団は、自然科学の基礎的分野における国際学術集会の主たる開催費を援助いたします。以下の要件を満たす学術集会を山田コンファレンスもしくは山田シンポジウムと称し、これらの開催を援助するために提案を募集します。

- 1) 基礎科学の適切なテーマについて、国際的視野で最高レベルの研究の現状を総括する。
- 2) 基礎科学研究者の世代間の対話によって、若い世代の研究の発展の基礎を構築する。

- 3) 基礎科学の異分野間の交流を図り、cross disciplinary な討論を通じて、新しい発展を模索する。

応募者資格：応募者（主催責任者）の身分、経歴、年齢等は問いません。但し、日本の研究機関に所属する研究者であることが必要です。

助成金額：総額 800 万円以内

応募方法：財団ホームページにて「公募要項」をご覧の上、ご応募下さい。

募集期間：2014 年 4 月 1 日（火）～2015 年 2 月 27 日（金）必着

開催時期：2017 年度開催予定の国際学術集会

選考結果の通知：2015 年 8 月初旬にホームページにて発表

応募書類送付先及び連絡先：公益財団法人 山田科学振興財団（Yamada Science Foundation）

〒544-8666 大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号

電話 大阪（06）6758-3745（代表）

【セミナー・講習会】

財団法人千里ライフサイエンス振興財団セミナー —免疫・感染症シリーズ第5回—「話題のウイルス感染症の正体とその対策」

日 時：2014 年 10 月 24 日（金）10：00-16：10

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5 階山村雄一記念ライフホール
（地下鉄千里中央駅前北出口すぐ/大阪モノレール「千里中央」駅より徒歩 5 分）

趣 旨：地球環境の変化や人的要因によって、ウイルス感染症の様相は大きく変わりつつあります。2002 年に突如として出現した重症急性呼吸器症候群（SARS）、インフルエンザの大流行の予兆、ダニ媒介ウイルス感染症、さらに、有効なワクチンがあるにもかかわらず流行が続く麻疹や風疹等、我々がいかにウイルス感染症に対して無防備であるかを思い知らされます。本セミナーでは、我が国で問題となっているウイルス感染症の最新の研究成果と予防治療法に関して、我が国を代表する研究者をお呼びして、分かりやすく紹介して頂きます。

コーディネーター：大阪大学微生物病研究所免疫不全疾患研究分野・教授 木下タロウ
大阪大学微生物病研究所分子ウイルス分野・教授 松浦 善治

プログラム：

10：00-10：15 はじめに

大阪大学微生物病研究所分子ウイルス分野・教授 松浦 善治

10：15-10：55 HIV/AIDS

大阪大学微生物病研究所ウイルス感染制御分野・教授 塩田 達雄

10：55-11：35 C 型肝炎ウイルス研究の新展開

神戸大学大学院医学研究科微生物学分野・准教授 勝二 郁夫

昼食

13：00-13：40 ロタウイルス感染症とその防御

藤田保健衛生大学ウイルス・寄生虫学講座・教授 谷口 孝喜

13：40-14：20 麻疹ウイルスならびにその関連ウイルスの最新事情

国立感染症研究所ウイルス第三部・部長 竹田 誠

休憩

14：40-15：20 新規ウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群、の発見とその後の対応

国立感染症研究所ウイルス第一部・部長 西條 政幸

15:20-16:00 鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ～その正体と対策の要点～

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター・統括 喜田 宏

16:00-16:10 おわりに

大阪大学微生物病研究所免疫不全疾患研究分野・教授 木下タロウ

定 員: 200 名 (お申込順: 定員になり次第、締め切らせて頂きます。)

参 加 費: 無料 (要事前申込)

お申込方法: 以下の要領にてお申込み下さい。

①名、勤務先、所属、役職名、〒、所在地、電話番号を明記の上、E-mail で (tkd@senri-life.or.jp 宛) お申込み下さい。

②千里ライフサイエンス振興財団セミナー事務局より参加証 (セミナー当日、受付に提示) をお送りします。

お申込み & お問合せ先: 公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル 20 階

TEL 06-6873-2001 FAX 06-6873-2002

E-mail: tkd@senri-life.or.jp URL <http://www.senri-life.or.jp>

大阪大学蛋白質研究所セミナー

「情報統合による意思決定の神経基盤—神経回路機構とその形成発達」

日 時: 2014 年 11 月 27 日 (木)～28 日 (金)

場 所: 大阪大学吹田キャンパス・大阪大学蛋白質研究所一階講堂

プログラム:

11 月 27 日 (木) 13:00-18:00

大脳皮質感覚野における神経活動に依存した軸索分岐の分子機構

山本 亘彦 (阪大院・生命機能)

脳内情報統合の基盤とその形成

佐藤 真、岡 雄一郎 (阪大院・医)

マウスの視覚記憶依存的タスクの神経基盤

澁木 克栄 (新潟大・脳研)

視覚情報の統合機序およびその機能的役割

七五三木 聡 (阪大院・医)

ショウジョウバエを用いた脳神経回路のコネクトミクス解析

伊藤 啓 (東大・分生研)

扁桃体を構成する神経細胞の発生機序と機能

江角 重行 (熊大院・生命科学)

主嗅覚系と鋤鼻嗅覚系の統合によるマウス社会行動の制御

松尾 朋彦、小早川 令子、小早川 高 (大阪バイオ研)

嗅覚情報受容と情動判断

坂野 仁 (福井大・医)

11 月 28 日 (金) 10:00-12:00

学習中の神経回路のイメージング

小宮山 尚樹 (カリフォルニア大・サンディエゴ校)

意思決定における大脳基底核神経回路

正田 貴俊 (京大院・医)

恐怖と攻撃における意思決定の神経回路

岡本 仁 (理研・脳科学総研セ)

エビデンスに基づく注意欠陥多動性障害 (ADHD) の治療戦略: 薬剤導入による脳機能変化

友田 明美 (福井大・子どものこころセ)

参加費・申込：不要

世話人：佐藤 真（阪大院・医）、吉川 和明（阪大・蛋白研）

連絡先：吉川 和明 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 3-2

大阪大学蛋白質研究所 神経発生制御研究室

TEL：06-6879-8621 FAX：06-6879-8623

<http://www.protein.osaka-u.ac.jp/regulation>

日本神経化学会 賛助会員

旭化成ファーマ株式会社

株式会社エイコム

シスメックス株式会社

大正製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所

Meiji Seika ファルマ株式会社

レノバサイエンス株式会社

(50 音順)

日本神経化学会雑誌「神経化学」投稿規定

1. 日本神経化学会の機関誌として、日本神経化学会及び関連学会の活動に関する記事、神経化学領域の研究紹介等の投稿を受け付けます。学会からの依頼原稿以外については、投稿前に、日本神経化学会事務局または出版・広報委員会の「神経化学」編集委員長にご相談下さい。なお、大会号の掲載記事については、大会プログラム委員会の指示に従って下さい。
2. 投稿原稿の著者は、すべて日本神経化学会の会員である必要があります。非会員による記事については、日本神経化学会の承認が得られた場合にのみ掲載します。
3. 投稿内容は、他誌に掲載されておらず、また投稿中でもないものに限りします。
4. 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）を含む著作権及び出版著作権は、日本神経化学会に帰属します。なお、ここでいう「著作物」とは、紙媒体に限らず電子媒体も含むものとします。ただし、著者自身による使用を拘束するものではありません。
5. 投稿原稿の採否は、通常号については出版・広報委員会が、大会号については大会プログラム委員会が決定します。受理した原稿の体裁は、全体の統一のため出版・広報委員会または大会プログラム委員会において修正することがあります。
6. 執筆要領
(以下は通常号についての要領です。大会号については、大会プログラム委員会の指示に従って下さい。)
 - 1) 原稿は全て電子情報化して下さい。本文は一般的な文書作成ソフト (Microsoft Office Word 等) にて入稿をお願い致します。図表・写真も、jpeg、tiff、Illustrator、PowerPoint、Excel 等、一般的に使われているデータ形式でご用意ください。解像度については、できる限り高い状態のものでお願い致します。電子情報化できない図表・写真に関しましては、制作会社でスキャニング処理を致しますので原稿をお送り下さい (郵送時等に破損する可能性がありますので、極力電子化をお願い致します)。
 - 2) 「神経化学」は、電子媒体を含めて日本神経化学会が独自の著作権をもつ雑誌ですので、お使いになる図表や写真については他の雑誌との複版にならないようご注意ください。複版の場合は必要に応じた許諾を事前に必ずとっていただきますようお願い致します。
 - 3) 字数制限は設けません。ご参考までに、既刊の「神経化学」をご覧ください。
 - 4) 原稿はプリント出力したもの (図表、写真は、まとめて添付し、本文中に挿入されるべき位置を明示する) と電子媒体 (CD ないしは USB メモリー) の両者をお送り下さい。例外として、文章のみの原稿は学会から E-メール添付ファイルとして送付していただく依頼をした場合に限り E-メールに添付してご送付下さい。
 - 5) 引用文献は、本文中には文献番号を引用順に括弧に入れて示し、本文の最後一括して引用順に並べて記載して下さい。詳細は、既刊の「神経化学」をご覧ください。
例：
 - 1) Sekine, K., Honda, T., Kawauchi, T., Kubo, K. and Nakajima, K. The outermost region of the developing cortical plate is crucial for both the switch of the radial migration mode and the Dab1-dependent “inside-out” lamination in the neocortex. *J Neurosci*, 31, 9426-39 (2011).
 - 2) ...
- 6) 投稿原稿の著者以外による未発表データ等を “personal communication” や “unpublished data” として記載する場合は、公表に関してご本人の同意があることを証明できる文書を投稿時に必ず添付していただきますようお願い致します。
- 7) 原稿の送付先は、学会から著者の方に直接お知らせします。
- 8) 投稿内容に関連して開示すべき利益相反 (conflict of interest) がある場合には、その内容を記事の末尾等に記載して下さい。利益相反に関する一般的な概念については、“Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals” (http://www.icmje.org/ethical_4conflicts.html) をご参照下さい。

複写をご希望の方へ

日本神経化学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(一社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が公益社団法人日本複製権センター((一社)学術著作権協会が社内利用目的の複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はございません。(社外頒布目的の複写については、許諾が必要です。)

権利委託先：一般社団法人 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3 階

電話：03-3475-5618 FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(一社)学術著作権協会に委託致しております。直接日本神経化学会(E-mail：jsn@imic.or.jp FAX：03-5361-7091)へお問い合わせ下さい。

Reprographic Reproduction outside Japan

Making a copy of this publication.

Please obtain permission from the following Reproduction Rights Organizations(RROs)to which the copyright holder has consigned the management of the copyright regarding reprographic reproduction. Obtaining permission to quote, reproduce; translate, etc. Please contact the copyright holder directly.

Users in countries and regions where there is a local PRO under bilateral contract with Japan Academic Association for copyright Clearance (JAACC).

Users in countries and regions of which RROs are listed on the following website are requested to contact the respective RROs directly to obtain permission.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Website <http://www.jaacc.jp/>

E-mail info@jacc.jp

FAX +81-33475-5619

神経化学 53巻 第2号

平成 26 年 9 月 10 日発行

編集兼発行者 日本神経化学会

代 表 者 木山 博資

発 行 者 日本神経化学会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館

一般財団法人 国際医学情報センター内

印 刷 所 株式会社 杏林舎

.....



創薬 処方せん医薬品^{注)}

ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 薬価基準収載



レナロン[®]錠 15mg

ミルタザピン錠

REMERON[®] Tablets 15mg

^{注)} 注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細につきましては添付文書をご参照下さい。



MSD

製造販売元〔資料請求先〕

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア

<http://www.msd.co.jp/>

【MSDカスタマーサポートセンター】

医療関係者の方: フリーダイヤル 0120-024-961

〈受付時間〉 9:00~17:30 (土日祝日・当社休日を除く)

2012年4月作成
REM12AD030-0417



神経伝達研究用試薬

Acetylcholine Chloride	25g 4,000円 / 500g 38,700円 [A0084]	Mirtazapine	100mg 11,200円 / 1g 56,000円 [M2151]
Acamprosate Calcium	1g 19,600円 [A2359]	Molindone Hydrochloride	100mg 6,000円 / 1g 34,000円 [M2252]
Amantadine Hydrochloride	10g 4,900円 / 25g 8,600円 / 250g 42,600円 [A0588]	Neostigmine Bromide	5g 6,000円 / 25g 17,600円 [N0358]
Amisulpride	100mg 7,800円 / 1g 35,500円 [A2450]	Neostigmine Methyl Sulfate	5g 7,400円 / 25g 22,900円 [N0447]
Amoxapine	1g 10,000円 / 5g 35,000円 [A2499]	Nipecotic Acid	25g 6,000円 / 500g 52,100円 [N0420]
Aripiprazole	1g 6,200円 / 5g 21,600円 [A2496]	Olanzapine	1g 7,700円 / 5g 26,500円 [O0393]
Atropine	5g 8,700円 / 25g 29,500円 [A0754]	Ondansetron Hydrochloride Dihydrate	1g 6,500円 / 5g 19,800円 [O0407]
Atropine Sulfate Monohydrate	5g 4,600円 / 25g 14,900円 [A0550]	Orphenadrine Hydrochloride	5g 3,500円 / 25g 11,800円 [O0406]
Atomoxetine Hydrochloride	100mg 8,700円 / 1g 50,000円 [A2357]	Oxcarbazepine	5g 5,700円 / 25g 17,100円 [O0363]
Baclofen	5g 10,100円 / 25g 35,200円 [B3343]	Paliperidone	200mg 19,300円 / 1g 67,800円 [P1897]
(+)-Bicuculline	25mg 5,600円 / 100mg 17,000円 [B1890]	Palonosetron Hydrochloride	200mg 12,500円 / 1g 43,600円 [P2051]
Carbamazepin	10g 5,100円 / 25g 10,300円 [C1095]	Paroxetine Hydrochloride Hemihydrate	1g 9,800円 / 5g 34,300円 [P1977]
Chlorpromazine Hydrochloride	5g 3,600円 / 25g 11,200円 [C2481]	Pentobarbital Sodium Salt	25g 11,800円 [P0776]
Citalopram Hydrobromide	1g 8,900円 / 5g 30,800円 [C2370]	Perphenazine	5g 9,800円 / 25g 34,300円 [P1970]
(S)-Citalopram Oxalate	200mg 6,000円 / 1g 21,000円 [E0958]	Phenobarbital Sodium Salt	25g 2,600円 [P0890]
Clozapine	100mg 15,400円 / 1g 78,100円 [C2547]	Phenytoin	25g 2,400円 / 500g 21,200円 [D0894]
Domperidone	200mg 9,900円 / 1g 34,500円 [D4125]	Piribedil	200mg 9,300円 / 1g 31,700円 [P2054]
Donepezil Hydrochloride	1g 7,500円 / 5g 26,000円 [D4099]	Pramipexole Dihydrochloride Monohydrate	100mg 12,500円 / 1g 70,000円 [P2073]
Dopamine Hydrochloride	1g 2,300円 / 5g 4,800円 / 25g 13,400円 [A0305]	Primidone	5g 3,000円 / 25g 8,900円 [P1906]
Droxidopa	50mg 11,000円 / 200mg 32,000円 [D4235]	Propofol	25g 4,800円 / 500g 39,800円 [D0617]
Duloxetine Hydrochloride	1g 9,200円 / 5g 32,200円 [D4223]	Quetiapine Hemifumarate	5g 8,800円 / 25g 31,000円 [Q0092]
Ethosuximide	5g 7,600円 / 25g 23,400円 [E0746]	Reserpine	1g 8,600円 / 5g 24,500円 [R0007]
Fluoxetine Hydrochloride	1g 5,300円 / 5g 16,400円 [F0750]	Rimantadine Hydrochloride	5g 8,800円 [R0070]
Fluvoxamine Maleate	1g 6,500円 / 5g 22,800円 [F0858]	Risperidone	50mg 10,800円 / 500mg 52,400円 [R0087]
GABA	25g 2,400円 / 500g 14,800円 [A0282]	Rivastigmine L-Tartrate	1g 14,000円 / 5g 48,900円 [R0093]
Gaboxadol Hydrochloride	25mg 7,300円 [G0405]	Rocuronium Bromide	100mg 8,700円 [R0099]
Galantamine Hydrobromide	100mg 10,100円 / 1g 58,000円 [G0293]	Rolipram	50mg 10,000円 / 250mg 35,000円 [R0110]
Glycopyrrolate	100mg 17,300円 [G0392]	Sertraline Hydrochloride	1g 6,500円 / 5g 22,500円 [S0507]
Granisetron Hydrochloride	200mg 9,000円 / 1g 31,500円 [G0401]	(S)-(-)-Sulpiride	5g 6,500円 / 25g 19,900円 [I0821]
Haloperidol	5g 5,000円 / 25g 15,000円 [H0912]	Sumatriptan Succinate	100mg 8,000円 / 1g 39,000円 [S0851]
Homotaurine	5g 9,700円 / 25g 33,200円 [A2602]	Taurine	25g 1,700円 / 500g 5,500円 [A0295]
Ipratropium Bromide Monohydrate	200mg 7,600円 / 1g 26,400円 [I0907]	Tetrabenazine	200mg 8,800円 / 1g 30,800円 [T2839]
Iproniazid	200mg 4,700円 / 1g 14,600円 [I0893]	Thiocolchicoside	20mg 15,200円 [T2919]
Levodopa	5g 3,400円 / 25g 9,200円 [D0600]	Tizanidine Hydrochloride	5g 4,200円 / 25g 12,600円 [T2527]
Lamotrigine	1g 6,800円 / 5g 23,800円 [L0241]	Trifluoperazine Dihydrochloride	5g 6,000円 / 25g 21,000円 [T2849]
Lomerizine Dihydrochloride	200mg 5,700円 / 1g 19,800円 [L0245]	Tropisetron Hydrochloride	1g 10,500円 / 5g 36,500円 [T2743]
Maprotiline Hydrochloride	1g 8,900円 / 5g 31,200円 [M2527]	Valproic Acid Sodium Salt	25g 4,900円 / 100g 14,900円 [S0894]
Memantine Hydrochloride	5g 9,000円 / 25g 31,400円 [D3608]	Venlafaxine Hydrochloride	1g 5,100円 / 5g 16,800円 [V0110]
Metoclopramide	5g 3,400円 / 25g 11,000円 [M2218]	Zolmitriptan	200mg 4,500円 / 1g 16,000円 [Z0024]
Milnacipran Hydrochloride	50mg 10,100円 / 500mg 51,200円 [M2133]	Zopiclone	100mg 11,500円 / 1g 65,200円 [Z0018]

これらの製品はすべて“試薬”です。試験・研究用にご使用ください。

各製品の詳細はホームページで ▶▶▶ 神経伝達



新版 試薬カタログ 2014-2015

約23,000品目を収録

無料でお届けします▶▶▶ www.TCIchemicals.com/ja/jp/catalog/

東京化成工業株式会社

お問い合わせは 東京化成販売(株) Tel: 03-3668-0489 Fax: 03-3668-0520
大阪営業所 Tel: 06-6228-1155 Fax: 06-6228-1158

f facebook.com/tci.jp

TCIchemicals.com/ja/jp/

twitter.com/TCI_J

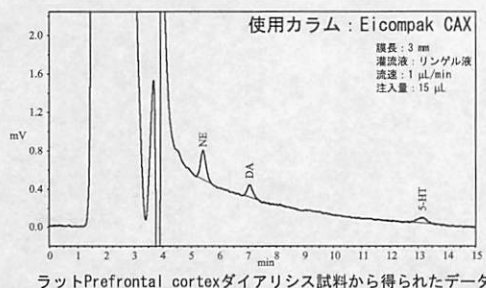
高感度・高安定型 微量生体試料分析システム



HTEC-500

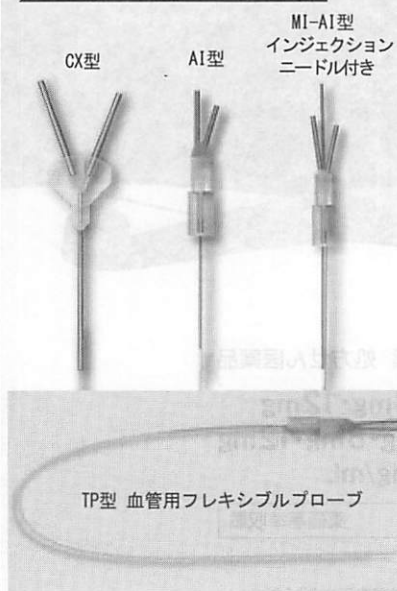
生体微量成分の高感度検出に必要な機能をコンパクトに一体化しました

- オールインワンシステムにより、比類なき高感度と安定性を実現しました
- Dopamine及びSerotoninでは絶対感度30fgを達成しています
- 脳マイクロダイアリシス試料中Norepinephrine、Dopamine及びSerotoninの同時測定も可能です



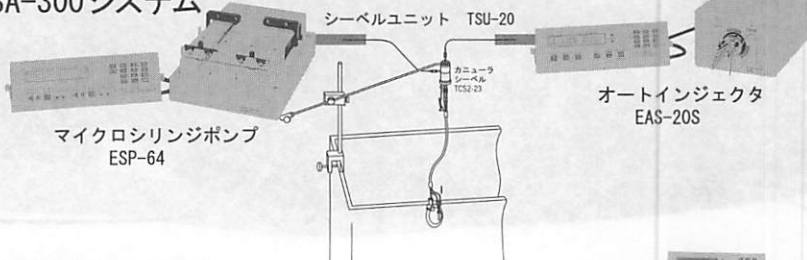
マイクロダイアリシスプローブ&アクセサリ

透析プローブ

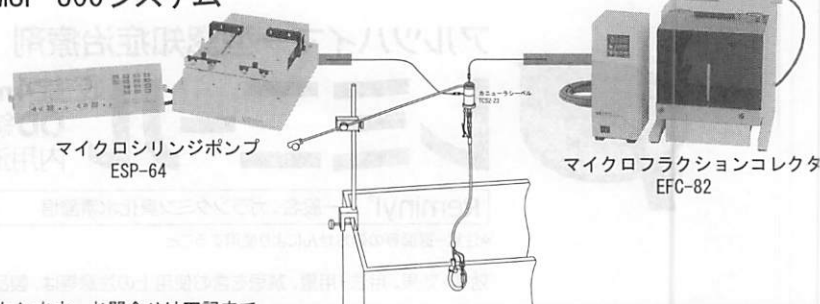


サンプリングシステム

MSA-300システム



MSF-300システム

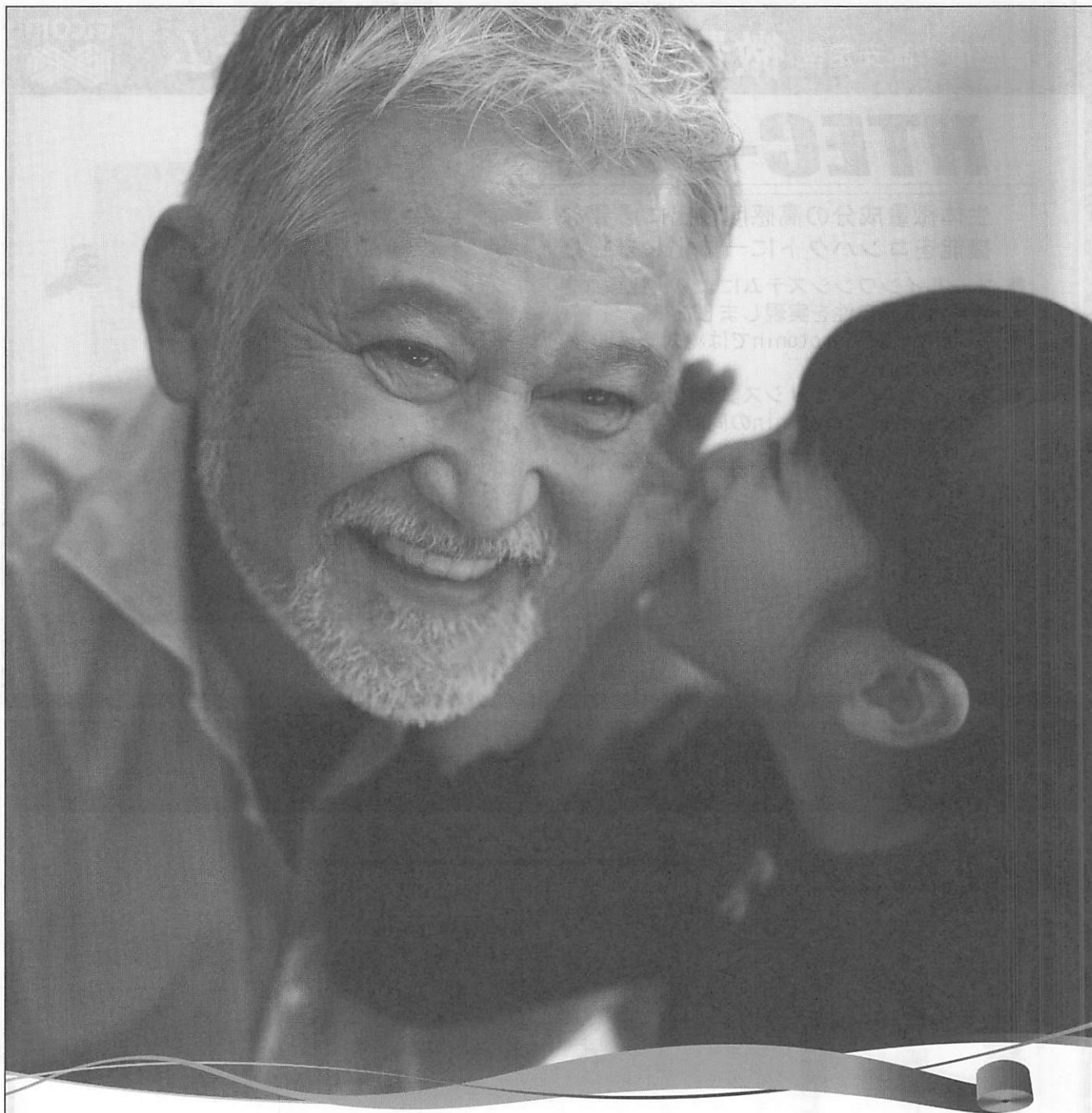


特注透析プローブの作製など各種カスタマイズ対応いたします。お問合せは下記まで。



株式会社
エイコム

本社: 京都市伏見区下鳥羽北円面田町113 〒612-8497
 TEL 075-622-2112(代表) FAX 075-622-2114
 東京営業所: TEL 03-3818-5223(代表) FAX 03-3818-4540
 Web: <http://www.eicom.co.jp>



アルツハイマー型認知症治療剤 劇薬 処方せん医薬品*

レミニール[®] 錠4mg・8mg・12mg
OD錠4mg・8mg・12mg
内用液4mg/mL

Reminyl[®] 一般名：ガランタミン臭化水素酸塩

薬価基準収載

*注意-医師等の処方せんにより使用すること

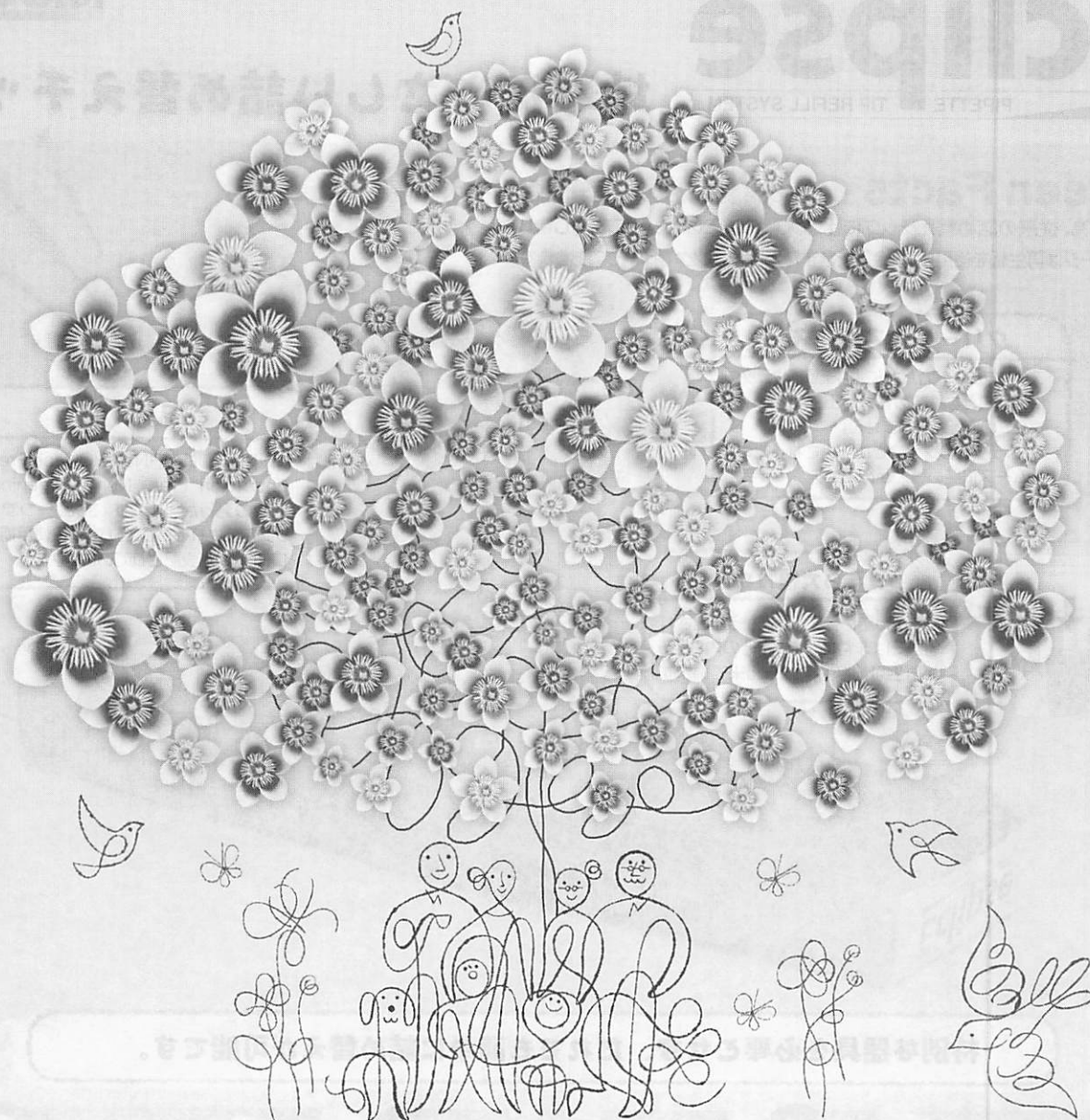
効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

janssen 

製造販売元（資料請求先）
ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2
URL: <http://www.janssen.co.jp>



販売提携（資料請求先）
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp>



「つながり」をもっと大切に。

患者さんの“その人らしさ”を守りたい。

タケダのさらなる挑戦は続きます。

メラトニン受容体アゴニスト
処方せん医薬品^{※1}

薬価基準収載



ロゼレム錠 8mg

ラメルテオン錠



アルツハイマー型認知症治療剤 創薬 処方せん医薬品^{※1}

レミニール® 錠 4mg・8mg・12mg
OD錠 4mg・8mg・12mg
内用液 4mg/mL

Reminyl® 一般名：ガランタミン臭化水素酸塩 薬価基準収載

janssen

製造販売元
ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2
URL: <http://www.janssen.co.jp>

提携
武田薬品工業株式会社
〒640-8645 大阪府中央区道頓堀町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp>

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

2012年11月作成



(資料請求先)

武田薬品工業株式会社

医薬営業本部
〒103-8668 東京都中央区日本橋二丁目12番10号

地球にやさしい詰め替えチップ。

Green Facts

Eclipse 詰め替えチップは地球環境への負担を減らす為、従来の詰め替えチップに比べ大幅にゴミのカットに成功しました。
パッケージは再生紙を使用し、重金属を含まない大豆インクで印刷しております。

クリーン&スムーズ

スナップロードカバーによりチップやラックに触ることなく詰め替えが出来るため、コンタミの心配がありません。
また、チップのグラつきが防止されるため、スムーズに詰め替えが行えます。

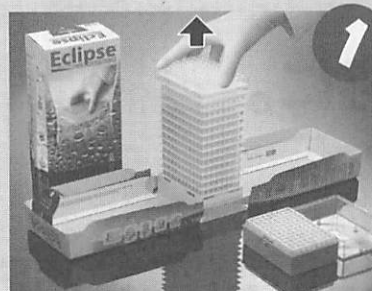
ゴミの大幅カット

Eclipse詰め替えチップから排出されるゴミは非常に少なく、その内95%が再生可能な材料から出来ています。

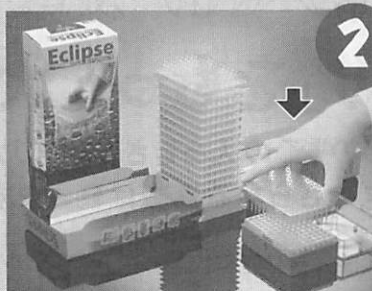
品質

ロット毎にDNA/RNase/DNase Free、Endotoxin Free、Non-Pyrogenicの証明書の発行が可能です。また、一つずつパック包装されており、各パックに使用期限とロットNo.が表記されています。

特別な器具を必要とせず、だれでも簡単に詰め替えが可能です。



透明のスナップロードカバーにしっかりとはめ込み、ゆっくりと真上に持ち上げる。



チップをラックにセットする。



スナップロードカバーを上から押し込み、ラックにプレートを固定させて完成。

詳細は弊社ホームページを参照下さい。 <http://www.bio-bik.co.jp>

INA・OPTIKA

株式会社 イナ・オプティカ

本社

〒530-0043 大阪市北区天満2-1-29 (オプテックダイエービル)
TEL: 06-6882-6006 FAX: 06-6882-6116

E-mail: info@bio-bik.co.jp

福岡営業所

TEL: 092-477-2620 FAX: 092-477-2621

長野営業所/信州配送センター

TEL: 0265-86-2434 FAX: 0265-86-5613



検査でつながる、健やかな未来

「良かったね」「安心した」。そんな言葉が、シスメックスにとって最高のよろこびです。

総合血液検査のフロントランナーとして、安心して暮らせる健康的な毎日を応援。

その仕事は検査機器の提供だけにとどまりません。

試薬や高度な情報管理、充実したカスタマーサポートなど、

独自のトータルソリューションで安全と安心を追求。検査環境を総合的にサポートしていきます。

シスメックスはこれからも新たな価値を提案するとともに、

予防・未病などにも検査領域を広げ、人々の健康と元氣な未来を応援していきます。

シスメックスの
トータル
ソリューション

- 高精度で信頼性の高い検査を支援
- スペースやライフサイクルを最適化
- 使う人を第一にしたユーザビリティを追求
- 安心・安全のカスタマーサポート体制を提供
- 検査の効率的な運用を提案

総合的に
検査環境を
サポート

●パンフレット、資料は下記にご請求ください。

We Believe the Possibilities.

製造販売元

シスメックス株式会社

本社 神戸市中央区臨浜海岸通1-5-1 〒651-0073

国内事業推進本部 Tel 078-992-6124

支店 仙台 022-722-1710 北関東 048-600-3888 東京 03-5434-8550 名古屋 052-775-8101 大阪 06-6337-8300 広島 082-248-9070 福岡 092-411-4314
営業所 札幌 011-700-1090 盛岡 019-654-3331 長野 0263-31-8180 新潟 025-243-6266 千葉 043-297-2701 静岡 054-287-1707 金沢 076-221-9363
京都 075-801-3196 神戸 078-251-5331 高松 087-823-5801 岡山 086-224-2605 鹿児島 099-222-2788

www.sysmex.co.jp



マネジメントシステム認証取得
Certified Management System
• ISO 9001, JIS Q 9001
• ISO 14001, JIS Q 14001
• ISO 13485

注： 記載及びサイトの適応範囲は掲載により異なります。
詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。
Note: Scope of sites and activities vary depending on the standard.
For details, refer to the ID 0910589004 at www.tuv.com

InVitro から InVivo の研究支援機器をサポートします

1. 行動科学評価系研究機器

- 社会性行動機能 ●学習・記憶・空間認知機能 ●協調運動・情動運動機能
- 依存 ●視覚運動機能 ●ヴォーカリゼーション（鳴声）●PPI ●運動 ●生体リズム ●脳光刺激装置（Optogenics） ●痛み・搔痒

2. 代謝機能評価系研究機器

- 摂食・飲水・行動モニターシステム ●小動物用歩行運動機能測定装置 ●小動物用エネルギー代謝測定装置 ●小動物用走行運動負荷装置

3. 一般薬理学・生化学評価系研究機器

- 一般薬理学評価機器 ●筋収縮作用 ●血圧測定 ●血管閉塞 ●輸液注入
- 脳損傷 ●バインディングアッセイ ●脳物質計測 ●蛍光分光光度計 ●マイクロダイアリシス

4. 生理学評価系研究機器

- 睡眠脳波 ●痙攣脳波 ●バイオセンサー ●生体テレメトリーシステム
- 麻酔 ●非侵襲血流量 ●非侵襲血流量 ●脳定位固定（RWD） ●精密手術ツール ROBOZ ●細胞培養 ●神経科学用研究器材

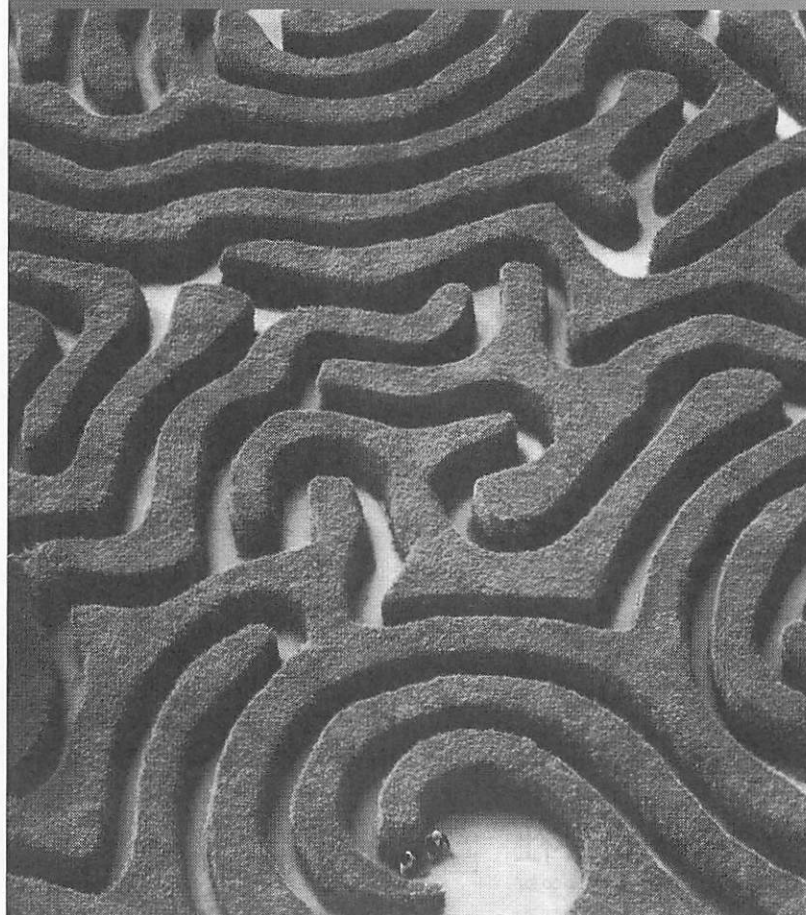
5. 画像診断評価系研究機器

- ニューロン描画・解析システム ●細胞計測用プログラム ●精子画像解析ソフト SCA ●精子検査用ディスポカウンティングチャンバー ●MCID 画像解析ソフト ●小動物用磁気共鳴画像装置（MRI）●MRI 用無麻酔固定コイル ●In vivo X線マイクロCT スキャナ
- 高解像度超音波イメージング装置 DERMICUP
- 全自動脳セクション機能付き多光子共焦点顕微鏡

6. 糖尿・骨代謝・抗加齢研究用機器

- AGE Reader（非侵襲式最終糖酸化物 AGEs 測定装置）

閲覧・お問合せは <http://www.neuro-s.co.jp> をご覧ください



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤

薬価基準収載

サインバルタ® カプセル20mg
カプセル30mg

Cymbalta® デュロキセチン塩酸塩カプセル

創薬、処方せん医薬品^{注1)}

注1) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、
「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、
「禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書等
をご参照下さい。

©: 米国イーライリリー・アンド・カンパニー登録商標

製造販売元 [資料請求先]



シオノギ製薬

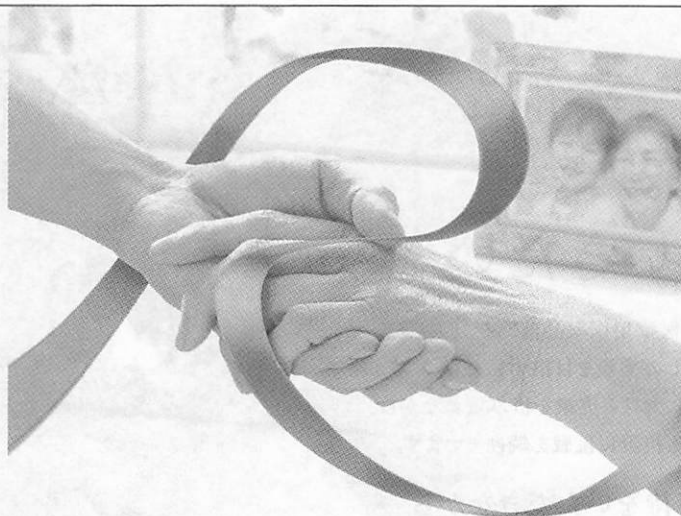
大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045

電話 0120-956-734 (医薬情報センター)

<http://www.shionogi.co.jp/med/>

CYM-KO-102A(B1)

審R8849 2012年2月作成 A42



アルツハイマー型認知症治療剤

薬価基準収載

リバスタッチ® パッチ 4.5mg・9mg
13.5mg・18mg

リバスチグミン経皮吸収型製剤

Rivastigmine transdermal patch

創薬、処方せん医薬品^{注)}

注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

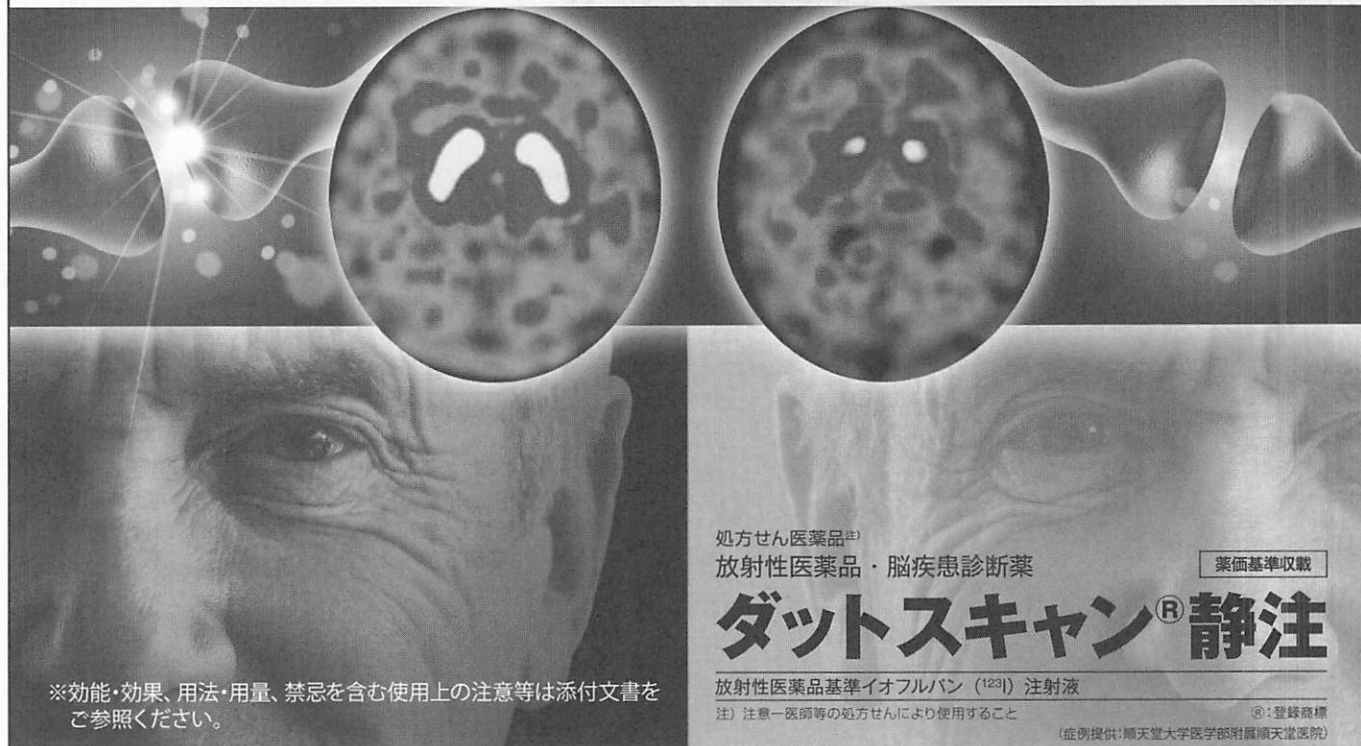


資料請求先

小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

2014年3月作成



処方せん医薬品^{※1}
放射性医薬品・脳疾患診断薬

薬価基準収載

ダットスキャン[®] 静注

放射性医薬品基準イオフルパン (123I) 注射液
注) 注意一医師等の処方せんにより使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

®:登録商標
(症例提供:順天堂大学医学部附属順天堂医院)

資料請求先
 **日本メジフィジックス株式会社**
〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号 <http://www.nmp.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ先
☎0120-07-6941

2013年12月作成



健康を、幸福を、 どこまでも 広げていきたい。

大正製薬グループの医療用医薬品部門を担い、
皆様の健康な暮らしの実現を目指す私たち。
感染症と炎症・免疫領域における実績を積み重ねながら、
より広い領域での貢献も視野に挑戦を続けています。

皆様の信頼と期待をいただきながら
私たちは挑み続けます。

大正製薬グループ
 **大正富山医薬品株式会社**

<http://www.taishotoyama.co.jp/>

TTPA421C
2013年7月作成



選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) 薬価基準収載

ジェイゾロフト[®] 錠 25mg 50mg

JZOLOFT[®] Tablets 25mg・50mg

塩酸セルトラリン錠 劇薬 処方せん医薬品

注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先：製品情報センター

2013年10月作成



大日本住友製薬

抗精神病剤

薬価基準収載

劇薬・処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

ロナセン[®] 錠 2mg・4mg・8mg 散 2%

LONASEN[®] プロナンセリン製剤

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等につきましては添付文書をご参照ください。



製造販売元 (資料請求先)

大日本住友製薬株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり情報センター

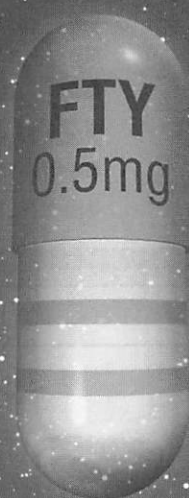
TEL 0120-034-389

受付時間/月～金 9:00～18:30 (祝・祭日を除く)

【医療情報サイト】<http://ds-pharma.jp/>

2011.12作成

※本製品の製造には、高度な技術と厳格な品質管理が行われています。



F T Y 2 0



多発性硬化症治療剤

薬価基準収載

イムセラ[®] カプセル0.5mg

IMUSERA[®] Capsules 0.5mg (フィンゴリモド塩酸塩カプセル)

劇薬 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

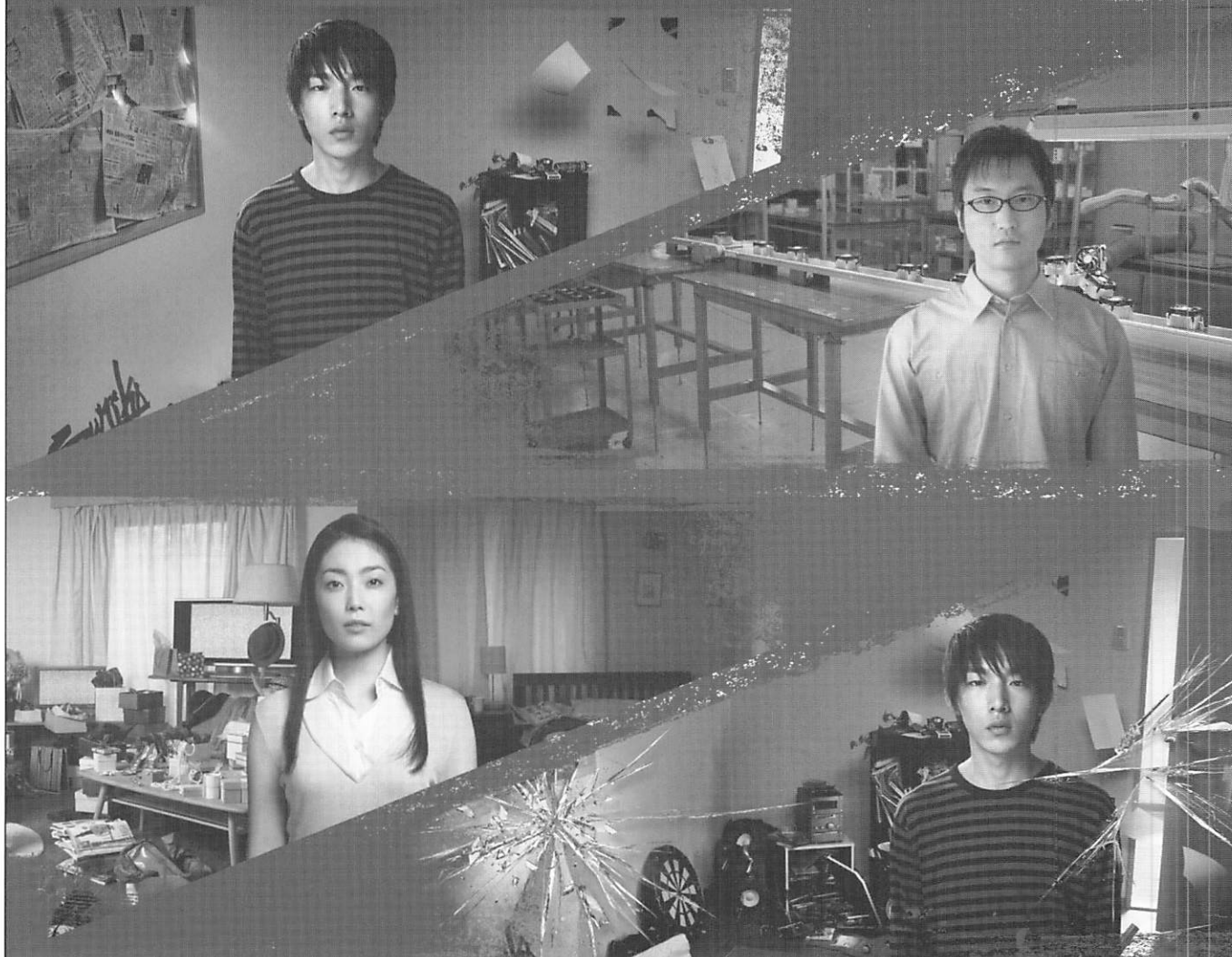
●効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



〈資料請求先〉
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区北浜2-6-18

2013年6月作成

Lilly

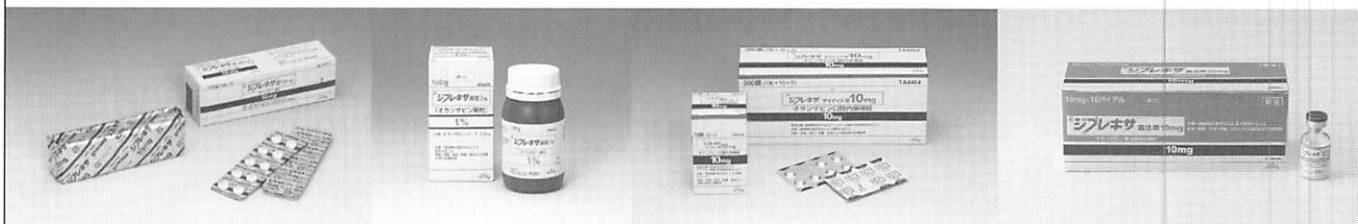


抗精神病薬・双極性障害治療薬
創薬／処方せん医薬品（注意－医師等の処方せんにより使用すること）

ジプレキサ[®] 錠 2.5mg
錠 5mg
錠 10mg
オランザピン 製剤 細粒 1%
zyprexa[®] (OLANZAPINE) サイデス錠 5mg
サイデス錠 10mg
薬価基準収載

抗精神病薬
創薬／処方せん医薬品（注意－医師等の処方せんにより使用すること）

ジプレキサ[®] 筋注用 10mg
オランザピン 速効性筋注製剤
zyprexa[®] Rapid Acting Intra-Muscular Injection 薬価基準収載



効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意につきましては、添付文書をご参照ください。

Zyprexa[®]、ジプレキサ[®]は
Eli Lilly and Companyの登録商標です。

製造販売元〈資料請求先〉

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers

リリーアンサーズ
日本イーライリリー 医薬情報問合せ窓口
www.lillyanswers.jp

医療関係者向け 0120-360-605^{※1}

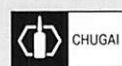
受付時間：月曜日～金曜日 8:45～17:30^{※2}

^{※1} 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。
^{※2} 祝祭日及び当社休日を除きます。

ZYP-A133(R1)
2013年11月作成



中外製薬の挑戦が始まっています。



中外製薬

Roche ロシュグループ